

(丙) 券面額ノ二割五分ヲ拂ヒタル後如何ナル比例ニ由リテ振出人ハ尙拂込ムヘキ義務ヲ免カルヘキヤ否又此ノ場合ニ於キテハ已ニ拂込タル金額ニ對シテ所持人ヘ拂渡スヘキ約束手形又ハ當座預證ヲ振出得ルヤ否ハ會社ノ規約定款ニ於テ定ムヘキモノトス

此場合ニハ敢テ國家ノ特許ヲ要セス(クール、サクセン千八百六十八年六月十五日ノ法律第四十三節參照)

四 記名ノ株券ハ會社ノ規約定款ヲ以テ特別ノ成規ヲ設ケタル時ノ外凡テ裏書ヲ以テ之レヲ讓與スルト得ル然レモ此ノ讓渡ハ常ニ會社ニ通知シ會社ノ株主牒ニ記入セサルヘカラス○會社ハ只々其ノ株主牒ニ記入シタル者ヲ以テ正當ノ株券所持人ト見做シ且ツ會社ハ其ノ正當ノ所持人タルノ證明ヲ求ムルノ權利アレモ之レ

ヲ證明スルノ義務ナキモノトス○未タ全額ノ拂込ヲ爲サ、ル株券ノ讓渡人ハ其ノ殘餘ノ金額ヲ拂込ムヘキ義務ヲ免カル、トナシ但シ會社ニシテ此ノ讓渡人ニ代リテ拂込ムヘキ新讓受人ヲ承認シタル片ニ限りテ舊讓渡人ハ此ノ義務ヲ免ル、ト雖モ讓渡後尙ホ一ケ年間ハ之レカ保證人タル義務ヲ負フヘキモノトス

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第四十四節普國商法第二百二十三條第百八十二條及第百八十三條參照)

五 會社員ハ其ノ已ニ拂込ミタル金額ヲ取戻スト得ス但シ會社閉鎖ノ場合ニハ會社ノ資産ニ對シテ應分ノ金額ヲ請求スルノ權利アルヘキモノトス

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第四十五節普國商法第二百十六條參照)

六 利益金ハ株券ノ高ニ比例シテ社員中ニ分配ス但シ別段ノ定規アルモノハ此ノ限りニアラス○開業後ハ一定ノ利子ヲ定メヌ又々之レヲ拂渡ストナシ然レモ誠意ヲ以テ受取ル所ノ利子及ヒ割引ハ更ニ制限ヲ加フルトナシトス

(千八百六十八年六月十五日ノクロールサクセン法律第四十八節第四十六節第四十七節第十七節及ヒ第五十四節普國商法第二百十七條及第二百十八條參照)

七 會社ノ規約條款ニ於キテ別段ノ規則アルニアラサレハ各株ノ所有者ハ何人ヲ問ハス會社ノ總會ニ於キテ投票ヲ爲スノ權アリ

(千八百六十八年六月十五日ノクロールサクセン法律第四十九節普國商法第二百二十四條參照)

八 最終計算ノ後會社ノ資本金減シテ其ノ半ニ至リタルトアラハ之レヲ報告シテ總會ノ議決ヲ執ラサルヘカラス

(千八百六十八年六月十五日ノクロールサクセン法律第五十節普國商法第二百四十條參照)

九 會社ヲ閉鎖シ若クハ他會社ト合併シタル片ハ閉鎖シ若シクハ合併セラルヘキ會社ノ資産ハ負債ヲ償却シ又ハ充分ノ保證ヲ爲サル間ハ之レヲ別途ノ者トシテ其ノ取扱ヲ爲サルヘカラス

(千八百六十八年六月十五日ノクロールサクセン法律第五十二節普國商法第二百四十七條參照)

十 會社ノ資産ヲ社員中ニ配分スルハ盡ク負債ヲ償却シタル後ニアラサレハ之レヲ爲ストヲ得ス

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第五十三節普國商法第二百四十八條參照)

第九十六節 其ノ他有限責任會社

合資會社ノ名義ニ於ケル者ノ外其ノ他ノ文化發達ノ諸目的ヲ以テ有限責任ノ會社ヲ創立スル丁ヲ得

此等ノ諸會社ハ主トシテ共濟保險ヲ目的トシテ各人一定ノ分割ヲ拂フヘキ者ニ在リ設令ヘハ火災、水災、家畜ノ傳染病等ノ災事ニ備ヘ或ハ養老資金、埋葬料、借地料、治療金等ノ貯蓄ヲ目的トスル者ノ類ヲ云フ且ツ此等ノ會社ハ一定シタル資金額ヲ備ヘス又其ノ社員タル者モ敢テ無限ノ責任ヲ負フヘキモノニアラサルカ故ニ商業上ノ目的ニ出ツル者極メテ稀ナリトス○又此等ノ會社ハ法律上ヨリ之レヲ考察スル片ハ一般合資會社ニ關スル成規ヲ適用スヘキモノニアラス(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第五十六節乃至第五十八節參照)

照)

此等ノ諸會社ハ一定シタル會社資金ノ額ヲ備ヘスト雖其ノ社員ノ責任ハ只々豫メ定メタル一回若クハ數回ノ分割納金ニ限リテ無限ナルモノニアラス

(千八百六十六年六月十五日ノクール、サクセン法律第五十六節千八百六十九年四月廿九日發布結社ノ私法上ニ於ケル關係ヲ定メタルバエールン法律第十一條同年同月同日發布ノ同邦會社法第七十一條乃至第八十條參照)

右バエールン會社法ニ於キテハ有限責任ニ止マル諸會社ハ登記濟有
限責任會社タルヲ明示スヘキヲ定メタリ

右諸會社ニ關スル重要ノ成規ヲ舉クレハ左ノ如シ
一 會社ノ規約定款中ニハ分割納金ノ額若クハ此ノ納金ヲ爲スニ就キテ一定シタル比例ノ標準ヲ示サ、ルヘ

カラス

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第五十六節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン會社法第七十三條同年同月同日同邦結社法第三條及第十一條參照)

二 右等ノ會社ニシテ只々宗教、慈善若クハ公益ノミヲ目的トスル者ニアラス又ハ會社創設ノ始メヨリ其ノ社員ヲ一定シタル人ノミニ限ルモノハ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公示セサルヘカラス

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第五十七節千八百六十九年四月廿九日ノバエールン會社法第七十四條參照)

千八百六十九年四月廿九日ノバエールン結社法第四條乃至第六條ハ只々會社ノ規約定款及社員中ノ關係書ヲ裁判所ニ呈出シ且ツ何人ト雖モ自由ニ此著ノ書類ヲ一覽セシムヘキヲ要スル旨ヲ定ムルノミ

三 共濟保險ヲ業トスル會社ハ其ノ定款ニシテ保險事業計算法ノ原理ニ熟達シ營業上著シキ障礙ナキノ證アリ且會社員ニシテ能ク此ノ義務ヲ盡シ得ヘキ者アル時ノ外法律上無形人タル資格ヲ得有スルノ權利ナシ

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第五十九節參照)

四 埋葬料若クハ治療金貯蓄共濟ノ會社ハ其ノ定款ニ於キテ已得ノ救濟保護ハ本人ノ法衙ニ拘留セラレタル片ハ之レヲ行ハス又ハ分割納金拂込期限ニ際シテハ他人ヲシテ之レニ代ハラシムルヲ禁スル旨ヲ定ムルヲ得

(千八百六十八年六月十五日ノクール、サクセン法律第六十節參照)

五 單ニ社員中ノ共濟保險ヲ以テ目的トセサル會社ニシテ其出金ノ總額ヲ定メ且ツ豫メ其ノ社員タルモノ

數ヲ定ムル者ハ之レヲ合資會社ト見做シ合資會社ニ關
スル成規ヲ適用スルトヲ得

(千八百六十八年六月十五日ノクロールサクセン法律第五十八節千八百
六十九年四月廿九日ノバエールン結社法第一條參照)

六 損益計算ノ上會社入金額ノ喪失ヲ爲スニ至ル片ハ
總集會ヲ開設シ且ツ所轄ノ行政官衙ニ其ノ旨ヲ通報ス
ヘキモノトス

此場合ニ於キテハ行政官衙ハ會社ノ簿冊ヲ檢査シ其ノ事情ヲ明カシ
タル後會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得千八百六十九年四月廿九日ノバエ
ールン會社法第七十七條參照)

(丙) 公立共衆團結
一 教會

第九十七節 國會及教會ノ關係

宗教ハ如何ナル場合ニ於キテモ一定不動ノ根據ヨリ人
類ノ精神上ニ於ケル活動進化ヲ刺衝スルヲ以テ其ノ普
通ノ性質トス而シテ人類ノ活動ハ其ノ精神上ニ於ケル
ト身体上ニ於ケルトヲ問ハス只タ其眞理ニシテ且ツ一
般ナル者ト考察スヘキ一定ノ法則ニ從フヘキモノナレ
ル其眞理ナル者ヲ得ルニハ宗教即チ信仰ニ依リテ得ラ
ルヘキ人類ト眞神ト交通一致スルノ道ヲ棄テ、他ニ求
ムヘキモノアラサルナリ然レモ實際上ヨリ云ハ、斯ル
宗教ノ性質ハ各人各個カ其ノ内ニ存スル信仰及宗旨ニ
存セスシテ却テ人民全体中ニ活動スル我ヨリ外ナル外
物的即チ人民ノ存在及ヒ發達ト相併馳シテ離ルヘカラ
サル古來沿革上ノ宗教ニ存シ現ニ眞理ノ淵源行爲ノ法
則トシテ一般人民ノ活動ヲ規定スル者タリ而シテ獨逸

及ヒ其ノ他ノ文明社會ニ在リテハ此宗教ハ基督教ニ外
ナラストス而シテ基督教會就中其ノ古來ノ沿革ニ成リ
タル者(即チ舊教會、ルーテル派及ヒ改革派教會)ヲ以テ公
ケノ教會ナリト公認スルハ蓋シ之レカ爲メナリ

(本書前第二節附論參照)

(千七百八十八年七月九日ノ普國宗教令第一節千八百十八年五月廿六
日ノバエールン宗教令第二十四節及第二十八節千八百三十四年七月
一日發布ノ希臘教徒ノ民權及政權ニ關スル同邦法律千八百六十七年
十二月二十日ノ澳國々憲第二節千八百六十年十月九日ノバーデン教
會法第一節千八百三十一年九月四日ノクルールサクセン憲法第五十六
節千八百四十年八月六日ノハノーベル憲法第六十三節千八百十九年
九月廿五日ノヴルテンベルヒ憲法第七十節千八百五十二年四月十三
日ノクルヘツセン憲法第百節千八百二十年十二月十七日ノグロスヘ

ツセン憲法第二十一節千八百二十九年八月廿三日ノサクセンマイニ
ンゲン憲法第二十九節千八百三十一年四月廿九日ノサクセンアルテ
ンブルヒ憲法第百二十八節及第二百二十九節千八百四十九年帝國憲法
第百四十七節千八百五十二年十月二十二日ノオルデンブルヒ國憲第
七十四條ツエープロル氏著獨逸國法論第二卷第二百九十三節及第
百三十三節參照)

基督教カ斯ル外形的ノ性質ヲ有スル結果トシテ國家即
チ獨立ナル無形ノ一個人タル資格ヲ有スル人民社會ハ
啻ニ基督教旨ノ眞理ヲ實行セサルヘカラサルノミナラ
ス國家自身モ亦教會ノ地位及ヒ人民カ宗教ノ自由ノ爲
メニスル制度ニ就キテハ直接ニシテ且ツ最モ深重ナル
利害ヲ有スルモノナリトス是レ國家カ其ノ立法及ヒ行
政上ニ於キテ基督教會ニ特別ナル地位ヲ占有セシムル

所以ナリ

(本書前第四十節參照)

今ヤ基督教ニ關スル特別ナル例規ヲ舉グレハ左ノ如シ
一 如何ナル場合ト雖モ基督教旨ノ信仰ニ關スル事項ハ之レヲ公ケナル事務ナリト公認ス即チ其ノ細目ヲ云ハ、左ノ如シ

(リヒテル氏著教會法第九十九節參照)

(甲) 基督教旨ノ信仰及禮拜ニ關スル刑法上ノ保護

(千八百十八年ノバエールン宗教會第三十一節及第三十六節千八百七十年刑法第百六十六節第百六十七節及第三百〇四節參照)

(乙) 或公示ノ記標ヲ專有スル權(設令ヘハ寺鐘)

(同上バエールン宗教會第三十五節及第百〇三節參照)

(丙) 國家ノ執務ニ於キテ教會上ノ祭日ヲ許容スル事

(丁) 教會役所ノ公ケノ事務上ニ於ケル重要及ヒ此ノ役所事務ノ實行ニ對スル國ノ保護

(同上バエールン宗教會第三十節參照)

(戊) 公ケノ資力ヲ以テ教會ニ屬スル建物ヲ保護スル事

(千八百六十一年澳國プロテスタント法令第二十節千八百十九年ノヴルテンブルヒ憲法第八十二節乃至第八十四節千八百三十一年四月二十九日ノサクセンアルテンブルヒ憲法第百五十六節モール氏著國法國際法及政法第二卷第二百十五卷ヲ參照スヘシ然レモ教會ニ委スルニ徵收ノ權ヲ以テスルハ教會ノ本性ニ反ス)

(己) 立法議會ニ僧徒ヲ參席セシムル事

(庚) 教會役所ノ有スル公認權

(辛) 僧徒ノ身分ニ屬スル特權

(壬) 法律上無形人ノ一個人タル資格(教會ノ財産ニ關シテ特ニ然リトス)

(癸) 教會費徵收方法ト通常税金徵收方法ト同一ナル事

(教會費教會役所費及學校費ノ徵收方法ニ關スル千八百三十六年六月十九日ノ普國カピネット、オルドル參照)

二 公ケノ教會ハ其ノ内部ニ屬スル事務ニシテ單ニ宗教ノ性質ノミニ止マル者ハ獨立シテ自由ニ之レカ行政ヲ爲ス一ヲ得レ之レニ反シテ其宗教外ニ屬スルモノハ國家獨リ其ノ行政ヲ司リ且ツ此等ノ關係ニ於キテハ通常一般人民ト等シク一般ノ法律及ヒ國家ノ執行權ニ服從セサルヘカラス

(千八百十八年バエールン宗教會第三十八節第六十四節及第六十五節)

千八百五十年普國憲法第十五條千八百六十年十月九日ノバーデン教會法第七節千八百六十七年十二月二十一日ノ澳國々憲第十五條千八百四十年ハノーベル憲法第六十五節千八百三十一年クールサクセン憲法第五十七節千八百三十一年サクセン、アルテンブルヒ憲法第三百三十八節參照)

單ニ宗教上ノ事項ニ屬スルモノハ教旨ノ教授、禮拜式、禮拜日、單ニ宗教上ニ止マル役員ノ制、教法上ノ業務、禮拜ノ堂宇ヲ神聖ナラシムルヲ、宗教上ノミニ止マル紛議ヲ判決スルヲ等ナリ(モール氏著國法國際法及政法第二卷第二百十三葉參照)

然レモ宗教上ノ事項ト宗教ニアラサルモノトハ往々混同シテ分明ナラサル場合多シ即チ某ノ事項自身ハ宗教内ノ事ニ屬スレモ未タ必スシモ宗教内ノミニ止マラス又國家ト相交渉スルカ如キ時ニ於キテハ國家ト共同ノ

作用ニ出ツルニアラサレハ教會ハ獨斷以テ之レニ處スルノ權カナシ

(千八百十八年ノバエールン宗教令第七十六節及第八十八節參照)

三 教會ハ教務ニ從事セントスル者ノ爲メニ學院ヲ建設スル丁ヲ得レレ常ニ國家ノ監督ニ服スヘキモノトス

然レレ一般國家ノ允許ヲ要セス(千八百五十年ノ普國憲法第十八條千八百六十年十月九日ノバエールン教會法第八節及第九節千八百六十一年ノ澳國プロテスタント法令第十一節モール氏著國法憲國際法及政法第二卷第二百十九葉參照)

然レレ教會役所カ學院創設ノ權ヲ使用スルニハ其ノ學院ニシテ單ニ學術上教育ノ目的ニ出ツルモノニ限ルモノタルヲ常規トス故ニ此點ニ於キテハ宗教上ノ學院ト雖レ之レヲ通常一般ナル學術教育ノ諸學校ノ一部ト見

做シ得ヘシ

四 教會ノ役員ヲ任命スルノ權ハ教會自ラ之レヲ有シ敢テ他ノ權力ニ服從シテ之ヲ爲ストヲ要セスト雖レ教會役員タルニハ左ノ條件ヲ備ヘタル者ニ限ル

(甲) 本國民タル資格ヲ有スル事

(乙) 政府ヨリ不都合ノ人物ナリト指示セサル者タル事

(丙) 規則ニ從ヒ必要ナル學識ヲ有スルノ證アル事

(カトリック)教會役員候補者試験法ニ關スル千八百五十四年九月二十八日ノバエールン布達教會役員ノ修ムヘキ學術ニ關スル千八百六十七年九月六日ノバエールン布達カトリック教會役員ニ關シテハ千八百三十年一月三十日プロテスタント教會役員ニ關シテハ千八百三十六年三月十九日及千八百四十四年二月二十二日ノ同邦布達參照)

五 公ケナル教會ハ其ノ他ノ一般ノ共衆團結ニ於ケル

カ如ク財産ヲ所有シ及ヒ法律ニ從ヒ之レヲ得有スルノ
 權ヲ有ス然レモ教會ノ目的ニ備ヘタル財産ハ之レヲ他
 ノ目的ニ使用シ本來ノ目的ヲ犯スヘカラサルハ教會ニ
 限ラス教育及ヒ其ノ他ノ目的ニ使用センカ爲メニ備ヘ
 タル財産等ト異ナル所ナシトス但シ教會ニシテ格別ナ
 ル特權ヲ有スル時ノ外其ノ財産ハ一般ノ國法ニ服從ス
 ルノ義務就中納税ノ義務ヲ免カル、丁能ハサルハ勿論
 ナリ

市區ニ於ケル教會財産ノ行政ハ國家及教會二者共同ノ
 作用ニ出テ二者混交ノ機關其ノ事務ヲ掌ル之レヲ宗教
 行政ト云フ

〔千八百十八年バエールン宗教令第四十四節及第七十三節千八百十八
 年ノ同上憲法第四款第九節千八百三十四年同上邑法第五十九節及第

九十四節千八百六十年十月九日ノバーデン教會法第十節及第十四節
 千八百六十七年十二月廿一日ノ澳國々憲第十五條千八百六十一年同
 上「プロテスタント」法令第十八節及第十九節千八百五十年普國憲法第
 十五條千八百〇三年二月二十五日ノ帝國會議々決第六十三節「ベーツ
 ル」氏著「バエールン憲法」第九十四節ツエーブル氏著「獨逸國法原理」第二
 卷第八百六十七葉同第一卷第二百五十一葉參照）
スミチエト、ト、モ、ト、ノ、イ、ン
 永代土地讓與條例ニ依リ教會ニシテ不動産ヲ所有スルノ權ヲ制限ス
 ル「ハ」共產團結ニ於ケルト異ナル所ナシモール氏著「國法國際法及政
 法論」第二卷第二百三十四葉參照）

公税ト同著ナル方法ニ由リテ税金ヲ爲スノ權力ハ教會
 ノ有スヘキモノニアラス

六 教會ノ諸機關ハ其ノ會長ト自由ノ交通ヲ爲ス「得ル」

(千八百五十年普國憲法第十六條千八百六十年十月九日ノバーデン教會法第七節千八百四十八年九月五日ノハノーベル法律第二十四節參照)

七 民事又ハ政事ニ關スル教會ノ布達命令ハ國家ノ許可ヲ經ルニアラサレハ其ノ効力ナク又之レヲ實行スルトヲ得ス

故ニ教會ノ布達告示等ハ其發布ト同時ニ政府ノ許可ヲ受クルヲ要ス
左ノ場合ニ於キテハ政府ノ許可ヲ要セス

一 已ニ政府ノ許可ヲ得タル一般ノ布達ニ基キ配下ノ教會役員ニ命スル諸條規

二 單ニ宗教上ノ性質ニ止マル諸達

(千八百四十年ハノーベル憲法第七十節千八百十八年バエールン宗教令第五十八節千八百六十一年澳國「プロテスタント」法令第九節千八百

六十年十月九日ノバーデン教會法第十五節千八百五十二年クルヘツセン憲法第百〇三節千八百二十九年サクセンマイニゲン憲法第三十節千八百十九年ツルテンブルヒ憲法第七十二節リヒテル氏著教會法第百節ベーツル氏著バエールン憲法第百七十五節ツエーブル氏著獨逸國法原理第二卷第五百三十八葉參照)

八 會規、會員、集會等ニ關スル結社條例ノ成規ハ無形ノ一個人タル資格ヲ得有スル教會就中基督教會ニ適用スルナシ

(千八百五十年三月十一日ノ普國結社條例第二節千八百六十一年澳國「プロテスタント」法令第二十三節千八百六十七年十一月十五日ノ同上結社條例第三節參照)

二 市邑團結

(イ) 總則

第九十八節 市邑ノ本性
市邑ハ其ノ團結員ノ共同ナル地方事務ニ付キ法律條例ヲ以テ規定シタル自治行政ノ權利ヲ有スル公ケナル共衆團結ナリ

(千八百六十九年四月廿九日ノバエールン邑法第一節千八百五十三年

五月三十日ノ普國市府法第九節千八百六十七年九月二十二日ノシヨレ

スヰツゲ、ホルスタイン州法第六節千八百五十年三月十九日ノブラウン

スワイグ市府法第一節千八百六十五年七月三十一日ノメクレン、シユ

ヴリン邑法第一節參照)

故ニ市邑ノ本性ニ基キタル法律上ノ事項即チ無形人ナル共衆團結ノ形體ヲ構造スル法律上ノ財料ハ或ハ地方一境區ニ於ケル獨立ナル人衆ノ居住ヲ同フスルニ由リ

是レヨリシテ直接ニ發生スル所ノ需要及ヒ事務ノ共同事項ナルカ或ハ衆人一地方ニ共存シテ其需要ヲ満足シ其ノ事務ヲ實行スルカ爲メニ要スル方法ナルニ外ナラサルヤ必セリ

地方ノ交通、水利、安寧、衛生事務ノ制度ハ第一種即チ一地方人衆ノ同居ヨリ生スル共同事項ニ屬シ、教育、共濟、保護、保險等ノ制度ハ第二種即チ

市邑民ノ共存ヨリ間接ニ發生スヘキ方法ニ屬スヘキ者ノ一例ナリ
斯ク市邑團結ヲ組成スル事項ハ更ニ政事上ノ事項ニ屬セ、又國家及國家ノ意思ト毫末ノ關係ナキカ故ニ市邑ヲ以テ國民ノ政治上ニ於ケル團結又ハ國家ノ範圍ニ屬スル結合ト見做ストアルヘカラス

(ツェーブル氏著獨逸國法原理第二卷第四百二十節及ゲルベル氏著獨逸私法論第五十節參照)

之レニ反シテ市邑團結ハ其ノ本性全ク社會ノ範圍内ニ
歸スヘキモノニシテ市邑ニ在リテハ各人各個ヲ以テ共
同一致ノ作用ニ由リ其ノ發達進化ノ需用ヲ充タシ其利
益ヲ増進シ得ヘキ地方共同團結体ノ一員ナリト見做ス
ヘキモノトス故ニ市邑ノ成立存在ハ本來國家ト獨立シ
政治上ニ關係ナキ者ナレハ國家ニシテ滅亡スルトアル
モ市邑ハ尙依然存立スルトヲ得ヘシ

(マルヒユス氏著内國行政々畧論第一卷第二十三葉ツエーブル氏著獨
逸國法原理第二卷第四百二十一節參照)

然レ臣國家ハ市邑團結ノ原理ニ基キ市邑團結ノ機關ヲ
利用シテ國家本分ノ事業ヲ舉行シ又タ市邑ハ幾分カ國
家行政區畫ノ作用ヲ爲シテ嚴ニ其ノ社會上ノ本性ヲ顯
示セサルトアルヘキハ勿論ナリ但シ此等ノ作用ハ外部

ヨリ附加セラレタル市邑ノ事務ニ外ナラサレハ素ヨリ
其ノ本性ニ出テタルモノト混同スルトアルヘカラス

市邑ト國家行政上ノ區畫ト相異ナルノ狀ハ恰モ昔日百組ハンドレッ
ドト稱シタル團結ト十家組タイスト稱シタル組合トノ關係ニ於ケル
カ如シ(プロッシユ氏千八百二十六年ナハバール、シュウエリン法律第十八

葉參照)

市邑ノ起源ナル古代「マルク」ト稱セシ組合ハ司法事務又ハ軍事ノ爲メ
ニ起リタル組合ト關係ナク專ラ農商事務ニ基キタル團結ナリシナリ
(ワイスキ―氏著市邑財產及其ノ資用論第五十三葉參照)

市邑ハ左ノ關係アルカ爲メニ之レヲ公ケ。共衆團結ト
ス

一 市邑ハ國家ノ範圍ニ屬スル活動ト其ノ基礎ニ於キ
テハ常ニ一致シ合離スヘカラサル事

二 市邑ハ數多ノ關係ニ於キテ國家ノ機關トシテ利用セラル、事

千八百十九年ノヴルテンブルヒ憲法第六十二節ニ曰ク市邑ハ邦國一致ノ本源ナリト

第九十九節 市邑制度ノ主義

市邑制度ニ三種ノ主義アリ即チ左ノ如シ

(ブルンチユリ―氏纂國家學韻府中レ―ニング氏ノ論第一卷第七百七十一葉リヨシネ―氏著普國々法論第二卷第三百〇五節及第三百〇六節スマイン氏著行政學第一卷第二葉及第二百二十八葉參照)

第一主義

此ノ主義ニ於キテハ市邑ヲ以テ政治上ノ團結トナシ市邑ハ恰モ國家ノ一部タルニ外ナラストス蓋シ此主義ニ於キテハ未タ國家ヲ以テ無形ノ一個人タル資格ヲ得有

スル人民ノ一体トスルノ義ニ通セス國家ノ成立存在ヲ圖ルハ只タ最高ノ權力ヲ以テ法律上相互ニ權利ヲ異ニスル諸種ノ種族ヲ統御一致セシムルニ外ナラサルナリ

(市府ヲシテ公力ノ機關ニ服從セシメタルヲニ就キテハルンデ―氏著獨逸私法論第四百二十六節ヨリ第四百二十九節迄參照)

要スルニ此ノ主義ノ行ハレタル未開ノ當時ニ在リテハ國家社會二者ノ區別未タ判然セス市邑ハ其ノ本性ニ於キテモ寧ロ國家ノ範圍ニ屬シタリ是レ各地方ニ固有ナル制限規律ノ存スル者アリ又一方ニ於キテハ却ツテ國家ノ本性ヲ帶ヒタル自立市府ト唱ヘシ獨立ハ市邑數多ナリシ所以ナリ

(ルンデ―氏著獨乙私法論第五十節及第四百三十節ツェ―ブル氏著獨逸國法原理第二卷第四百二十一節及第四百十五節乃至第四百十九節)

故ニ此ノ主義ニ出テタル市邑制度ノ結果ヲ略言セハ凡ソ、獨立ナル團結タリシ市邑ハ恰モ各人各個カ其ノ權利ヲ得有スル淵源ナル國家中ノ小國家ナリシニ在リ

(本書前第八十八節参照)

第二主義

此ノ主義ハ行政上全ク市邑ト國家トヲ混交セル者ニシテ市邑ヲ以テ決シテ各地方ニ固有ナル事項ヲ規定スル適當ナル法律ノ範圍ヲ有シタル自立ノ一體ナリトセス市邑ハ只々行政上ノ區畫國家ノ枝葉タルニ過キサレハ市邑ノ事務ハ即チ國家ノ事務タリ市邑ノ役員ハ即チ國家ノ官吏タリ又々市邑ノ財産ハ即チ國家ノ財産タリ

此主義ニ基キタル市邑ノ制度ハ主トシテ佛國ニ於テ其ハ例ヲ見ル(ス)

タイン氏著行政學第一卷第二章第二百五十六葉参照

佛人ラブーラエー氏曰ク單ニ地方ノミニ固有ナル事項ハ特種ノ規則ニ據ラサルヘカラス蓋シ此等ノ事項ハ國家ニ其ノ國民ヲ統一スル事トハ毫末ノ關係ナキ者タリ今若シ然ラストセハ單ニ各人各個ノ利害ニ關スル者ノ外此等ノ事項ヲ規定スル法律規則ハ果シテ何種ニ屬スヘキヤト

羅馬法ニ於キテモ亦市邑ヲ以テ單ニ國家ノ一部ナリトセス之レヲ以テ自立ナル一個人ト見做シタレトモ大ニ政治上ノ性質ヲ包含セシメタリ(ブフター氏著羅馬法第一卷第六十五節及第二卷第九十一節参照)

此ノ主義ニ據リタル市邑ノ制度ハ民力ヲ舉ツテ之レヲ中央ニ統合スルノ弊ヲ發生シ(中央集權)殊ニ前世紀ニ於キテハ壓制專擅ノ風ヲ盛ニシ國內万般ノ事項盡ク國家ノ意思ニ從ハシメ遂ニ國家社會ノ二者ヲ以テ之レヲ同

一、視スルノ甚シキニ歸シタリ、

(スタイン氏著行政學第一卷第二章第二百七十三葉參照)

第三主義

此ノ主義ニ於キテハ市邑ハ社會上ノ共同生活ヨリ發生セル結果タルヘキ事ヲ以テ市邑ノ純粹ナル本性トスルカ故ニ市邑ヲ以テ社會内ノ生活ヲ遂クルカ爲メニ要スル權利義務ヲ附與セラレタル社會的ノ共衆團結ナリト確認ス

此主義ニ依リタル市邑制度ハ先ツ豫メ人民中ニ社會法上ノ思想ヲ盛ナラシメテ而ル後ニ始メテ利用シ得ラルヘシ社會法上ノ思想トハ就中人身ノ自由各人同等權、不動產所有ノ自由、營業職業ノ自由等ニ關スル者ヲ云フ蓋シ此等ノ思想盛ナルニアラサレハ市邑團結ノ範圍内ヨリ身分ノ差等及隸屬等ノ害ヲ一洗スルヲ能ハサルナリ故ニ市邑ヲ以

テ社會的ノ共同體トスルハ今世紀ニ於ケル人民文化ノ進歩ヨリ發生セリ(スタイン氏著行政學第一卷第二章第二百七十五葉參照)
本條ノ主義ニ就キテハ特ニ千八百〇八年十一月十九日ノ普國市府法ヲ參照スルヲ要ス

市邑ハ公ケナル共衆團結ナルカ故ニ他ノ公ケナル共衆團結ノ如ク等シク公ケノ必要ヲ顯出シタル形跡ナレハ其ノ公益ニ關係アラシク限リハ法律規則ニ服從シ國家ノ監督ヲ受ケ國家ト共同作用ヲ爲サ、ルヘカラス
社會法ノ已ニ明ラカナル今日ニ於キテ社會法上ノ主義ニ從ヒタル市邑制度ノ結果ハ左ノ如シ

(甲) 市邑民ニ屬スル所ノ地方社會上ノ事務ハ適當ナル意思ニ依リテ市邑之レヲ管理スルヲ得故ニ市邑ノ範圍外ニ於ケル萬般ノ事務ハ國家若クハ他ノ團結(設令ヘハ

教會ニ屬スヘキモノトス

市邑ヲ管理スヘキ事務ハ斯ク地方ニ於ケル社會上萬般ノ事務ナルカ故ニ市邑ハ只々其ノ財産及ヒ制度ノ行政ノミヲ以テ其ノ本分ト爲スヘキモノトスルハ大ナル誤見ナリ(ベゼーレル氏著獨乙私法論第一卷第七十節參照)

一般ノ法則ヨリスルキハ市邑ノ活動作用ハ只々市邑民全體ニ共同ナル事務上ニ止マルヘキナレトモ例外ノ場合トシテ法律條例ノ力ニ依リ市邑中ノ一種一部ニ固有ナル特種ノ利害ニ干與スルコアリ就中郡ニ於キテハ農業及ヒ牧畜ニ關スル場合ヲ以テ尤モ然リトシ(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン邑法第五十五節及第五十六節同年同月ノプファルツ邑法第四十條及第四十一條メテイクス氏著同上註解第二百二十三條參照)又沿海ノ市府ニ於キテハ航海商業及漁業等ニ關スル事務ヲ以テカ、ル例外ナル場合ノ一例トス然レトモ爲メニ全市邑民一般

ノ利益ヲ毀損スルコトヲ得サルハ市邑法ノ本則ナレハ之レカ爲メ新ニ租稅ヲ賦課シ又ハ之レヲ增加スルカ如キコトヲ爲スヲ得ス(千八百七十年五月十四日ノバーデン邑法第九十七節及第九十八節參照)

(乙) 國內ノ秩序ヲ維持シ市邑ノ作用ヲシテ適法ナラシムルカ爲メニハ市邑ヲシテ常ニ一般ノ法律成規ニ從ハシメサルヘカラス然レトモ此ノ法律成規ハ市邑ニ固有ナル地方的ノ性質及ヒ無形ナル一個ノ自立團結タル本性ヲ破ルコトヲ得ス

此ノ理ヨリシテ市邑制度ハ國家ノ立法ニ服從セルサヘカヲサルノ必要ヲ生ス又々獨乙國憲ニ依ルキハ各市邑ノ土地不動産ハ皆ナ各市邑ニ屬スヘキモノトス

(丙) 市邑ハ國家又ハ其ノ他ノ機關ノ當サニ爲スヘキ事業又ハ責任ヲ負擔スルノ權利義務ナシ如何トナレハ市

邑ノ有スル市邑團結タル無形人ノ資格ハ市邑ノ事務ニ屬スル範圍内及ヒ地方ニ屬スル活動ノ事業ノミニ止ルヘキモノナレハナリ

(千八百十九年九月廿五日ノヴルテムブルヒ憲法第六十八節ツエープリ氏著獨乙國法原理第二卷第四百二十五節參照)

故ニ市邑ハ市邑事務ノ本性ニ反スル國家ノ請求ヲ拒絕スルコトヲ得

故ニ市邑ハ法律條例ニ於キテ定メタル場合ノ外其ノ承諾ナクシテ租稅ヲ收メ又ハ其ノ他ノ事業ヲ爲スノ義務ヲ有スルコトナシ(千八百五十二年十一月廿二日ノオルデンブルヒ憲法第七十一條ツエープリ氏著獨乙國法原理第二卷第四百二十五節參照)

(丁) 然レモ國家ハ其便宜上ヨリシテ市邑ノ機關ヲ國家ノ目的(警察)ニ使用スルコト能ハサルニアラス此點ニ於テ

ハ市邑ハ幾分カ國家ノ機關タル性質ヲ帶フルモノト云フヘシ又々地方ノ事情ニ從ヒ公ケノ事務ヲ舉行セサルヘカラサル場合ニ於キテモ國家ハ市邑ヲ以テ其ノ媒介ノ方便トス

第百節 市邑ノ本性

自立シタル無形ノ一個人タル資格ヲ有スルニ至リタル市邑團結ハ本來社會的ノ性質ニ出ツルカ故ニ市邑ニ屬スル法律上ノ諸關係ハ社會法上ノ思想ヲ標準トシテ之ヲ考察セサルヘカラス今マ其ノ要件ヲ舉クルト左ノ如シ
一 市邑ハ其ノ市邑ノ人民ニ對シテ立法ノ權ヲ有セス又執行ノ權(刑律執行ノ權)ニ在リテモ特ニ國家ノ委任ヲ受クルノ場合ノ外只々法律條例ヲ以テ定メタル狹小ノ

制限内ニ止マルモノトス

(千八百六十九年四月廿九日ノバエールン邑法第九十九條及第四百十三條ノ如キ是ノ一例ナリ)

各地方ノ諸規則條規ハ只々地方ニ屬スル事項ヲ規定スルニ止マリ敢テ一般ノ法律原理又ハ國法ニ抵觸スルヲ得ス故ニ各人各個若クハ一部ノ住民ノ已得權ハ其ノ承諾ヲ得サレハ地方規則ヲ以テ之レヲ變更廢止スルヲ得ス

又此ノ地方規則ハ國家ノ認許アルヲ要ス(千八百五十三年普國市府法第十一節千八百五十一年ハノーベル市府法第二節及第三節千八百五十年ブラウンスワイグ市府法第二節千八百三十四年クルヘッセン邑法第三節千八百六十二年澳國邑法第二十二條ホイゼル氏著クルヘッセン司法及行政年報第一卷第六十葉同上市邑憲法及行政法第五葉)

二 市邑ハ其ノ地方ノ共同生活ノ要用ヨリ必然發生スヘキモノ、外各人各個ノ發達作用ニ對スル制設條規ヲ設クルトヲ得ス

設令ハ移住ノ自由若クハ結婚ノ自由ヲ制限スル規則ヲ設クル能ハサルカ如シ(本書前第四十六節及ヒ第五十六節參照)

三 市邑ハ其ノ市邑ノ境區内ニ住所ヲ有スル者ハ何人ト雖モ之レヲ其ノ市邑所屬民即チ市邑團結員ト見做サ、ルヘカラス且ツ市邑所屬民タルトヲ許スニ就キ勝手ニ作爲シタル制度ヲ設クルトヲ得ス

宗教種族ノ異同ニ依リテ市邑民タルヲ許否セル制度ノ如キハ此ノ制限ニ屬セリ(ルーデー氏著獨逸私法論第四百四十六節及ヒ第四百四十七節參照)

四 市邑ハ只々其市邑所屬民ノ權利ヲ得有スル淵源タ

ルニ外ナラサレハ市邑ノミ獨リ社會自身ノ本性ニ基キタル權利(設令ヘハ或ル營業權)ヲ創設シ得ヘキモノニアラストス

所謂市府内諸營業ト稱スル者アリ即チ第一商買第二工業製造第三麥酒釀造ヲ除クノ外其ノ他ノ營業技術ハ市邑民ト否トヲ問ハス之レヲ禁制セラル、フナカルヘシ(ルンデー氏著獨逸私法論第五十二節) ベル氏獨乙私法論第五十二節參照又千八百三十二年八月十三日ノサクセンワイマルノオスタイム市府法第十七節ニ依ルキハ麥酒ヲ釀造販賣シ酒類發賣ノ業ヲ爲シ又ハ下宿屋ノ業ヲ營ムヲ等ヲ以テ市邑民ノ權利トセリ(ブルックハールト氏著サクセンワイマル行政必携第二百六十二葉及ヒ千八百三十一年四月廿九日ノサクセンアルテンブルヒ憲法第百〇二節參照)

故ニ市邑所屬民ハ市邑所屬民タル資格ニ於キテ市邑所

屬民ニアラサル者ノ有セサル權利ヲ有スルヲ得
五 諸市邑ハ其ノ本性素ヨリ同一ナルヘキモノナレハ
彼是ノ間法律上ノ差等ナシ故ニ法律上ニ於キテハ異種
ノ市邑アルトナシト雖モ事實上ニ於キテハ市邑ノ廣狹
文化ノ差等アリ從ツテ市邑事務ヲ執行スル法律ノ体裁
即チ市邑政体モ亦自ラ異ナルモノアリトス

故ニルンデー氏ノ如キハ市府ハ府廳ノ監督ニ服スヘキ共同團結的ノ市府營業ノ實行ト離ルヘカラサルモノト思惟シ邑ハ之レニ反シテ農業者ノ共同體ニ過キスト解シタリ(同氏著獨逸私法論第四百二十三節及第四百八十二節參照)故ニ又古代ノ法律ニ於キテハ市府ヲ以テ工業商業ヲ事トスルモノトシ邑ヲ以テ農業上ノ組合トシテ法律上ニ之レヲ區分セリト雖モ今日ニ於キテハ全ク此ノ區別ヲ廢止セリ設令ヒ尙ホ其ノ區別ノ存スルモノアルモ單ニ事實上ニ止マリ法律上ニ認了ス

ルモノニアラストス(本書以下第百〇四節及第百十節参照)
(ロ)市邑ノ構成及ヒ職務

第百〇一節 市邑ノ區域

凡ソ市邑ヲ創設スルニハ國家ノ許可ノ外尙左ノ二條件ヲ必要トス

市邑ノ開散、合併及ヒ合併シタル市邑ノ再裂ニ就キテモ亦全シ(千八百六十九年四月廿九日バエールン邑法第四節千八百六十一年五月一日ノハノーベル邑法第十一節千八百七十年五月十四日ノバーデン邑法第四節千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第二節参照)

一 市邑ノ境區

二 市邑所屬民ノ多數

市邑ノ境區ハ市邑ノ區域内ニ於ケル合同ノ土地ヨリ成ル但シ此ノ土地ハ家屋ナリ原野ナリ山林ナリ其ノ内ニ

存スル者ノ種類如何ヲ問フナシ

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第二節千八百七十年五月十四日ノバーデン邑法第五節千八百五十年五月十九日ノブラウンスヅツツイヒノ市府法第四節及第五節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘツセン邑法第四節千八百五十一年五月一日ノハノーベル市府法第八節参照)

飛地ヲ有スル市邑ノ境區モ亦數多ナリ(府内火災及ヒ建築警察規則ノ適用ニ關スル千八百四十六年七月十七日ノ普國達ヲ比較セヨ) 市邑所屬民タル資格中土地ニ關スル條件ハ人ニ關スル條件ノ代用ヲ爲スコトヲ得故ニ一市邑内ニ住所ヲ有セサル者ト雖モ其ノ市邑内ノ土地所有者ハ該市邑ノ市邑所屬民ナリトス(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第四節及第八節千八百三十二年二月二日ノクール、サクセン市府法参照)

數市邑ヲ合併シテ一市邑ヲナシタル者ニ在リテハ其ノ共同普通ノ事務ノ行政ハ凡テ合體シタル統一ノ市邑應之レニ任スヘキモノトス(設令ヘハ警察衛生救貧事務其ノ他特ニ契約又ハ承諾ヲ以テ規定シ得ヘキ事務)然レニ合シテ一市邑ヲ爲シタル原素ノ各市邑ハ其ノ各市邑ノミニ限レル市邑財産又ハ共産ヲ所有スルコトヲ得但シ其ノ監督及指揮ハ總廳凡テ之レヲ司トル(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン邑法第百五十三條千八百三十四年十月二十三日ノクルヘセツン邑法第七節千八百七十年五月十四日ノバーアン邑法第百六十一節メルレル氏著普國邑法第三十葉參照)

然レ凡右市邑ノ成立ニ必要ナル土地ハ單ニ廣漠タル森林山野及ヒ河海ニシテ共同生活ヲ爲スト能ハサルモノナル片ハ市邑ヲ成立スヘキ境區タルコトヲ得ス
此等ノ土地ニ就キテハ國家ハ其ノ警察權ヲ使用シ隣邑ノ移住殖民ノ

配當ヲ爲スヘキモノトス

又此等ハ土地ハ所有者ハ公益ハ爲メニスル法律上市邑ハ義務ヲ盡サハルヘカラス設令ヘハ道路橋梁ヲ創設スルハ事業ヲ負擔スル等ハ如シ(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン邑法第三節千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第四節千八百七十年五月十四日ノバーアン市邑法第三節參照)

右ノ數者ヲ除クノ外凡ソ土地ハ如何ナル者ト雖凡必ス一ツノ市邑境區ニ屬スヘキ者トス

帝國憲法第十一條第百八十三節ニ曰ク土地ハ必ス一ツノ市邑團結ニ屬スヘシト又タ山森礦野ニ關スル制限ハ條例ヲ以テ之レヲ定ム(千八百五十二年五月三日ノサクセンコブルヒゴタ國憲第六十一條參照)
又タ市邑ニ屬セサル土地ハアルヘカラストスル原則ノ例外ハ山森礦野ノミニ止マラストスル諸邦アリ即チ其ノ例外トスルモノハ

第二、自立ノ境區ヲ成ス所ノ土地

第二、君主ノ住所及宮城并ニ之レニ接近スル遊園

(千八百六十二年三月五日ノ澳國市邑條例第一條千八百五十二年五月

三日ノニューヘール、ゴタ國憲第六十一節千八百三十四年十月二十三日ノ

クル、ヘッセン邑法第九節參照)

市邑長ノ所有スル土地ハ市邑ニ屬スル負擔ヲ免ルヘキモノトセル古

代ノ法律ハ市邑ノ社會法上ノ性質ニ反セルモノトス(千八百五十九年

四月二十四日ノ澳國邑法第十三節參照)

市邑境區ヲ變更スルニハ國家ノ認許ヲ經サルヘカラス

但シ危害ノ場合ニ際シ公ケノ必要ニ出ツルニアラサレ

ハ市邑ノ承諾ナク國家ノ權力ヲ以テ其ノ境區ヲ變更ス

ルヲ得ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン邑法第四節千八百五十三

年五月三十日ノ普國市府法第二節千八百五十年三月十九日ノブラウ

ンスワイグ市府法第七節千八百七十年五月十四日ノバーテン邑法第

三節及第五節澳國邑法第一節及第三節參照)

市邑ノ境區ニ關スル爭議ハ通常行政官衙之レヲ判決ス

但シ此ノ裁判ハ私法上損害要償ノ權利ト抵觸スルヲナ

カルヘシ

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン邑法第七節メルレル氏著

千八百五十四年クルヘッセン邑法第九節參照)

第百〇二節 市邑所屬民及ヒ市邑民

市邑所屬民即チ市邑團結員トハ左ノ二項ニ係ル者ヲ云

フ

故ニ國民タルモノハ必ス市邑民タリトスル成規アルヲハ數々耳ニス
ル所トナレハ實際上決シテ然ルヘキモノニアラス(千八百十九年ノヴ

ルテムブルヒ憲法第六十二節千八百二十九年サクセン、マイニンゲン
 憲法第十九節千八百三十一年サクセン、アルテンブルヒ憲法第百節千
 八百五十二年コベルヒ、ゴタ國憲第六十節參照又本書前第八十八節及
 ヒ千八百六十二年三月五日ノ澳國邑法第二條ヲ比較セヨ
 又、人々各一個ノ市邑ノ外他ニ屬スル所ナシ即チ同時ニ二個以上ハ市
 邑ハ民タルヲ得ストスルハ論議モ亦事物ハ本性ニ反スヘキモハナ
 リ(千八百七十年五月十四日ノバーデン民法第三節參照)

一 何人ヲ問ハス凡テ市邑ノ境區内ニ其ノ住所ヲ有ス
 ル者

二 何人ヲ問ハス凡テ市邑ノ境區内ニ不動産ヲ所有シ
 又ハ營業ヲ爲ス者但シ此ノ市邑内ニ住所ヲ有スル一ヲ
 要セス

此ノ規則ハ無形人ニモ亦適用スレヒ只々此ノ規則ノ例外ハ在官ノ軍

人及ヒ守境兵ノミニ限ルヲ以テ今日ニ於キテハ市邑團結ニ加入スル
 ニハ敢テ特別ノ許可ヲ待タス故ニ苟モ市邑所屬民タランニハ明許又
 ハ現住ヲ要ストセルバエールンバーデン等ノ法律ハ此ノ原理ニ反ス
 ルモノナリ(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第三節及ヒ第四
 節千八百五十年三月十九日ノブラウンスワイグ市府法第四節及第十
 五節千八百三十二年二月二日ノクルサクセン邑法第十一節參照)

一時ノ滞在ノミニテハ市邑所屬民タル條件タルヲ得サルモノトス然
 レヒ本國臣民ニアラスシテ政府ノ保護ヲ受クル者モ亦之レト同視ス
 ルブラウンスワイグサクセン、アルテンブルヒ等ノ法律ハ已ニ陳腐ニ
 屬ス(本書前第八十八節千八百七十年五月十四日ノバーデン民法第二
 節及第九十三節ツェーブル氏著獨乙國法原理第二卷第四百二十三節
 ヲ比較セヨ)

一ノ市邑ヲ成スヘキ住民ノ員數ニハ一定ノ制限ナシ只

タ事物ノ性質ヨリ其ノ一市邑タルヲ得ルト否トヲ判定スルニ過キス故ニ共同生活ヲ爲スニ足ルヘキ住民アラハ即チ一市邑タルヲ得ヘキトヲ以テ通則トス

(ワイスキー氏著獨逸邑法新撰第十六葉參照)

今日ノ市邑團結ハ古代市邑ノ區域ニ據ラス今日ハ今日ニ於ケル地方ノ利害ヲ考察シテ其ノ範圍ヲ定メサルヘカラス而シテ今日ヲ以テ之レヲ昔日ニ比較セハ今日ハ大ニ市邑ノ區域ヲ擴大ナラシムルヲ以テ通常トス(設令ヘハグナイスト氏著學校自治論第五十七葉ヲ比較セヨ) 移住自由ノ原則ニ據リ(第五十六節)人々各其ノ好ム所ノ地方ニ住所ヲ有スルト得ルカ故ニ市邑所屬民タルト否トハ住所權ノ有無ニ依リテ之レヲ判斷スルト能ハス 本籍權ヲ有スルモノニアラサレハ市邑民タルト得ストスルノ澳國法律モ亦其ノ理ニ適シタルモノニアラス(同上邑法第六節參照)

一、一般ノ市邑所屬民ト市邑内ニ市邑民タル權ヲ享有スル者トハ之レヲ區別セサルヘカラス

古代ノ法律ニ於キテハ市邑民タル權ヲ有スルモノト否ラサルモノトヲ區別シ又外國人ト本國臣民ニアラスシテ尙政府ノ保護ヲ受クル者トヲ區別セリ是レ社會法上自由ノ思想未タ發達セサリシニ由ルナリ

(ルンデー氏著獨乙私法論第四百四十五節參照)

市邑ニ於キテ市邑民タル權ヲ得有スルニハ左ノ數件ヲ備具スルトヲ要ス

一 本國民タル資格ヲ有スル事

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第五節千八百六十九年四月廿九日ノバエールン邑法第十一節千八百七十年五月十四日ノバーデ市邑民條例第十四節千八百六十七年十二月廿一日ノ澳國憲法第四條參照)

千八百六十九年ノバエールン邑法ニ從ヘハ外國人ト雖モ民權ヲ得有シタルモノハ同時ニバエールンノ本國民タルコトヲ得ヘキモノトセリ
 (尙千八百三十一年ノサクセンアルテムブルヒ憲法第百〇九節參照)

二 一定シタル年限間(一年乃至二年)市邑内ニ住居スル事

(同上普國市府法第五節同上バエールン邑法第十一節參照)

三 自立ノ生計ヲ營ム者タル事

(同上普國市府法第五節同上バエールン邑法第十一節千八百五十年三月十九日ノブラウンスワイグ市府法第十五節千八百七十年バーゲン市邑民條例第二十節及第二十五節參照)

左ノ條項ニ係ルハ自立ノ生計ヲ營ムモノトスルコトナシ

一 裁判所ノ命令ニ由リ後見人ヲ附セラレタル者

二 主人又ハ家長ニ養ハレテ一己ノ住所ヲ有セザル僕職工及家族

右ノ外市邑民權タルヲ享有スルニ一定ノ年齢(二十四若クハ二十五才)又ハ丁年ニ達シタルコトヲ要スル場合甚タ多シ

四 一定ノ額ヲ下ラサル直稅ヲ拂フ事

(同上普國市府法第五節同上バエールン邑法第十一節同上ブラウンスワイグ市府法第十五節同上バーゲン市邑民條例第二十五節千八百六十七年十二月二十一日ノ澳國々憲第四條千八百六十二年三月五日ノ澳國邑法第九條及第十條參照)

五 政治上ノ榮譽權ヲ有スル事

然レ市邑内ニ課稅セラレタル不動産ヲ有スル者又ハ自立ノ生計ヲ營ムモノニシテ最高ノ租稅ヲ収ムル者ハ右等ノ諸條件ヲ備フルヲ要セス

營業會社及ヒ無形人ニモ亦此例ヲ適用ス

外邦ニ住スル市邑内不動産所有者又ハ納稅者ハ市邑ニ對シテ其ノ義

務ヲ盡ス爲メニハ該市邑内居住ノ者ヲ以テ本人ノ代表者ニ充テサル
 ヘカラス(同上バエールン邑法第十五節及第二十五節同上普國市府法
 第四節及第八節及ヒルンデー氏著獨乙私法論第四百四十九節參照)
 法律上市邑民タル權ヲ有スヘキ權アル者ハ市邑民タル
 權ノ許容ヲ請求スルトヲ得但シ市邑ハ左ノ場合ヲ除ク
 ノ外之レヲ拒ムトヲ得ス

法律上ニ此ノ權ノ許容ヲ請求スルノ權アルカ故ニ市邑民タル權ノ許
 容ハ願ニ由リテ之レカ許可ヲ受クルノ性質ヨリ寧ロ已ニ存在スル權
 利ヲ認可スルノ性質ヲ帶フルモノトス(同上普國市府法第五節同上バ
 エールン邑法第十三節同上バーテン市邑民條例第二十節同上澳國々
 憲第四條參照)

(甲) 市邑民タル權ノ得有ヲ請求スル者ニシテ一ヶ年前
 内ニ救貧救助ヲ受ケ又ハ警察監視中ニ在ル者

(乙) 或ル刑事審判中又ハ處刑中ノ者

(丙) 資産ノ公賣處分ヲ受ケタル者

(同上普國市府法第七節同上バエールン邑法第十三節同上バーテン民
 法第二十一節參照)

一定ノ年間市邑内ニ住居シ一定ノ直稅ヲ納ムル者ニシ
 テ法律上市邑民タル權ヲ享有スヘキ資格ヲ有スル者ハ
 又タ市邑民タル權ヲ得有スルノ義務ヲ有ス

同上バエールン邑法第十七節同上ブラウンシュワイグ市府法第十五節
 千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第二十一節參照)

市邑民タル權ハ一般ニ特別ノ許可ニ由リテ得有スルト
 ヲ得且ツ法律上ニ定メタル定額ノ免許料ヲ納メシムル
 トヲ得

(同上バエールン邑法第十節同上ブラウンシュワイグ市府法第十三節同

上ハンノーベル市府法第二十節同上バーデン市邑民條例參照

同上バーデン法律第四節乃至第十節ニ依ルルハ市邑民タル權利ハ出產ニ由リテ得有スルコトヲ得ル但シ丁年ニ達スル等ノ條件アルヲ要ス
(尙ホ千八百三十一年サクセン、アルテンブルヒ憲法第百〇四節參照スヘシ)

市邑民タルモノニハ市邑民タル認許證ヲ附シ且ツ市邑民ノ盡スヘキ義務ノ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ル(ルンデー氏著獨逸私法論第四百四十八節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第十一條千八百三十二年二月二日ノクール、サクセン市府法第五十七條千八百五十三年五月五日ノ普國市府法第五節參照)外邦人ニハ免許料ノ金額ヲ陪スルコトヲ得ル(同上バエールン邑法第二十節同上ブラウンシュワイグ市府法第二十一節同上バーデン市邑民條例第十三節及第三十三節同上ハンノーベル市府法第二十七節同上クル、サクセン市府法第六十

節千八百三十四年十月二十三日ノクル、ヘツセン邑法第三十一節澳國邑法第八節參照

市邑民タル權利ノ爭議及ヒ許否ハ市邑議會ノ評決ヲ經テ市邑行政之レヲ判決ス

(同上バエールン邑法第十六節同上普國市府法第五節及第六節同上ハンノーベル市府法第二十節同上ブラウンシュワイグ市府法第五十六節及第九十六節同上クル、サクセン市府法第五十六節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑民條例第十八節ルンデー氏著獨乙私法論第四百四十六節參照)

市邑民タル權利ハ左ノ場合ニ於キテ消失ス

- (甲) 市邑民タルヲ得ヘキ法律上ノ資格ノ消失
- (乙) 市邑民タル權利ヲ得有スルニ必要ナル條件ノ消失
- (丙) 市邑民タル義務ヲ履行スル丁能ハサル片

(丁) 市邑民タル權利ヲ辭スル片(但シ法律上ニ之レヲ辭スル丁ヲ許シタル場合ニ限ル)

市邑民タル權利ノ消失ハ單ニ法律上必要ノ條件ヲ欠キタルトキニ生ストスル諸邦法律最モ多シ(同上)バーデン邑法第十八節同上普國市府法第七節ブラウンシュワイグ市府法第十六節及第十八節參照) 同上)バーデン市邑民條例ニ據ルキハ市邑民タル權利ハ國民タル權利ノ消失及ヒ他ノ市邑民タル權利ノ得有ニ由リテ消滅スルモノトセリ(同條例第七十一節乃至第七十三節參照)

第百〇三節 市邑民及市邑所屬民

市邑所屬民タルモノハ法律上ニ定メタル市邑稅ヲ分擔スルノ義務ヲ有シ又市邑團結ノ利益ヲ共有スル丁ヲ得但シ法律ノ明文ニ由リ市邑民タルノ權又ハ特別ナル資格(市邑内ニ不動産ヲ所有スル丁)ヲ有スル者ニアラサレ

ハ此權利義務ヲ有セサルモノトスル片ハ此ノ限ニアラス(本書以下第百十三節比較)

市邑内ト雖ヒ社會法上ノ權利ヲ使用シ得ヘキ一般ノ資格ハ市邑所屬民タルト否トニ關係スルナシ(本書第五十六節及第九十九節參照) 法律ノ明文ヲ以テ特ニ區別差等ヲ爲シタル場合ノ外凡テ市邑所屬民タル者ハ各々同等ノ權ヲ有ス(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第四節千八百三十二年二月二日ノクルサクセン市府法第七十一節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第四節及第十一節千八百七十年バーデン邑法第百〇四節千八百七十年五月四日ノ同上市邑民條例第一節澳國邑法第十節及第十一節參照) バーデン法律千八百七十年五月十四日ノ法律第百〇四節及ヒバイエルン法律千八百六十九年四月廿九日ノ邑法第九十三節ニ於キテハ市邑ニ屬スル權利義務ハ只タ市邑民タル者ノミ之レヲ有ストセリ

救恤其ノ他市邑財産ノ利益ヲ受ケントスル片ハ市邑ハ法律上ニ定メタル額ヲ超過セサル収金ヲ爲サシムルヲ得

(同上普國市府法第五十二節同上ハエールン邑法第二十二節參照)

但シ單ニ市邑所屬民タル資格ヲ得ルニハ此ノ納金ヲ要スルナシ(本書前第百〇一節千八百六十年五月十四日ノ普國法律及同國千八百六十七年三月二日ノ法律レンネー氏著普國々法第二卷第五百四十六葉參照)

其他市邑ニ屬スル費用ニ在リテハ各人皆ナ法律上ニ定メタル金額ヲ收ムヘキモノトス

(同上バーデン市邑民條例第十五節第九十三節參照)

市邑民タル資格市邑所屬民ニアラス)ハ左ノ權利義務ヲ包括ス

一、市邑ノ事務ニ就キ評議及投票スル事

二、市邑ノ役員ヲ撰舉シ及ヒ役員ニ撰任セララル、事

同上ハエールン邑法第十九節ブラウンシウィグ市府法第十四節同上普國市府法第五節同上バーデン市邑民條例第一節ニ依ルキハ此等ノ權利ハ只々市邑民タル資格ヲ有スル者ノミヲ屬ストシ千八百六十七年十二月廿一日ノ澳國々憲第四條ニ依ルキハ市邑内ニ居住シ地稅營業稅又ハ收入稅ヲ納ムル國民ハ撰舉及被撰舉ノ權アルモノトセリ但シ尙其ノ第九條乃至第十條ヲ參照スヘシ市邑民タル權利ノ使用ヲ拒ミ得ル場合アリ(同上普國市府法第七節參照)

第百〇四節 市邑事務ノ類別

市邑ノ活動作用ノ範圍ニ屬スル事務責任ニ二様アリ即チ一ハ自立ノ事務ニシテ一ハ委任ノ事務ナリトス自立

ノ事務トハ市邑團結自身ノ事業及ヒ必要ニ基キ市邑ノ存在ニ欠クヘカラサルモノヲ云ヒ委任ノ事務トハ國家ノ權力ヨリ市邑ニ委托セラレタル國家ノ行政ヲ云フ

此ノ區別ハ單ニ學術上ニ止マラス澳國ノ如キハ法律ノ明文ヲ以テ此ノ條例ヲ定メタリ(千八百六十二年三月五日ノ澳國邑法第四條同上普國市府法第五十六節及第六十二節同上) バエールン 邑法第八十四條乃至第百條同上 ブラウンシュワイグ 市府法第九十四節第百〇一節及第百八十八節參照)

碩學 スタイン氏 ハ此ノ區別ヲ採用セス市邑カ自立ノ議決ニ係ルモノヲ内部即チ自然的ノ作用トシ國家ノ成規ニ基クモノヲ職務的ノ作用トセリ然レド氏カ所謂職務的ノ作用ニ屬スル事務ト云ヘルモノハ市邑ノ公ケニシテ且ツ一團結タル本性中ニ包含シ盡サ、ル者アリ設令ヘハ軍務ノ如キハ市邑現ニ自立シテ之レニ關スル議決ヲ爲スコトアリ

(千八百六十八年六月二十五日ノ聯邦法律第七節)又之ニ反シテ學校設置ノ業ノ如キハ國家ノ行政官衙ヨリ其ノ成規ヲ定ムルコトアルカ如シ自立ノ事務ニ屬スル市邑ノ活動作用ハ復タ之レヲ分ツテ二様ト爲ス一ハ法律條例ノ成規ニ從ヒ必ラス執行セサルヘカラサルノ責任アル者ニシテ一ハ市邑カ自由ナル意思ニ一任シ其ノ執行スルト否トハ市邑ノ隨意ニ存スル者トス

(千八百六十九年四月二十九日ノ バエールン 邑法第三十八條及第百五十三條千八百三十五年一月三十一日ノ普國勅命參照)

市邑ノ活動作用ノ範圍中必ス執行ヲ要スヘキ自立ノ事務條件左ノ如シ

一、地方警察事務即チ市邑ノ境域内ニ於ケル安寧秩序ヲ照顧スル事但シ邑法及ヒ行政警察ヲ包含ス(本書前第

二十三節參照

(千八百六十二年三月五日ノ澳國邑法第五條千八百七十年五月十四日ノバーテン邑法第六節及ヒ第五十九節千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第六十二節千八百五十年三月十九日ノブラウンシウワイグ市府法第一節及第九十八節乃至第百節千八百三十二年二月二日ノクルサクセン法律第二百五十二節千八百四十八年九月五日ノハンノール法律第十九節及第二十節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン邑法第三十八節及第九十二節ルンデ―氏著獨乙私法論第四百三十三節參照)

二、市邑ノ必需ニ基キタル事業及ヒ其ノ行政ヲ掌ル官衙ノ事務左ノ如シ

- (甲) 衛生ノ目的ヲ以テスル水道ノ制度
- (乙) 道路市街及ヒ交通ノ制度

(丙) 建築及火災防禦ノ制度

(丁) 救貧制度

(戊) 普通教育制度

(同上澳國邑法第五條同上バエールン邑法第三十八條同上ブラウンシウワイグ市府法第一節第九十六節第百五十八節及第百六十六節同上バーテン邑法第五十九節參照)

理論上ヨリスルキハ市邑行政事務中ニ警察事務ヲ包括シタル諸法律ハ行政ト警察トヲ混交シタル者ト云フヘシルンデ―氏獨逸私法論第五十三節參照蓋シ社會的活動ノ理已ニ明カナル今日ニ於キテハ共同ナル地方事務ノ行政ハ市邑ノ當サニ之レヲ掌ルヘキモノトス

救貧制度ノ事務ニ就キテハ本書前第六十二節ヲ參照セヨ

普通教育事務ニ就キテハ本書以下第三篇ノ各章ニ詳述ス

クルヘツセンニ於キテハ普通教育ハ單ニ國家ノ設立ニ係レル制度ニ

シテ學區ハ法律上ノ無形人タル資格ヲ備ヘサル純粹ノ行政區畫タルニ過キス然レモ別ニ校舍ヲ要スル地方ニ在リテハ市邑ニシテ此等ノ教育事務ヲ掌ルヲ以テ常則トス但シ基督教會及猶太教派ニ屬スル學院ハ此ノ例ニ據ルノ限リニアラス

三、市邑共産ノ行政及市邑財務ノ執行ハ文化發達ノ必要ヲ充タシ及ヒ教會財産ヲ理ムルニ關スル權利義務ト密着スル必要ノ方便ナリ

(同上バイエルン邑法第二十六節第六十五節第八十四節第二百〇六節
同上澳國邑法第五條同上普國市府法第四十九節第五十六節同上ブラ
ウンシュワイグ市府法第一節第九十四節第四百十三節及第四百七十四節
参照)

市邑ノ隨意ニ任シタル自立ノ事務トハ其ノ舉行及ヒ監督ニ就キ市邑敢テ之ヲ爲スヘキ義務ナキ者ニシテ國家

又ハ其ノ他ノ者ヨリ強テ之レヲ行ハシムルヲ能ハサルモノヲ云フ

此ノ種ニ屬スル事務ハ高等教育及ヒ遊戯快樂等ニ關スル事業ナリ故ニ之ヲ國家行政中ノ事務ニ比照セハ恰モ必要欠クヘカラサル費目ト起業利益ノ爲メニヌル費目トニ於ケルノ關係アリ(ラウ氏著財政學第二十六節参照)

右等ノ事務ニ關シテハ市邑ハ自ラ其ノ自由ナル意思ニ依リ獨斷決行スルヲ得レモ爲メニ他ノ必要ナル事業ヲ害スルニ至ルヲ能ハサルカ故ニ幾分ノ制限ナキニアラス

市區ノ隨意ニ任シタル事業ハ就中各人各個若クハ市邑内住民ノ一部ノ爲メニ利益ナル者ヲ云フ(本書前第九十八節比較)

之レニ反シテ市邑ノ委任事務條件ハ一般國家ノ行政區

分及ヒ憲法ヲ以テ之レヲ定ム今其ノ注目スヘキ條規ヲ
舉クレハ左ノ如シ

一、大ナル市邑ハ一般國家ノ行政區畫タルノ職務ヲ行ハ
サルヘカラス

此ノ場合ニ於キテハ市邑ハ政府ノ條例公達及ヒ諸官省布達ヲ實行ス

(同上) バエールン 邑法第九十三條及第九十六條同上普國市府法第五十

六節同上 ブラウンシュワイグ 市府法第百〇一節及第百八十八節參照

二、右市邑ハ地方ニ屬スル國家行政事務ヲ監理ス但シ特

ニ指定シタル官衙アル場合ノ外國家ノ諸官衙ノ命令ニ

服従スヘキモノトス

(同上) 普國市府法第六十二節參照

重要ナル市邑(設令ヘハ都府)等ニ於キテハ市邑自立ノ活

動ニ屬スル事務ト雖モ國家官衙ノ監督ヲ受ケ又ハ之レ

ト共同ノ作用ヲ爲スニアリ

國家官衙ト共同ノ作用ヲ要スル事務ハ主トシテ政治警察即チ出版、集

會、結社、公安警察ノ事務ニ在リ又タ警察事務ニ關シテ市邑ノ爲スヘキ

事業ハ其ノ市邑内ニ於ケル人身及ヒ財産ノ保護トス

(千八百五十年三月十一日ノ普國警察條例同上) バエールン 邑法第九十

四條第九十七條及第九十八條同上 ブラウンシュワイグ 市府法第九十八

節及ヒ第百八十九節同上) バーデン 邑法第六節參照

(ハ) 市邑憲法

第百〇五節 總論

市邑内ノ事務ニ關スル市邑ノ意思ニシテ其ノ法律上ニ
有効ナルモノハ獨リ市邑團結員ノミ之ヲ定ムルヲ得
而シテ市員團結員全体ヨリ成リタル地方團結体ハ必ス

社會法上ノ性質ヲ帶フヘキモノナルヲ以テ各市邑團結員ハ皆ナ同等ノ權利ヲ有スヘキモノナリトス
 右ノ原則ハ共衆團結即チ多數ノ人衆ヨリ成立シタル無形人ノ普通ノ本性ヨリ發生スルモノナレトモ本來市邑ハ公ケナル性質ヲ有スルモノナルカ故ニ爲メニ多少ノ制限ヲ受ケ地方共同体ノ事務並ニ該事務ヲ實行スル爲メニスル外形ノ機關ハ法律ノ成規即チ市邑憲法ニ依リテ之ヲ規定ス

(ツエーブル氏著獨逸國法原理第二卷第四百二十八節スタイン氏著行政學第一卷第二葉及ヒ第三百十三葉參照)

上來述フル處ノ原理ニ依リ發生スル市邑ノ憲法ハ私立ノ會社ニ關スル原則ト大ニ其主意ヲ異ニセリ私立會社ニ於キテハ其意思ハ總會員カ自由ノ決議ニ依テ之レヲ

作爲スレトモ總會員自由ノ決議トハ本書第九十節ニ於キテ論說シタル會社ノ總會ヲ指ス市邑ハ市邑活動ノ機關及ヒ其ノ共同作用ノ關係等整然規定ノアルアレハ恣ニ之ヲ爲ストテ得ス即チ其規定ハ左ノ三項ニ關スルモノトス

第一、市邑ノ共同ノ意思ヲ發動スヘキ權理ヲ有スヘキ人民ニ付キテノ規定

第二、市邑ノ共同ノ意思ヲ發動スヘキ事件ニ就キテノ規定

第三、第一、第二ニ掲ケタルトテ執行スル處ノ機關ニ就キテノ規定

今又一般ノ市邑憲法ヲ論スル片ハ左ノ諸原則ニ歸スルモノトス

第一、市邑ノ意思ヲ組成スル丁ニ參與シ得ヘキ權利ヲ有スルモノハ必スシモ全市邑所屬民ニアラスシテ特ニ民權ヲ有スルモノニ限ルヘシ(本書第百〇一節參照)

市邑ノ意思ヲ發動スル丁ノ權利アルモノト其ノ權利ナキモノトヲ區分スル丁ニ就キテハ可成的寛大ヲ主トセサルヘカラス若シ然ラズシテ切然嚴格ニ適否ヲ附スルキハ市邑ニ固有ナル社會的ノ性質ヲ廢滅セシムルニ至ルヘシ豈ニ注意セサルヘケンヤ然ルニ論者往々國民ノ國家ノ政治ニ關與スル制度ヲ以テ市邑ニ適用セントスル者アレヒ是レ大ナル誤見ニシテ市邑ニ於キテハ貧困又ハ無教育ノ人民ニ關スル必要ナル事務尤モ許多ナルノ事實ヲ忘却シタルモノナリ現ニ各市邑ノ憲法ニ於キテ貧困及ヒ教育ナキ人民ヲ放棄シ不斷之ヲ願ミル丁ナカリシ丁ハ實ニ愍レムヘキ結果ヲ發生シ市邑ノ事務中ニ於キテハ最モ必要ナル常務即チ貧民衛生法、貧民生活法、貧民救助法等ニ關スル諸

制度ハ却ツテ之レヲ度外視スルニ至レリ

斯ク市邑ノ意思ヲ發動スル權利ノ有無ヲ嚴格ニ區別スルノ不可ナル丁ハ既ニ明カナリト雖ヒ尙ホ市邑ヲ以テ一ノ營業組合ノ如クニ見做シ該組合ノ許可ヲ得以テ之レニ加入シタルモノニアラサレハ市邑事務ニ關シテハ一切條ヲ容ル、丁ヲ得サラシムル如キ制ヲ設クルハ尙尤モ不當ナル制度ト云ハサルヲ得ス(カツプ氏編纂千八百七十一年普國年報中ニウヨルク府行政法第二十八卷ヲ參照セヨ)

第二、最モ狹少ナル邑ニアラサレハ市邑民ト雖ヒ直接ニ自ラ進テ第一ニ論セシ所即チ市邑ノ意思ヲ動議スル事務ヲ執行スル丁ナク只々其ノ代議士ヲ以テ之ヲ爲サシム(市邑代議員撰舉)

第三、市邑議決ノ實行及ヒ臨時行フ處ハ事務ノ監督ニ至テハ敢テ市邑民自ラ之ヲ爲スニアラス又代議士之レ

ニ當ルニアラス只ダ特別ナル市邑廳アツテ之ヲ掌ル故
 ニ市邑ニ於テ議決シタル事件ノ實行ニ關シテハ必ス市
 邑廳ノ承諾アルヲ要ス(市邑行政)

第四、右ノ市邑廳ハ内外ニ對シテ市邑ヲ代表シ且ツ市
 邑警察事務ニ關シテハ獨立ナル布達ヲ發行スルノ權ア
 リ

第五、時トシテハ數市邑合同シテ或ル共同ノ事務ヲ行
 フトアリ此ノ場合ニ於キテハ隨テ又數市邑共同ノ機關
 ヲ生スヘシ

第六、市邑又ハ國家ノ目的ノ爲メニスル市邑ノ作用ハ
 常ニ國憲ノ監督指揮ニ服ス

以上六個ノ原則ハ市府ト村邑トニ於テ其差異ヲ生ス然
 レ此ノ差異タル敢テ法律上定メタル差異ノ區別ニア

ラスシテ各市邑ニ於ケル事務即チ事實上ノ差異ナリト
 ス

(ツエーブル氏著獨乙國法原理第二卷第四百廿節千八百七十年五月十
 四日ノパーテンノ法律第一節千八百六十九年四月廿九日バエールン
 市邑法第八條參照)

又千八百三十一年四月二十九日ノサクセンアルテンブルヒノ憲法
 千八百四十八年九月五日ハンノーベル法律等ニ於ケル市府及ヒ郡邑
 二者ノ區別ノ如キハ既ニ陳腐ニ屬スルモノナリ

右市府又ハ郡邑二者ノ憲法中何レノ憲法ヲ採用スルカ
 ハ各市邑ノ撰擇スル所ニ任スト雖モ然レモ亦政府ノ
 許可ヲ要スルナカルヘカラス而シテ政府ニ於キテハ
 其請願ノ都度妄リニ之ヲ許可セルモノニアラスシテ必
 スヤ市邑内ニ付キ其事物ノ性質又ハ行政上必要ノ度等

ヲ酌量シ而シテ後チ許可スルモノトス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第九條千八百五十六年四月十四日ノ普國邑法第十七條參照)

(天) 市府憲法

第百〇六節 市會

市府憲法ヲ遵守スヘキ市邑ニ於キテハ其ノ市府民ノ全体ハ一定ノ年限間(凡ソ六年ヨリ九年ニ至ル)合格ノ人民中ヨリ法律ニ制定シタル人數ヲ撰舉シ以テ各自ヲ代表セシメ全市邑ノ意思ヲシテ一場ニ發露スル爲メ法律上認定シタル機關ヲ組織ス

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第十節及ヒ第十二節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第七十條及ヒ第百〇八條

千八百五十一年五月一日ハンノーブル市府法第二十二節千八百六十二年三月五日澳國市府法第八條千八百七十年三月十四日バーデン市邑法第四十二節參照)

一般撰舉スルコト能ハサルモノハ府廳員官吏及ヒ在職ノ軍人トス又タ其他年齡住居等ノ條件ヲ具備セルモノニアラサレハ撰舉スルコト能ハス

又或ル一定ノ租稅ヲ收ムルモノニアラサレハ免サ、ル場合アリテ各邦ノ法規皆ナ同カラサルナリ

右ノ機關ハ就中行政廳即チ市府ニ反對シテ獨立ノ形ヲ顯ハシ市邑民全体ヲ代表シ監督上班廳ト直接ノ交通ヲ爲スコトヲ得ル即チ第一市邑万般ノ事務ニ就キ斷然議決ヲ爲シ第二平素ニ市邑ノ行政ヲ視察シ以テ之ヲ管鎖スルノ權ヲ有ス今其ノ權利義務ニ付キ左ニ之ヲ詳論スヘ

第一、市邑一切ノ事務ヲ評議シ且ツ之ヲ議決スルヲ但シ法律ノ明文ヲ以テ行政ヲ掌ル所ノ市府廳ニ委任サレタル事件ハ此限リニアラス

又議決ヲ執行スルノ權ハ市會ニ屬セサルヲ以テ如何ナル場合ト雖モ市會自ラ之ヲ執行スルヲ能ハス執行權ハ特リ市廳ニ屬ス

故ニ市會ノ議決執行ニ付キテハ常ニ市廳ノ認可ヲ要ス但シ市廳ハ其理由ヲ説明スルニアラサレハ決シテ之カ不認可ヲ爲スヲ得ス又市廳ト市會ト其意見ヲ異ニシ評議ヲ爲スト雖モ尙ホ一致セサルトキハ法律ニ定メタル監督上班廳之ヲ裁決ス(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第三十五節及第三十六節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百十二條第百十四條及ヒ第百十五條千八百五十

年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第四十六節第四十七節及ヒ第百〇六節千八百五十一年三月一日ハンノーベル市府法第九十九節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第五十六節澳國邑法第三十一節參照)

市會カ市府ノ事務ニ付テ凡テノ議決ヲ爲スヘキ權利ヲ有スルノ一般ノ原則ナリト雖モ各邦必スシモ異同ナキニアラス即チ市廳カ只特ニ委任サレタル事件ノ行政ヲ司ルノ場合ト市會カ或ル特別ノ場合ニミ議決ヲ爲スノ權アル場合ト二様ノ區別アルヲ以テ自ラ市邑ノ憲法ニモ亦此ノ異同ヲ生セリ然レモ重要ナル事件ニ至リテハ何レノ憲法ニ據ルモ其結果ニ於テ差等アルヲナシバエールンブラウンシュワイグハンノーベル等ノ諸市府ノ如キハ第二ノ場合ニ屬スル憲法ヲ採用セリ

右市會ノ商議々決スヘキ市邑事務ノ細目ヲ舉クレハ左

ノ如シ

(甲) 苟モ市府ノ共同ノ一体タル資格ニ關スル限リハ市府ノ財産共產團結及ヒ市府内ノ學校衛生等ノ諸制度ヲ利用スル事

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第四十九節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第四十六節千八百五十一年三月一日ノハンノーベル市府法第九十九節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第一百十二條千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第五十六節澳國邑法第三十二節及ヒ第三百三十四節參照)

(乙) 市邑ノ歳入歳出ヲ議決スル

(千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第五百五十四節澳國邑法第三十二節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第三十九條千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第六十六節及ヒ本書以下

第一百七節參照

(丙) 市邑ノ必要若クハ義務ヲ執行スル爲メニ必要ナル金錢ノ需用アル片ハ市府ノ財産ヨリ充タスヘキ歳入ヲ以テ之レニ給スヘケレト若シ其歳入ニ不足ヲ生スルトアラハ市邑ノ租稅ヲ徵收シ若クハ公債ヲ起ス

(同上普國市府法第五十三節同上ブラウンシュワイグ市府法第四十六節同上バエールン市邑法第四十二條第四十七條同上ハンノーベル市府法第九十八節同上バーデン市邑法第四十六節澳國邑法第三十二節及ヒ本書以下第百十五節參照)

(丁) 市邑ノ事業ヲ執行スル爲メノ市邑傭人ヲ整序スル

(同上普國市邑法第五十四節全上ブラウンシュワイグ市府法第四十六節全上ハンノーベル市府法第九十九節全上バエールン市邑法第一百十二

條參照

(戊) 市會ハ市邑ニ關セサル事務ニ付キテハ只々特別ナル法律若クハ或ル場合ニ臨ミ監督上班廳ノ請求ニ依テ委任ヲ受ケタル片ニアラサルヨリハ更ニ商議スルナシ是ヲ以テ假令ヒ以上ノ理由ニ依リ評議スルナアルモ單ニ其意見ヲ陳述スルノミニ止ル

(同上普國市府法第三十五節メーレル氏著普國邑法第二十四節參照)

第二、市廳若クハ監督局ノ請求ニ應スル場合ニ於キテハ凡テノ事件ニ付キ市會ハ只々其意見ヲ陳述ス又市邑ノ利害ニ關スルナアル片ハ市廳ニ建議ヲ爲ス

(同上普國市府法第三十五節全上ブラウンシウイグ市府法第四十八節及ヒ第五十二節同上パエールン市邑法第百十五條澳國邑法第四十節參照)

第三、市邑ノ事務ニ關スル建白及ヒ請願書ヲ受理スル

(同上ブラウンシウイグ市府法第五十條參照)

第四、市廳ノ役員ヲ撰舉スル事

(本書以下第百〇七節參照)

第五、市會ハ市廳ノ行政ヲ監督スルヲ以テ左ノ權利ヲ有ス

(甲) 市會議決ノ執行及ヒ規則ニ隨ヒ市府ノ經費等ニ關シ市廳ノ爲シタルナニ就キ之レヲ認可スル事

(乙) 市廳ニシテ其職務ヲ怠リ若クハ義務ヲ破リタル片ニハ之ヲ國家ノ官衙ニ請願スル事

(全上普國市府法第三十四節全上ブラウンシウイグ市府法第四十九節及ヒ第五十三節全上ハンノーベル市府法第九十八節全上パエールン

市邑法第百十五條同上澳國邑法第四十二條及ヒ千八百六十二年三月五日ノ同國市邑法第十二條第十三條參照

以上掲クル所ヲ以テ市會ノナスヘキ事務トス而シテ市會ノ該職務ヲ行フニハ規則ニヨリ開クヘキ公ケナル集會ニ於テ其自ラ撰ヒタル議長若クハ副議長ノ指揮ニ隨ヒ之ヲ執行ス又特別ノ委員及ヒ專務委員ヲ設ケテ評議ヲ爲サシムルヲ得

(同上澳國邑法第四十七節全上バーデン市邑法第五十二節參照)

議決ハ議決ヲ爲スヘキ權ヲ有スル出席會員ノ投票ニ依ル(同上普國市府法第三十八節ヨリ第四十八節マテ全上ブラウンシュワイグ市府法第五十五節全上ハンノーベル市府法第百〇五節第百十三節全上バーレン市邑法第百十六條ヨリ第百十九條ニ至ル千八百六十二年三月五日ノ澳國市邑法第十四條全上澳國邑法第四十三節參照)

第百〇七節 市廳及役員

市廳ハ法律ヲ以テ規定セラレ且ツ合議共同ノ組織ヲ有スル役員ヨリ成ル所ノ權衡ニシテ市府行政事務ヲ掌ル者ナリ

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第五十六節及ヒ第五十七節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第六十七節及ヒ第九十四節千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第三十七節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第八節千八百六十九年四月廿九日ノバーン市邑法第七十條澳國邑法第五十一節參照)

市廳ハ左ノ役員ヨリ成立ス

第一、知事一人

第二、知事ノ代理人(副知事一人知事代理人二人)

(全上普國市府法第二十節ブラウンシュワイグ市府法第六十七節全上ハ

ンノ一ベル市府法第三十八節同上バエールン市邑法第七十一條及ヒ
第七十二條全上バーデン市邑法第十節參照)

知事ノ代理者ハ其代理タル職務ヲ執ル場合ニ於キテハ市廳ノ集會並
ニ議決ニ參與スルコトヲ得全上普國市府法第五十七節參照)

第三、書記官若干名(市府書記官市廳書記官^{アルターレン}老宣^{セナト}
ール官及ヒ檢事等ナリ)

右等ノ役員ハ民撰ニ出ル者アリ又ハ市廳ノ任命ニ出ル
モノアリ其ノ員數ハ市邑人民ノ多寡及ヒ地方ノ狀況ニ
應シ法律條例ニ據リ若クハ市府ノ議決ヲ以テ之レヲ定
ム

第四、市府ノ需用ニ應シテ定置シタル數名ノ技術家及
ヒ補助役員(代言人、統計掛、學務掛、山林掛及ヒ建築掛等ナ
リ)

第五、以上列舉シタル役員ノ外尙ホ特別ナル書記ヲ要
スルコトアリ此場合ニ於キテハ該書記ノ任用ハ往々法律
ヲ以テ之ヲ規定スルコトアリ

(全上バーデン市府法第八節及ヒ第五十四節千八百三十四年十月二十
三日ノックルヘッセン市邑法第五十四節及ヒ第五十五節千八百六十九
年四月廿九日ノバエールン市邑法第七十二節參照)

右役員ノ中ニ於キテ知事ヨリ任命セラレタル書記官並
ニ補助役員及ヒ書記生等ハ法律規則又ハ市邑ノ議決ニ
ヨリテ定メタル給料ヲ受クルト雖モ其ノ他ノ市廳ノ役
員ニ在リテハ無俸給ニシテ只タ嘗テ要用ニ際シ市廳ノ
爲メニ自己ノ金錢ヲ以テ立換ヘタル金額ノ償却ヲ要求
スルコトヲ得ルノ權アルノミニ過キササルナリ
給料ヲ受クルノ權ヲ有スル役員ハ規則ニ定メタル退隱料ヲ請求スル

ノ權アリ(同上普國市府法第六十四節及ヒ第六十五節同上バエールン市府法第七十四節第七十六節同上ハンノーベル市府法第九十二節全上ブラウンシュワイグ市府法第二十一節參照)

(給料ヲ受クルノ權アル役員ノイニ就キテハ同上普國市府法第六十四節全上バエールン市邑法第七十五條全上ブラウンシュワイグ市府法第七十二節澳國邑法第二十六節全上バーテン市府法第二十一節參照) 市廳ノ役員ハ總テ一定ノ年限間(三年若クハ六年乃至十二年間)市會ニ於キテ之レヲ撰舉ス而シテ無俸給ノ役員ハ確明ナル一定ノ理由アルニアラサレハ其ノ撰ヒヲ辭スルヲ得ス但シ一定ノ條件ヲ備ヘサル者即チ法律上ノ不合格タルヘキモノハ素ヨリ之ヲ撰舉スルヲ得ス (全上普國市邑法第三十節及ヒ第三十一節全上バエールン市邑法第七十五節第七十條第七十三條第七十四條及ヒ第九十二條全上

クルヘツセン市邑法第三十九節全上ハンノーベル市府法第五十三節參照)

確明ナル一定ノ理由トハバエールン市邑法ニ從フキハ身体ノ不具若クハ精神上ノ無能力、高年、常時不在、及ヒ再撰等ノ場合トス

撰舉ニ合格ノモノトハ一般成規ノ年齢ニ達シタルヲ、身体ノ不具、又ハ無能力、ニアラサルヲ及ヒ官員、代議士ニアラサルヲ等ヲ云フナリ

法律ヲ以テ定メタル行政官衙又ハ上班廳ニ於テ撰舉サレタル役員ヲ認了若クハ否決スルヲハ市邑毎ニ其ノ憲法ニ於テ各々規則ヲ異ニスト雖、其不認可ノ權ヲ執行スルハ其ノ理由ヲ明示スルニアラサレハ得ヘカラサルノ點ニ至テハ更ニ異同アルヲナシ

(同上普國市府法第三十三節全上バエールン市邑法第七十八條全上ブラウンシュワイグ市府法第七十一節全上クルヘツセン市邑法第五十節

全上澳國市邑法第二十二條參照但シバーデンニ於テハ一モ之ヲ認否
スルノ成規ナシ

市廳ノ有給役員ハ官吏ノ如ク見做シ之ヲ待ツヲ以テ純粹ナル官吏ト一般己レ辭職セント欲スル片ハ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ其辭職スルト同時ニ給料並ニ退隱料ヲ請求シ得ヘキ權ハ共ニ消滅スルモノトス之レニ及シテ無給役員ハ法律上ニ定メタル理由若クハ市會ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其職ヲ辭スルトヲ得ス

有給役員ノコトニ付ヤテハ全上バエールン市邑法第八十一條同上ブラ
ウンシウイグ市府法第八十三節及ヒ第九十二節參照スヘシ但シ其退
職ヲ命スヘキ理由即チ條件ハ政府ノ官吏ニ對スル場合ト相類似セリ
無給役員ノ辭職ニ付ヤテハ全上普國市府法第七十四條同上バエール
ン市邑法第八十條同上ブラウンシウイグ市府法第二十三節第二十四

節及ヒ第二十六節ヲ參照スヘシ

無給ノ役員ハ其當撰ニ必要ナル資格ヲ失ヒタル場合又ハ其職務ヲ全フスル丁能ハサル事故ノ出來セシ片ハ其ノ職ヲ退カシムルモノトス

全上バエールン市邑法第八十節及第八十二節同上普國市邑法第七十
五節全上ブラウンシウイグ市府法第二十六節全上バーデン市邑法第
二十四節及ヒ第二十六節參照)

第百〇八節 市廳ノ事務

市廳ノ正ニ爲スヘキ權限ニ付キ一般ニ之ヲ論スル片ハ其範圍タルヤ市邑ノ議決セシ事件ヲ實行スルトト及ヒ國家ノ目的ノ爲メニ執行スヘキ法律トニ基キタル市邑活動ノ行政ニ關係セル万般ノ事務ヲ執ルニアリ今マ其ノ細目ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一、市廳ハ全國一般ノ法律及ヒ布達並ニ市會ノ議決ニ關シテハ市邑内ノ執行權衙ナリ但シ市會ノ議決ニ付キテハ市廳モ亦タ之レニ與カリ共ニ其可否ヲ評決スルモノトス

法律若クハ布達ノ執行ニ付キテハ市廳ハ市會ト全ク隔絶シタル獨立ノ權ヲ有ス(全上プラウンシウイグ市府法第七十三節參照)ト雖モ市會ノ議決ニ關シテハ市廳ハ其議決及ヒ執行ヲ拒ムノ權アリ而シテ市廳カ此ノ權カヲ執行シ得ル場合ハ市會ノ議決ニシテ法律規則ニ違反シ又ハ國家ノ安寧若クハ市邑ノ利益ヲ妨害スルトキニアリトス(本書前第百〇六節ノ附論全上普國市府法第五十六節全上プラウンシウイグ市府法第七十七節第五十四節及ヒ第百四節同上ハンノーベル市府法第七十節全上バエールン市邑法第八十四條澳國邑法第五十六節全上バーデン市邑法第五十三節參照)

第二、市廳ハ市邑ノ建設物及ヒ市邑財産ノ行政ヲ掌リ且ツ濟貧事務(宗教及ヒ教育等ノ制度ニ付キテハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之レニ關涉ス

(全上普國市府法第五十六節同上バエールン市邑法第八十七條第九十一條及ヒ第百〇六條全上プラウンシウイグ市府法第五十六節參照)

第三、市廳ハ市邑ノ歲入歲出ノ行政ヲ掌リ就中法律ノ條規ト及ヒ市會ノ議決トニ從ヒ納稅ノ義務アル市邑人民ニ租稅ヲ賦當シ且ツ之ヲ釀集ス

(全上普國市府法第五十六節全上プラウンシウイグ市府法第九十五節同上バエールン市邑法第八十六條參照)

第四、市會ノ意見ヲ聽キ市邑ノ役員ヲ採用シ且ツ之レヲ監督スル

(全上普國市府法第五十六節全上バエールン市邑法第八十五條全上プ

ラウンシヨウイグ市府法第四十六節第九十五節及ヒ第百二十三節參照
劣等ナル役員ノ任用ハ市會ノ意見ヲ採タス市府廳之ヲ斷行ス

第五、市廳ハ市府ヲ代表スルモノナレハ諸官衙若クハ庶民ト交通往復スルニ就キテ必ラス市府ノ名義ヲ以テ之レヲ爲シ且ツ市府一切ノ書類ヲ保存スルノ事務ヲ掌ル

知事若クハ其代理人タルモノハ市府萬般ノ書類ニ必ス署名スヘキモノトス(全上普國市府法第五十六節全上バエールン市邑法第八十四條及ヒ第百〇一條全上ブラウンシヨウイグ市府法第百〇六節全上ハンノール市府法第七十節及ヒ澳國邑法第五十五節參照)

第六、市廳ハ警察行政權ヲ執行シ且ツ地方警察ニ關スル諸布達ヲ發行ス

(全上普國市府法第六十三節千八百五十年三月十一日ノ警察行政ニ關

スル普國法律第五節全上バエールン市邑法第九十二條第九十四條及ヒ第九十五條全上ブラウンシヨウイグ市府法第九十八節第九十九節全上ハンノール市府法第七十節及ヒ第七十一節全上バーデン市邑法第六十一節澳國邑法第三十一節及ヒ第五十八節參照)

澳國ニ於キテハ地方警察ニ關スル諸布達ヲ發行スル權ハ邑ノ委員ヲシテ之レヲ處理セシム而シテ市邑ニ於キテハ警察行政ニ關スル諸般ノ責任ハ充分之レヲ盡スヘキノ義務アルヲ以テ其必要ナル警察費用ノ支出ハ一切負擔セサルヲ得サルモノトセリ(本書前第百〇四節ヲ比較スヘシ)

故ニ市廳ハ市邑行政廳及ヒ警察本官衙タル資格ヲ有シ此資格ヲ以テ諸布告及ヒ諸布達ノ頒布ヲ執行スル上ニ付キテハ指定シタル部下ノ人民ニ對シ命令ヲ下スモノナリ而シテ該命令ヲシテ其人民ノ上ニ實行アラシメン

トスルニハ法律上制定シタル處ノ公力(即チ強行權)ヲ使
用スルヲ得

(全上バエールン邑法第九十九節全上ブラウンシヴィグ市府法第九十
九節澳國邑法第六十節及ヒ第六十一節全上バーテン市邑法第六十二
節參照)

市廳カ市廳百般ノ事務ヲ執行スル方法ニ就キテハ種々
ノ場合アリ則チ左ニ之ヲ舉示スヘシ

(甲) 市廳役員ノ全集會ニ於テ舉行スルヲアリ

市會若クハ國家ノ監督長ノ議決ヲ經ルニアラサレハ確定スヘカラサ
ル事件ニ屬スル執行ハ盡ク全集會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス(全上バ
エールン市邑法第百〇二條參照)

(乙) 全集會ノ評議ヲ必要トセサル場合即チ執行ニ慣例
アル事件若クハ輕少ナル事件ニ就キテハ市廳各部局ノ

評議所ニ於テ之ヲ爲スヲアリ

(全上バエールン市邑法第百〇二條全上普國市府法第五十九節參照)

(丙) 或ル場合ニ於キテハ市廳及ヒ市會ノ聯合會ニ於テ
之ヲ爲スヲアリ

(全上バエールン市邑法第八十八條及ヒ第百十八條同上ブラウンシ
ヴィグ市府法第百十四節ヨリ第百二十節ニ至ル澳國邑法第六十二節同
上普國市府法第三十六節參照)

(丁) 市廳ノ諸局部ハ平常ノ事務ノ行政若クハ臨時特別
ノ事務ヲ執行スル爲メ市廳ノ役員ニアラサレハ市會ノ
議員市會ノ議員ニアラサレハ又其他ノ人民中ヨリ撰任
シタル市廳ノ代理委員ヲ以テ其事務ヲ行ハシムルヲ
得

市廳各部局ノ行政ニシテ代理役員ヲ以テ行ハシムルヲ得ヘキ事務

トハ即チ計算、金庫、建築、軍卒宿制、街路、水道、及ヒ學校等ニ關スル各部署ノ行政制度ヲ云フ(全上普國市府法第五十九節全上パエールン市府法第百〇六條同上)アヲウシヨウイグ市府法第百〇五節參照)

市廳ノ役員ハ法律ノ定規ニ從ヒ其職務ニ適切ニシテ且ツ其ノ職務ヲ執行スルニ當リテハ最モ注意ヲ要スルノ責任ヲ有ス

市廳ノ長官即チ知事ハ市廳ノ爲シ得ヘカラサル越權ノヲ或ハ法律規則ニ違背シタルヲ又ハ國家若シクハ市府ノ安寧幸福ニ危害アルヘキヲト認ムルトキハ直ニ其執行ヲ拒停シテ以テ之ヲ成規ノ上班廳ニ上申シ其決裁ヲ仰クヲ得(全上パエールン市府法第百五十八條全上パエールン市府法第七十七節及ヒ第七十九節參照)

第百〇九節 區長

廣大ナル市府又ハ人民ノ衆多ナル市府ニ於キテハ市廳

ノ機關トシテ區長ヲ置クヲ得

市廳ハ市會ノ意見ヲ聞キタル上ニテ全府ヲ適當ノ區畫ニ別チ各區ニ區長ヲ置キ其管轄區内ニ屬スル市府行政事務ヲ掌ラシム

(全上普國市府法第六十節同上)パエールン市府法第百二十條全上パエールン市府法第四十一節(澳國邑法第五十四節參照)

市會ハ法律ニ定メタル合格ノ人民中ヨリ區長ヲ撰舉スルヲ得ルノ權アリト雖トモ實ニ之ヲ任命スルニハ必スヤ市廳ノ認可ヲ要ス但シ區長ハ無俸給ニシテ事務ヲ行フノ義務アルモノトス

(同上普國市府法第六十節(澳國邑法第五十四節參照))

パエールンニ於キテハ區長ヲ撰任スルニハ市廳ノ權内ニ屬スルヲ以テ又半途ニシテ之レカ退職ヲモ爲サシムルヲ得ルモノトス(レヒク)

ルヘツセンニ於テハ市府ノ委員ト市廳ノ役員ト協議ノ上ニアラサレハ區長ヲ任命スルヲ得ストセリ

區長ハ市廳ノ命令ヲ奉シ其己レカ擔任區内ニ於ケル事務ヲ執行スルニ付キ市廳ヲ補助スルモノタリ而シテ又警察ノ事務ニ關シテハ或ル危急ノ場合ニ於キテハ知事ノ代理者トシテ之レカ執行ヲ掌ラサルヘカラス

(全上普國市府法第六十節同上ハンノーベル市邑法第二百一十一條參照)

第一百十節 知事

府廳ノ長タル知事ハ法律ノ成規ニ據リ左ノ各項ニ揭クル處ノ權利義務ヲ有スルモノトス

スタイン氏ハ市府ノ長ナル知事ヲ以テ國家ノ元首ト同視スト雖是該知事ヲ設置シアル處ノ市廳構成ノ何モノタルヲ知ラサルヨリ起リタル說ナリ抑モ市廳ナルモノハ前ニモ詳論セシミアリシ如ク市府全

體ノ事務ヲ處理スル諸役員ヲ舉ケ合議協同ノ組織ヲ以テ成立シタルモノナレハ之レカ長タル知事ヲ視テ國家ノ元首ト同一ニ論スルハ則チ市廳ノ性質ニ適合セサルノ說ト云ハサルヘカラサルナリ故ニ知事ノ職務權限ヲ約言スレハ蓋シ市廳ノ議長タルニ過キスト云ハンノミ

(スタイン氏著普國行政學第一卷第二章第三百十四葉參照)

第一、知事ハ市府ノ行政ニ關スル万般ノ事務ヲ指揮監督スルヲ以テ本務トス今マ其職務中尤モ緊要ナル一二ヲ舉クレハ即チ市廳諸役員ニ對シ各々其職務ヲ配當スル丁又議事アル片ニ於テハ之レカ議長トナル丁又市廳ノ議決セシ事件ノ執行ヲ照顧スル丁若シクハ市廳員ノ全体ノ合議協同ノ方法ニ適セサル處ノ事務ヲ獨斷執行スル丁等ノ如キ是ナリ而シテ其合議協同ノ方法ニ適セサル事柄トハ或ル事件ノ起リタル片ニ當テ預メ市廳

全体ノ役員ヲ集メ合議評決ヲ爲サシメントスル片ハ循々トシテ進マス之レカ爲メ無益ノ日子ヲ消費スルノ恐レアルニヨリ其不便ヲ謀リ知事ノ獨斷ヲ以テ執行スヘキ如キモノヲ云フ但シ該處分ヲナシタル片ニ於キテハ市廳役員ノ認可ヲ得ルカ否ヲサレハ其ノ議決ヲ得ンカ爲メ之レヲ同員ニ報告スヘキモノトス

(千八百五十三年三月三十日ノ普國市府法第五十八節千八百五十一年三月一日ノハンノーベル市府法第七十三節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百〇九節千八百三十四年十月二十三日ノグルヘッセン市邑法第五十九節乃至第六十一節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第九十四條及ヒ第百〇一條千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第五十二節參照)

第二、知事ハ市廳ノ役員及ヒ市府ノ官吏ヲシテ各々通

常ノ職務ニ就カシメ而シテ之レヲ指揮スル

(全上普國市府法第三十四節同上バエールン市邑法第七十九條參照)

第三、知事ハ市府ノ官吏ニシテ其職務ニ怠慢ナル乎若クハ不品行ノ舉動アル場合ニ於テ其ノ懲戒處分ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フ

(全上普國市府法第五十八節同上ブラウンシュワイグ市府法第百〇九節 澳國邑法第五十三節參照)

バエールンニ於キテハ市府ノ官吏ニ關スル懲戒ノ事務ヲ以テ知事一人ノ義務トナサスシテ之ヲ數種ニ區別シタリ即チ知事市廳市府ノ檢事及ヒ國家ノ官衙ノ間等ニ於キテ擔任スルモノトス(千八百六十九年四月廿九日ノバエールン市邑法第百六十五條及ヒ第百六十六條參照)
第四、知事ハ市邑團結員即チ自己ノ管轄内タル市府及ヒ郡邑ノ人民ノ間ニ生シタル訴訟ノ勸解ヲ掌サトル事

(全上バエールン市邑法第百條澳國邑法第三十九節參照)

第五、知事ハ地方警察ニ關スル行政事務ノ取扱ヒ及ヒ違警罪ニ關スル裁判事務ノ補助ヲ爲ス(違警罪ニ關スル裁判ノ補助トハ違警罪裁判ニ立會スル檢事ノ職之レナリ但國家政府ヨリ特ニ任セラレタル檢事アル場合ハ此限リニアラス)

(全上普國市府法第六十二節同上バエールン市邑法第九十四條及ヒ第九十八條同上ブラウンシュワイグ市府法第九十八節及ヒ第百節同上バ
ーデン市邑法第五十二節參照)

此等ノ事務ハ知事自ラ之ヲ照顧スルノ義務アリト雖モ若シ事故アツテ自ラ爲スコ能ハサルモ他ノ市廳役員ヲシテ之ヲ爲サシメ而シ只
々之レヲ監督スルコトヲ得千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市
府法第七十一節及ヒ第七十八節參照)

第六、知事ハ他ノ官衙ニ於キテ支配スヘキ事務ノ限外ニ附セラレタル處ノ公ケナル行政ニシテ地方ニ屬スル事務ニ就キテハ凡テ之ヲ照顧スヘキ義務アリトス

(全上普國市府法第六十二節同上ブラウンシュワイグ市府法第百節及ヒ第百〇一節同上クルヘツセン市邑法第六十一節同上バエールン市邑
法第九十六條參照)

以上詳説セシ如ク知事タルモノハ右各項ニ掲ケシ處ノ輕少ナラサル事務ヲ照顧スルノ權利義務ヲ有スルニモ拘ハラズ該知事ト及ヒ市邑ノ書記官トハ爲メニ公ケノ官吏タルノ地位資格ヲ得有スル丁ナク只々市邑ノ役員タル固有ノ性質ヲ存スルノミナリ然リト雖モ給料及ヒ任職等ノ事柄ニ至テハ正シク公ケナル官吏ト同様ノ權利ヲ有スレモ其他ノ諸關係例ヘハ彼ノ官吏タルノ榮譽

ヲ毀損スル等ノ如キトニ關シテハ決シテ純然タル公ケ
ノ官吏ト同視スルナシ

(千八百四十一年七月四日ノ普國內閣布達參照)

(地) 邑ノ憲法

第百十一節 邑制

邑ノ構成ト市府ノ構成トハ其間自ラ異ナル所アリ即チ
市府ハ素ト其ノ市府團結員ノ或ハ商或ハ工或ハ職ト凡
ソ社會ニ存スル百種ノ營業ヲ爲スモノ、集會則チ種族
極メテ數多ナルカ故ニ其ノ文化發達ノ活動モ亦極メ
テ錯雜混淆シタルモノナレト之レニ反シテ邑ニ於キテ
ハ其人民即チ團結員ハ率チ該村邑ニ固着セル土地ヲ耕
耘スルヲ以テ生業ト爲シ其ノ他ノ營業ニ從事スル者ハ
僅ニ十中ノ一ヲ充タスニ過キサレハ農業者ノ多數ヲ占

ムルヤ自カラ明カナリ故ニ概シテ之レヲ言フ片ハ邑ハ
總テ農業者ノミヲ以テ成立シタルモノナリト云フモ敢
テ妨ケナキカ如キノ實況ナリ是レ市府ト村邑ノ構成自
ラ異ナラサルヘカラサル所以ナリ

(ファウエル氏及ヒミョリス氏編纂經濟第十四年報第一卷中レツテ一氏著

邑團結論第三十七葉ヨリ第五十五葉ニ至ルアレツテ一氏著普國東部

及ヒ中央諸洲ニ於ケル邑團結及ヒ警察論シユチエム氏著ニ一アルサ

クセン及ヒヅエストフアーレンニ於ケル邑團結ニ關スル制度及ヒ憲

法論メーレル氏著邑團結及ヒ地主ニ關スル普國法等參照)

斯クノ如ク村邑ノ團結ハ農業ニノミ從事スルモノヲ以テ組成スト雖

モ近世文化發達ノ作用ニ由リ必スシモ變動ナキニアラス蓋シ邑ハ全

ク古來ヨリシテ自然市府ノ構成ト其權ヲ異ニシタルモノナリ(普國全

典第二編第七章第十八節及ヒ第二十節參照)

故ニ國ノ市府ヲ除キ其僻壤ニ住スル所ノ人民ノ一團結ヲ稱シテ邑ト云フモノナレハ其之ヲ支配スル憲法ノ如キモ自ラ市府憲法ト同一ナルト能ハサルヤ論ヲ俟タサルナリ而シテ今村邑憲法ヲ編成スルニ當リ如何ナル事如何ナル物ヲ基礎トシ之ヲ規定スヘキヤト云フニ其ノ基礎トスヘキモノニアリ第一農業ノ性質及ヒ其農業ヲ爲スニ必需ナル事項第二土地所有權ノ性質是レナリ

村邑ニ於キテハ農業ニ從事スル人々最モ多數ニ居ルト雖モ然レモ是レヲ以テ必スシモ古來ノ農業組合員タラサルヘカラサルモノト見做スヘカラス何トナレハ一度ヒ農業組合ヲ廢止シ及ヒ土地所有ニ關スル自由權ヲシテ安固ナラシメタルヨリ以來此ノ如キ習慣ハ大半廢止セラレタレハナリ(本書第四卷參照)故ニ本文ニ記セル二個ノ事柄ヲ以テ邑憲法ノ基礎トシタル所以ハ村邑ノ團結員ハ殆ント一般ニ農業ヲ

事トスルモノナレハ法律ヲ制定スルニ就キテモ亦タ隨テ該農業ニ固有ナル村邑ノ性質ヲ充分ニ含有スルニアラサレハ適中スヘカラサルトヲ知ルヲ以テナリ故ニ邑ニ屬スル水利、道路、橋梁、牧場、山林、牧畜、耕作、教育等ニ關スル制度ノ如キ主トシテ邑内ニ於ケル農業上ノ必需及ヒ其利益ニ就キテ洞察ヲ下シ以テ其制度規則ヲ制定セサルヘカラス然レモ反之市府憲法ニ於キテハ以上述フルカ如キ制度ヲ以テ足レリトスルモノニアラス前ニモ詳説セシ如ク凡百ノ種類アル府民ノ生業ヲシテ盡ク一制ノ許ニ統括スヘキモノナレハ其ノ利害ニ就キテハ獨リ農業者ノミナラス一般普及ノ洞察ト及ヒ其ノ必需ニ從テ之レカ制度ヲ規定セサルヘカラサルナリ

右ニ揭示セル如ク邑ノ憲法ハ其邑ニ固有ナル第一ノ性質即チ農業ノ性質及ヒ其ノ必需ヲ以テ基本トスルモノナレハ極メテ單純簡易ニシテ彼ノ市府憲法ノ如キ有機

的ノ繁雜ナル性質ヲ含有スル丁尤モ稀少ナリ蓋シ本來
 邑憲法ノ主タル目的ハ只々農業ノ一種ニ存スルヲ以テ
 一邑ニ係ル法規ノ水源トモ稱スヘキ邑會即チ撰舉權ヲ
 有スル邑民ノ全体ハ其ノ邑内ニ於ケル法律活動ノ中心
 ト爲リ毫モ他ニ倚賴スル丁ナク而シテ又村邑ノ行政事
 務ニ就キテモ市府ノ行政ト大ニ其趣ヲ異ニシ彼ノ敏狷
 ニシテ且ツ緻密ナル合議共同ノ機關即チ市府ニ於ケル
 市廳ノ如キモノアルヲ要セサルナリ

(ゲルヘル氏著獨逸私法論第五十四節ツエーブル氏著獨乙國法論第二
 卷第四百二十八節參照)

又邑ハ曩ニ示シタル如ク憲法ノ基礎ノ第二即チ土地所
 有權ノ性質ニ屬スル關係アルカ故ニ其ノ制度ニ於キテ
 モ亦々自ラ二様ノ區別ヲ爲サ、ルヘカラサルニ至ル即

チ[甲]ハ地主統轄ノ制度ニシテ[乙]ハ純乎タル社會上ノ制
 度はレナリ

[甲]即チ地主統轄ノ制度ニアリテハ苟クモ一ノ土地ヲ所
 有シ之ヲ統轄スル以上ハ一般村邑ノ團結員タル資格ノ
 外ニ更ニ一種ノ地方權ヲ有スルモノトス故ニ地主ハ村
 邑ノ議決若シクハ邑廳ノ權限ニ服從スル丁ナシ然リト
 雖モ其獨立シテ議決ヲ爲ス丁ヲ得ルハ特リ一般ノ法律
 又ハ村邑ノ條規ヲ以テ明ニ委任サレタル事務ニ限ル然
 リ而シテ此ノ如キ制度ニ關スル條規ヲ制定セントスル
 片ハ必ラス國家ノ許可及ヒ土地統轄權ヲ有スル地主ノ
 承諾ヲ要スルモノトス

(千八百五十六年四月十四日發布ノ布告東部六州ニ於ケル邑ノ憲法ニ
 關スル法律及ヒ千八百六十七年九月二十二日ノシユレスヴィック、ホルス

タインノ法律ニ據ルルハ地主ハ必ラスシモ一村邑ノ全土ヲ有スルヲ要セス只タ一塊ノ地ヲ所有スルモ應分ニ其ノ村邑ノ爲スヘキ事務ノ範圍内ニ於テ法律上負擔スヘキ公ケノ利害ニ關シテハ之ヲ他視スヘカラサルノ義務アリトセリ是等ノ如キ地主統轄ハ舉邑ノ地主全体ノ承諾アリシ以上ハ國家ノ許可ヲ得以テ一邑ノ地主統轄ノ制度ヲ組成スルコトヲ得ヘシ

(千八百五十六年四月十四日ノ普國法律第一節及ヒ第二節全年三月十九日ノウエストフアーレン法律第三節及ヒ第六十四節千八百六十七年九月廿二日ノシユレスヴイツグホルスタインノ法律第一節ヨリ第七節ニ至ルリヨンチー氏著普國法論第三百四十六節メーレル氏著普國邑法第二節參照)

〔乙〕即チ社會的ノ制度ニアリテハ社會法上ノ思想即チ社會平等ノ主義ヲシテ充分ニ邑ノ團結員ニ適用シタルモ

ノニシテ該制度ニ屬スル邑ニアツテハ彼ノ地方權ヲ有セシ地主ノ如キモノ絶ヘテ之レナク只タ團結員ハ總テ一般ナル法律ノ許ニ支配セラレ互ニ平等ノ權ヲ有スルヲ以テ邑内ノ活動モ市府ニ於ケルト等シク單ニ國家ノ監督權ニ服從スルノミナリ蓋シ此制度ハ中世以來久シク因襲セル土地ニ關スル制限ヲ解キ所有權ノ自由(本書第二編ニ詳論スヘシ)ヲ得セシメタルヨリ以來生シタルモノナレハ何レノ村何レノ邑ヲ問ハス總テノ村邑ニ普通ナル法律上ノ制度ニシテ其ノ村邑活動ノ社會的ノ主義即チ人衆平等ノ原理ヲ充分實行シタルモノトス然レモ現行ノ邑憲法ニ於キテハ古來因襲ノ久シキ尙ホ未ダ地所ニ關スル制限ノ爲メ幾分ノ變例ナキヲ保スヘカラサルモノアラシ

(本書前第百節比較)

第百十二節 邑會及邑廳

邑ニ於キテモ亦々市府ト等シク一般ノ所屬民ノ中投票權ヲ有スルモノト之ヲ有セサルモノトヲ區別セサルヘカラス

(千八百五十六年三月十九日ノヴエストフアーレン邑法第十四節及ヒ第十五節參照)

投票權アル邑民トハ通常何人ト雖モ若干ノ租稅ヲ收納シ自立獨歩ノ生計ヲ營ミ得ル處ノ住民ヲ云フ然レモ往々邑内ニ於テ耕作地若シクハ定住ノ家屋ヲ有スルモノニ限り此ノ權アルモノトセルトアリ

邑内ニ於テ自立ノ生計ヲ立テ租稅ヲ拂フヘキモノヲ以テ投票權ヲ有スル邑民トスルコトニ就キテハ千八百六十五年四月廿九日ノバエール

ン市邑法第十一條千八百五十六年三月十九日ノヴエストフアーレン邑法第十五節及ヒ第十六節參照スヘシ

又タシユレスヴイツグ、ホルスタインノ千八百六十七年九月二十二日ノ法律第十八節ニ據ルルハ納稅ノ有無ヲ問ハス只ターノ家屋ニ定住スルノミヲ以テ撰舉權ヲ得セシメタリ又タ千八百五十六年四月十四日ノ普國ノ東部六州ニ於ケル邑法ニ於キテモ亦然リトセリ

耕作地ヲ有スルコトヲ以テ投票權ヲ得ルニ必要トスル場合ハ普國法律全典第二卷第七章第十八節ニ掲ケタルモノ、如シ然レモ千八百五十六年四月十四日ノ普國東部六州ノ邑法第五節及ヒ千八百六十七年九月二十二日ノシユレスヴイツグ、ホルスタインノ法律第十節ニ示セル所ヲ看レハ唯ターノ製造所若シクハ其ノ他ノ營業場ヲ所有スルコトヲ以テ充分投票權ヲ特有スルニ足ルヘキモノト爲セリ
定住ノ家屋ヲ有スルコトヲ要スル場合ハ千八百五十六年三月十九日ノ

ヴェストファーレン 邑法第十五節及ヒ第十六節千八百五十六年三月
 十五日ノライン州内ノ市邑法ニ關スル法律第十一條ヲ参照スヘシ
 又タ投票權ハ一定ノ面積アル土地ヲ所有スルモノニ限
 リ之ヲ許シ或ハ所有地所ノ廣狹ニ據リ若シクハ納稅額
 ノ多寡ニ從テ其度ヲ異ニスルコトアリ
 一定シタル面積ノ土地ヲ有スヘキコトニ就キテハ千八百五十六年四月
 十四日ノ普國東部六州ノ邑法第五節及ヒ千八百六十七年九月二十二
 日ノシユレスヴィッグ、ホルスタインノ邑法第十節ヲ参照スヘシ
 所有地所ノ廣狹ニ關スルコトニ就キテハ同上普國東部六州ノ邑法第五
 節同上シユレスヴィッグ、ホルスタインノ邑法第十節及ヒ同上ヴェスト
 フアーレンノ邑法第二十五節ヲ参照スヘシ
 納稅額ノ多寡ニ從フコトニ就キテハ同上普國東部六州ノ邑法第三節及
 ヒ第四節同上シユレスヴィッグ、ホルスタインノ邑法第八節第十節及ヒ

千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四百四十九條ヲ參
 照スヘシ

邑ノ機關トハ邑會及ヒ邑長ノ首裁スル邑廳ナリトス今
 左ニ之ヲ二個ニ分ツテ畧述スヘシ

(甲) 邑會ノ事 邑會ハ撰舉權ヲ有スル邑團結員ノ全体
 ト并ニ法律上定メタル代表者即チ名代人トヲ以テ成立
 スルヲ通例トス而シテ是ノ邑會ハ邑ノ意思ヲ發露スル
 爲メ設ケタル通常ノ機關ニシテ其權限ハ殆ント市府ニ
 於ケル市會ト相類似セリ

(千八百五十六年四月十四日ノ普國東部六州ノ邑法第三節千八百五十
 六年三月十九日ノヴェストファーレン 邑法第十五節及ヒ第二十五節
 千八百四十五年七月二十三日ノライン州邑法第三十五節千八百六十
 七年九月二十二日ノシユレスヴィッグ、ホルスタイン 邑法第十二節千八

百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四百四十六條千八百六十五年七月三十一日ノメックレンヅルヒ、シユヴェリン邑法第三節及ヒ第五節メーレル氏同上著書普國邑法第十二節參照

邑會ニシテ通常ノ手續ヲ履ミ開會シ有効ノ議決ヲ爲スニ足ルヘキ定數ノ議員出席スル片ハ其ノ出席員ハ已レノ委托サレタル邑内ノ事件ニ就キ多數ヲ以テ確定ノ議決ヲ爲スヲ得

(同上普國邑法第八節同上ツエストフアーレンノ邑法第二十四節及ヒ第六十六節同上ライン州ノ邑法第四十五節及ヒ第六十一節同上シユレスヴィグ、ホルスタインノ邑法第十六節メーレル氏同上著書第七十二葉參照)

又タ邑ハ邑會ノ議決ヲ經テ特別ナル邑ノ規則ヲ制定スルノ權アリト雖モ一般ノ法律ニ違反スルヲ得ス當ニ

違反スルヲ得サルノミナラス其制定シタル規則ヲ實行セントスルニハ必ス國家ノ認可ヲ要スルモノトス今其ノ制定シ得ヘキ事項ヲ舉クレハ左ノ如シ
第一、法律ヲ以テ委任サレタル邑内万般ノ事件
第二、邑ノ資産ニ關スル諸制度就中邑ノ收穫スヘキ利益ノ配分拂フヘキ負擔ノ賦當投票權及ヒ邑會ニ參與スルニ關スル事務

(全上普國邑法第八節及ヒ第十一節同上ツエストフアーレンノ邑法第十三節及ヒ第三十七節同上シユレスヴィグ、ホルスタインノ邑法第四節同上バエールンノ市邑法第四百四十七條メーレル氏同上著書第三十五節及ヒ第三十六節參照)

(乙) 邑廳ノ事 邑廳ハ管邑内ノ行政機關ニシテ其邑ニ對シテハ尙ホ市府ニ於ケル市廳ト相類似シタル地位ヲ

有スルモノナリ

(全上バエールン市邑法第百三十三條同上ツェストファーレンノ邑法第二十三節同上ライン州ノ邑法第六十一節メーレル氏同上著書第三十四節ヨリ第五十三節ニ至ル千八百五十年三月一日ノツレメン邑法第四十九節及ヒ千八百六十五年七月三十一日ノメックレンヅルヒシユベリン邑法第十一節及ヒ第十二節參照)

邑廳ノ役員左ノ如シ

第一、邑長 一人

第二、副邑長若クハ代理人 一人

第三、陪席役員 若干名(老官、陪審、檢事等)○是レ等ノ役員ノ數ハ邑ノ人ノ多寡ニ從テ之ヲ定ムルモノトス

(全上バエールン市邑法第百二十五條同上普國法律全典第二卷第七章第七十三節同上ゲレメンノ邑法第四十九節同上メックレンヅルヒシユ

ヅェリンノ邑法第七十三節參照)

邑廳ノ役員ハ邑會之ヲ撰舉シ一定ノ年限間其職ニ居ラシム但シ其ノ任用ハ必ラス國家ノ認了ヲ要ス

(全上バエールン市邑法第百二十六條及ヒ第百九十七條全上ツレメンノ邑法第五十一節及ヒ第五十三節同上普國法律第二十六節及ヒメーレル氏同上著書第九十六葉ヨリ第九十八葉ニ至ル參照)

邑廳ノ事務中其ノ重要ナルモノ左ノ如シ

第一、邑ノ權利義務ニ關シテ其ノ邑ヲ代表スル

(全上バエールン市邑法第百卅條同上普國法律全典第二卷第六章第八十六節第百十七節第百三十二節及ヒ第百三十五節同シク第二章第七十節第七十三節及ヒ第七十六節同上ツェストファーレンノ邑法第三節全上ライン州ノ邑法第四十四節全上ツレメンノ邑法第五十五節參照)

第二、邑ノ建設物若シクハ邑及ヒ地方寄附金ノ行政並

ニ其ノ監督

(全上普國法律全典第二卷第七章第五十六節及ヒ第五十七節同上ライ
ン州ノ邑法第七十六節及ヒ第七十八節同上ヴエストフアーレンノ邑
法第四十一節及ヒ第五十二節全上バエールン市邑法第三百三十四節同
上ヴレメンノ邑法第五十五節參照)

各部ノ事務ヲ行フ爲メ設ケタル特別ノ委員即チ學務、濟貧事務、會計事
務等ヲ擔任スル委員モ亦タ此部ニ包含スベシ(メーレル氏同上著書第
三十三節參照)

第三、邑ノ財務ヲ執行スル

(全上バエールン市邑法第三百三十三條同上普國法律全典第二卷第七章
第五十四節同上ヴエストフアーレンノ邑法第四十九節參照)

村邑ノ租稅若クハ備役ニ關スル賦當ノコニ就キテハ各地方ニ於キテ
定メタル規約及ヒ古來ノ慣例ニ從テ之ヲ執行スルヲ通常ト爲スト雖

或ル場合ニ於キテハ邑ハ政府ノ許可ヲ經テ該規約又ハ慣例ニ背キ
之レヲ變更スルコトヲ得(全上普國邑法第十一節ヨリ第十三節ニ至ル同
上ヴエストフアーレンノ邑法第五十七節及ヒ第五十八節同上ライ
ン州邑法第八十七節及ヒ第八十八節同上シユレヌウイグ、ホルスタイン
ノ邑法第二十四節及ヒ第二十五節同上バエールンノ市邑法第四十六
條及ヒ第四百四十七條同上メックレンヅ、ヒシユヅエリンノ邑法第十節リ
ヨリネー氏著書同上普國法論第二卷第五十七節參照)

第四、邑ノ書記及ヒ其ノ他ノ邑官吏ヲ採用シ並ニ之レ
ヲ監督スル事

(全上バエールン市邑法第三百三十二條同上ヴレメン邑法第五十五節同
上普國法律全典第二卷第六章第四百十四節同ク第二卷第二章第六十
八節同上ライン州邑法第八十三節メーレル氏同上著書第百〇五葉參
照)

第五、法律及ヒ布達ニ從ヒ濟貧、教育、學校等ノ諸制度ニ干涉スル事

(同上バエールン市邑法第百三十七條參照)

第六、邑廳ハ地方警察ノ制規ニ關スル評議及ヒ其ノ發布若シクハ警察ノ制度及ヒ其ノ建物等ニ就キ議決ヲ爲ス但シ警察費ハ素ヨリ邑ノ負擔タリ

(全上バエールン市邑法第百四十條同上ゾレメン邑法第五十五節千八百五十年三月十七日ノ警察行政ニ關スル普國法律メーレル氏同上著書第九十二葉參照)

(丙) 邑長ノ事、邑長ハ其邑ニ對シテハ知事ノ市府ニ於ケルト同様ナル權利義務ヲ有スト雖モ邑長ト知事トハ自ラ其ノ地位ヲ異ニスル所アリ如何トナレハ邑廳ハ市廳ノ如ク合議協同ノ制ニ由リテ組織シタル官衙ニアラ

スシテ其ノ役員ハ寧ロ之ヲ邑長ノ助手ト見做スヘキモノニ過キサレハナリ然レモ邑廳ノ役員ト雖モ若シ邑長ノ怠慢ナルカ或ハ他ノ事故ニ依リ其職務ヲ行ハサルアル片ハ直チニ之レニ代ツテ其職務ヲ執行スルノ責任アルヘキモノトス

(普國法律全典第二卷第七章第四十六節及ヒ第七十六節ヨリ第七十九節ニ至ル千八百五十年三月一日ノゾレメン邑法第五十七節メーレル氏同上著書普國邑法第二十九節參照)

右邑長ノ職務ヲ詳説スレハ左ノ如シ

第一、邑長ハ邑廳一般ノ事務ヲ其廳吏ニ賦當指揮シ並ニ其ノ事務ノ執行ヲ監督ス

第二、邑長ハ邑廳ニ出テハ其ノ上席ヲ占メ邑會ニ臨ミテハ議長ノ席ヲ占ム

第三、 邑長ハ邑内ノ事項ニ關スル法律布達及ヒ命令ヲ
 公示シ且ツ其ノ執行ヲ掌ル
 第四、 邑長ハ邑會ノ議決ヲ布達シ並ニ其ノ執行ヲ掌ル
 第五、 邑長ハ邑ノ出納及ヒ無形人ノ資格ヲ有スル資産
 ニ關シ一切ノ會計事務ヲ監督ス
 第六、 邑長ハ警察事務ヲ處理シ及ヒ警察行政ニ關スル
 法律布達ノ執行ヲ掌ル
 第七、 邑長ハ部下ノ人民相互ノ間ニ起ル訴訟事件ノ中
 裁事務ヲ調理ス
 第八、 邑長ハ右七項ニ掲ケタル事務ノ外ニ一般行政ノ
 地方ニ屬スル事件ニシテ他ニ之レカ管涉ヲ爲スヘキ官
 衙若シクハ機關ナキ限りハ其ノ事務ヲ行フノ義務アル
 モノトス

(全上バエールン市邑法第三百三十一條第三百三十八條第四百十四條第百
 四十五條及ヒ第四百四十八條同上普國法律全典第二卷第七章第四十六
 節乃至第七十二節同上シユレスウイグ、ホルスタインノ邑法第二十三
 節全上ヴェストファーレン邑法第四十一節同上ライン州邑法第七十
 六節同上ヴェレメン邑法第五十七節參照)

邑廳ノ役員ハ名譽官ナルヲ以テ總テ無俸給ナリトス然
 レモ邑廳ハ邑會ノ議決ヲ經テ諸役員ノ職務ヲ行フニ就
 キ必要ナル費用ハ手當金トシテ之レヲ受クルトヲ得

(全上ヴェレメン邑法第四十節參照)

邑ニ於テモ亦タ市府ニ於ケル區長ト同様ニ各地方ノ狀
 景ニ從ヒ邑長ノ機關及ヒ補助トシテ戶長ヲ設置スル
 ヲ得

(全上ヴェストファーレン邑法第四十二節參照)

(亥) 市邑連合

第百十三節 市邑連合ノ方法

同一ノ行政區域内ニ屬スル所ノ連接シタル數市邑ハ其一般ニ關係スヘキ共通ノ事務ノ執行ヲ容易ナラシムルノ目的ヲ以テ簡便ヲ計リ一ノ連合市邑ヲ設クルトヲ得且ツ其連合ノ上ニハ連合部長ノ如キ行政長ヲ置キ以テ部下ノ市邑ヲ指揮セシムルトヲ得

(全上パードン市邑法第百六十一節ヨリ第百七十一節ニ至ル全上パードン市邑法第六條同上ライン州ノ普國邑法第七節ヨリ第十節ニ至ル同上ヴェストファーレンノ邑法第六十九節全上クルヘッセンノ市邑法第八節全上メックレンヅヘンシユヴェリンノ邑法第十四節千八百六十二年二月五日ノ澳國市邑法第七條グナイスト氏著普國市邑法第九十一葉參照)

右ノ如キ數市邑ノ連合ヲ爲サントスルニ當リテ其ノ連合ヲ企圖スル所ノ市邑カ舉ク之ヲ承諾スル片ハ成規ニ從ヒ行政官衙ノ認可ヲ受クルヲ以テ足レリトス然リト雖モ若シ其ノ連合セントスル市邑ニシテ不承諾ノモノアル片ハ上等ノ行政官衙ニ於キテ右連合セントスル市邑ノ主旨ニ就キ篤ト審査ヲ遂ケタル上連合ヲ主張スル市邑ノ主意果シテ公益ニ便ナリト認ムル片ハ其ノ拒停スル市邑ニ對シ強迫ヲ以テ直ニ連合ヲ命スルトヲ得而シテ此ノ強迫ヲ以テ連合ヲ命スル場合トハ地方警察ニ關スル事務若シクハ該連合ヲ爲サ、ル片ハ其市邑ニ於テ其事業ヲ執行スルニ必要ナル便利ヲ欠ク等ノ如キ場合ニ於キテ尤モ然リトス

(全上パードン市邑法第六條全上澳國市邑法第七條同ク澳國邑法第

八十七節及ヒ第八十八節同上ツエ
 ストフアーレンノ邑法第四節同上
 ライン州邑法第七節及ヒ第八節参照
 連合シタル數市邑法ハ其ノ一般共通ノ事務ニ關シテハ一個ノ市邑
 タル資格ニ於キテ權利義務ヲ有スル連合市邑ト見做スヘキモノトス
 連合ノ結果ハ其連合ノ目的ニ依テ異レリ即チ或ル特定
 ノ制度例ヘハ道路又ハ學校等ニ關スル事業ニシテ連合
 市邑共同ニ係ル事務ヲ目的ト爲シタル片ト又チ一般ニ
 一個ノ共同ナル連合廳ヲ組織セントスル目的ナリシ片
 トニ依テ異ナリトス
 前者ノ場合ニ於キテハ其ノ連合ノ目的トセシ特定ノ制
 度事業ニ關スル事務ノ行政ヲ掌ルヘキ機關ノ設否及ヒ
 其ノ權限ヲ定ムル等ハ凡テ連合ニ加ハリタル各市邑ノ
 隨意ニ一任スト雖モ後者ノ場合ニ於キテハ然ラス斯ル

連合ニ與ミシタル市邑ノ行政ハ各々其ノ固有ノ行政機
 關ニ於キテ之ヲ掌リ新設ノ共同行政部長ハ其ノ管轄セ
 ル市邑ニ於キテ法律ニ規定セシ市邑長タルヘキ權利ヲ
 執行シ又其ノ他市邑ニ於テ地方警察事務ノ取扱ヒ及ヒ
 市邑長ノ爲スヘキ凡テ他ノ職務ヲ執行スヘキモノトス
 (全上パエールン市邑法第五十條同上 澳國邑法第八十八節同上ツエ
 ストフアーレンノ邑法第七十四節同上 ライン州邑法第百〇三節及ヒ
 第百〇八節参照)
 又チ右共同行政ノ部長ハ警察事務ニ關シテ市邑廳ノ評
 決ヲ指揮シ并ニ會計金庫ノ事務ヲ監督スルモノトス而
 シテ其部下ニ屬スル連合ノ諸市邑廳ニ於テハ連合市邑
 全体ヲ束縛スヘキ地方警察ノ規則ヲ法律上ニ定メタル
 成規ニ從ヒ之レヲ執行セサルヘカラス

(全上バエールン市邑法第五十條同上ライン州邑法第一百十節參照)
(黃) 市邑ノ財政

第百十四節 市邑ノ資産

市邑ノ資産ヲ分テ三種トス即チ左ノ如シ

(ベーツル氏著バエールン憲法第百〇七節リヨンチー氏著普國々法論第二卷第五百四十四葉ゲルベル氏著獨逸私法論第五十一節ベセーレル氏著獨逸私法論第二百九十九葉及ヒエンミンクハウス市邑財産論參照)

(第一種) ハ適當ナル市邑財産即チ市邑カ無形人タル一個ノ資格ヲ以テ所有スル資産ニシテ市邑ノ必要ノ事業ニ使用シ若シクハ市邑ノ法律上ニ於テ負擔スル處ノ義務ヲ償却スル爲メニ使用シ得ヘキモノ是レナリ
此ノ第一種ニ屬スル資産ハ市邑ノ總テノ財産及ヒ諸收

入ヨリ集成ス今マ此ノ資産ニ就キ再ヒ分説スル片ハ如左

「イ」 時々ノ收納ヲ得ヘキ市邑ノ資産ニシテ其ノ市邑ノ費用及ヒ必需ノ爲メニ之ヲ使用スルヲ得ヘキモノ
「ロ」 共同ノ使用ニ供シ及ヒ市邑團結員ノ利用シ得ヘキ市邑ノ資産(建設物市街廣場公園等)

(全上普國市府法第四十九節同上ツラウンシュワイグ市府法第百四十三節同上バエールン市邑法第二十六條同上バーデン市邑法第六十四節同上澳國市邑法第十八條同ク邑法第六十四節參照)

(第二種) ハ地方共產團結ナリ此ノ財産ハ就中教會及ヒ學校維持ノ爲メニ寄附シタルモノニシテ市邑ハ只々之レカ行政ヲ掌リ其使用ニ至リテハ各寄附ノ目的ニ從テ處分セサルヲ得サルカ故ニ斯カル寄附會ハ却ツテ市邑

ヲ使役スルモノナリ但シ同一ノ寄附金ト雖モ其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノ、ミ共産團結即チ法律上一個ノ無形人タル資格ヲ有シ其ノ目的ナキモノハ市邑ノ所有ニ屬スル純然タル財産ナリ故ニ同一ノ寄附金ト雖モ斯ク之レヲ二様ニ分ツ片ハ後者ニ屬スル場合ハ之ヲ第一種即チ市邑資産中ニ加ヘ其前者ニ屬スル場合ハ之ヲ第二種即チ共産團結ニ入レサルヘカラス

(全上普國市府法第四十九節同上ヅラウンシウイグ市府法第百八十一節全上ハンノーヘル市府法第百二十九節及ヒ第百三十節同上バエールン市邑法第六十五條參照)

(第三種) ハ制限セラレタル市邑資産ニシテ此等ハ多ク土地ヨリ成立ス而シテ該資産ハ市邑ト雖モ其ノ市邑タルヘキ資格ヲ以テ之ヲ使用シ若シクハ其收實ヲ得ル

能ハス唯タ特別ナル權利ニ依リ市邑團結ニ屬スル一定ノ人々ノミ之ヲ利用シ得ヘキモノ是レナリ
○此ノ財産ハ古代「マルク」ト稱シタル市邑組合ノ制度ノ遺物ナレハ今之レヲ論スルニハ近世ノ市邑法ニ於テ尙ホ「マルク」組合ノ舊制ヲ存スル場合若クハ既ニ此ノ制度ヲ改メ新制ニ據テ處置スル場合ノ各種ニ就キ論究セサルヘカラス

(「マルク」組合ノコニ就キテハ本書第二編ニ詳論スヘシ)

「マルク」ノ古制尙ホ未タ存スル所ニアツテハ市邑ノ此ノ種類ノ財産ヲ使用スル權利ハ多クハ一定ノ地所ニ固着シタル物上權ナルヲ以テ假令市邑カ市邑ノ爲メニ使用セント欲スル片ト雖モ必ス右所有者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ又如何トモスル丁ヲ得サルモノトス但シ特ニ

之レニ反シタル慣習アル場合ハ此限リニアラス

(全上普國市府法第四十九節同上ヴラウシウワイグ市府法第七十四節同上バエールン市邑法第三十二條全上クルヘツセン市邑法第七十節同上バーデン市邑法第百〇四節及ヒ第百〇八節ゲルベル氏著獨逸私法論第五十一節ベーツル氏著獨逸私法論第百〇八節參照)

「マルク」ノ制度全ク跡ヲ絶チタル近世ノ市邑法ニ於キテハ第三種ノ財産ヲ使用シ得ヘキ權利ハ市邑民若シクハ家屋所有人若シクハ其他特定ノ人民ニ移屬セシメタレハ是等ノ人々ハ總テ慣例ニ從テ之ヲ處理スルヲ得ヘシ

(全上バエールン市邑法第三十二條同上普國市府法第四十九節同上バーデン市邑法第百〇四節及ヒ第百〇八節ベーツル氏著バエールン憲法第百〇八節參照)

然レモ第三種ノ財産ハ左ノ數項ニ記載スル處ノ制限ヲ受クヘキモノトス

「イ」第三種ノ財産ニ對シ市邑ノ租稅ヲ課スルヲ得

(全上バエールン市邑法第三十二條同上普國市府法第五十二節千八百六十年三月十四日ノ普國法律及ヒ千八百六十七年三月二日ノ普國法律同上澳國邑法第六十六節リヨンネー氏著普國々法論第二卷第五百四十六葉及ヒ第五百四十七葉參照)

「ロ」第三種ノ財産ニ對シ必要ナル場合ニ於キテハ舊制ヲ革メ新規ヲ定メ又ハ其全部若シクハ幾分ヲ市邑ノ目的ニ使用スルヲ得

(全上バエールン市邑法第三十五條同上普國市府法第五十節同上ヴラウシウワイグ市府法第四十六節全上バーデン市邑法第百〇四節及ヒ第百十節澳國邑法第六十六節參照)

「ハ」第三種ノ財産ニ對シ農業ノ改良進歩ヲ計ル目的ノ爲メナル片ハ之ヲ其ノ權利者各自ニ配分スルヲ得

(全上バエールン市邑法第二十七條バートル氏著バエールン憲法第百

〇八節同上普國市府法第四十九節全上ヅラウンシウイグ市府法第百十六節澳國邑法第六十四節同上バーデン市邑法第百十三節參照)

此ノ如キ配分法ニ特リ此ノ種ニ屬スル財産ノミニ對シテ行フヲ得ルマテニテ彼ノ適當ナル市邑資産即チ第一種ノ財産ノ如キニアツテハ或ル場合ニ於テ唯タ剩餘アリタルキ之ヲ分ツヲ得ルノミナリ(本書以下第百十五節ニ詳論スヘシ)

森林ハ一般ニ分配スルヲ得サルヲ以テ森林法ノ原則トス故ニ或ハ之レニ反シ分配セントスル場合ニ於キテハ嚴密ナル制限ヲ置ケリ(本書第二編共有物分配ノ節目ニ於テ詳論スヘシ)

以上述フル處ノ各則ハ市邑内ニ於ケル特別ナル會社若シクハ組合ニ

對シ之ヲ適用スルヲ得ス(全上普國市府法第四十九節同上ヅラウン

シウイグ市府法第百七十四節及ヒ第八十一節參照)

市邑ノ利益ニ關シ市邑内ニ起ル處ノ紛議訴訟ハ行政官衙ニ於テ之ヲ判決シ一個ノ私權利ニ關スル爭論ハ通常裁判所ニ於テ裁判スルヲ以テ定則トス故ニ茲ニ或ル一ノ土地アリテ該土地ノ所有權ハ一個人タル市邑ニ存スルカ將タ又多數人ノ私有ニ屬スルカ否ヤノ訴件ニ至テハ双方共ニ一個人ノ資格ニ於テ爭フモノナレハ是レ固ヨリ通常裁判所ノ裁判スヘキモノトス然レモ行政官衙カ此紛議ニ關シテ必要ナル意思ノ訓示ヲ爲スヲ得ルハ勿論ナリ

(全上バエールン市邑法第三十六條及ヒ第三十七條參照)

苟モ市邑万般ノ權利ニ參與スルヲ得ヘキ權アルモノ

ナレハ其何人タルヲ問ハス義務者ニ對シ同等ナル請求ノ權利ヲ有スルモノトス但シ特別ニ法律ヲ以テ制限シタル權利若シクハ慣例アルモノハ此ノ限りニアラス

(バエールン市邑法第三十二條澳國邑法第六十六條參照)

市邑ハ右等ノ如キ資産ヨリ生スル利益ハ之ヲ市邑ノ金庫ニ藏置シ第一種ノ適當ナル市邑資産ト等シク之ヲ使用スルモノトス

(澳國邑法第六十六條參照)

第一百十五節 市邑財産ノ行政

前節ニ於テ論シタル市邑ノ財産中第一種ニ掲ケシ市邑ノ資産ヨリ生スル利益並ニ第三種ニ掲ケシ制限サレタル市邑資産ノ剩餘ハ市邑ノ必要ヲ充タシ及ヒ市邑ノ負債ヲ償却シ若シクハ資本増殖ヲ計ル費用ノ爲メニ使用

スヘキモノトス

(全上バーアン市邑法第六十五節及ヒ第百〇二節同上バエールン市邑法第三十一條同上澳國邑法第七十節同上ヴラウンシウイグ市府法第百四十三節同上普國市府法第四十九節千八百四十七年七月二十六日ノ普國告示參照)

市邑ノ資本金貸與ノコニ關シテハ千八百六十九年七月三十一日ノバエールン布達ヲ參照スヘシ

剩餘金配分ノコトハ既ニ前節ニモ論シタリシカ其配分ハ如何ナル場合ニ於テ爲シ得ヘキヤト云フニ唯市邑稅若シクハ地方關稅ヲ増加スルコトナクシテ市邑ノ必要ヲ充スニ足リ又タ後來非常臨時ノ必要ヲ生シ大ナル金額ノ支出ヲ要スヘキ見込ナキ片ノミ之ヲ爲スコトヲ得○此ノ原理ハ從來市邑ニ藏置シテ未タ利用セシコトナカリシ利

益ヲ新タニ市邑團結員ニ配與スル場合ニ於キテモ亦適用スルモノトス

(全上バエールン市邑法第三十一條同上バーデン市邑法第百〇三條同上澳國邑法第六十五節及ヒ第九十節參照)

バーデン澳國ニ於キテハ各人各個ニ右剩餘金ヲ配分スルコトハ監督官
權ノ許可ヲ要スヘキモノトスレモ市邑ヲ以テ獨立ナル一個人トスル
法律上ノ原理ヲ精密ニ論究シ之レカ適用ヲ求ムルハ此ノ二邦ノ法
規ハ少シク原理ニ背戾セシモノ、如シ何トナレハ獨立ノ一個人ニシ
テ自己ノ財産ヲ左右スルハ敢テ法律ノ干涉スヘキ理由ナケレハナリ
然リト雖モ茲ニ又タ一理アリ市府財産ハ本書市邑共同團結員ノ必要
ノ爲メ設定シタルモノナレハ是ヲ以テ私事ノ目的ニ利用スヘキ謂ハ
レナシ然ルニ之レヲ各人ニ配分スルカ如キハ是レ亦タ正理ニ適シタ
ルモノト云フヲ得サルナリ

總テ種類ノ市邑資産並ニ共產團結ハ市邑廳若シクハ市
邑長ノ監督ノ下ニ支配ヲ受クルモノ其ノ行政ヲ掌リ右
一切ノ財産ニ關スル法律上ノ制限若シクハ共產團結ノ
目的及ヒ條件ニ從ヒ之レヲ處理スヘキモノトス

(千八百四十七年七月二十六日ノ普國告示市邑財産ノ行政ニ關スル千
八百五十年十二月十一日ノ澳國訓令千八百六十九年四月二十九日ノ
バエールン市邑法第六十五條第八十七條及ヒ第百三十四條千八百五
十年三月十九日ノヴラウンシュワイグ市府法第九十五節及ヒ第百八十
一節參照)

國家ノ官衙ハ市邑財産ニ對シ之ヲ左右スルノ權利トシ(千八百十九年
九月二十九日ノヴルテンヴルヒ憲法第六十六節參照)

市邑財産及ヒ共產團結ノ行政ニ關スル成規ノ原則ヲ舉
グレハ左ノ如シ

第一、市邑ノ總テノ財産ハ堅ク之ヲ保存シ決シテ其價額ヲ減少スルナカルヘシ而シテ此ノ財産ニ就キテハ假令如何ナル事務アリト雖モ一切政府ノ命令ヲ奉スヘキ義務ナシトス但シ制限サレタル市邑財産ニシテ之ヲ市邑民中ニ分チタル片ハ其ノ價額ヲ減少スルハ論ヲ茲タサルナリ

(同上) バエールン市邑法第二十六條及ヒ第六十六條全上 ヴラウンシュウイグ市邑法第四十三節同上 澳國邑法第六十四節同上 バーデン市邑法第六十六節參照

第二、市邑ニ委托サレタル共産團結ト市邑ノ適當ナル財産トヲ混スヘカラス何トナレハ共産團結ハ唯々其ノ共産團結ノ目的ニノミ之ヲ使用スヘキモノナレハナリ

(同上) バエールン市邑法第六十六條同上 ヴラウンシュウイグ市府法第百

八十一節同上普國市府法第四十九節及ヒ本書前第八十四節參照

第三、市邑財産ノ行政ハ可成的財産ノ増加センテ謀リ殊ニ其ノ利益ノ永續ニ注意シ且ツ最モ純粹ナル利益ヲ生スヘキ様之ヲ處理セサルヘカラス

(同上) 普國邑法第六十五節同上 ヴラウンシュウイグ市府法第百四十五節參照

第四、有用ナル市邑財産ノ讓與ハ復々直チニ回復シ得ヘキ計畫アルニアラスンハ唯々止ヲ得サルノ必要若シクハ便益ノ爲メニ之ヲ爲ストヲ得レ共其ノ都度必ス國家ノ監督官衙ノ許可ヲ要ス○此原則ハ特ニ學術上沿革上又ハ美術上ニ關シ特別ノ價額ヲ有スル物品ニアツテモ亦之ヲ適用ス

(同上) バエールン市邑法第二十六條及ヒ第五十九條同上 ヴラウンシュウ

イグ市府法第百八十七節同上普國市府法第五十節同上澳國邑法第九十節同上バーデン市邑法第百七十二節及ヒ千八百五十一年三月一日ノハンノーベル市府法第百四十三節參照)

第五、市邑財産ノ行政ハ確實ナル帳簿ニ之ヲ登録シ若シ其ノ變更ヲ爲サントスル片ハ通常之ヲ市邑會議ニ附スヘキモノトス

(同上普國市府法第七十一節同上ヴラウンシュワイグ市府法第百四十四節同上ハンノーベル市府法第百十九節同上澳國邑法第六十三節參照)

第六、市邑ハ其ノ資本ノ減少ヲ補充シ又ハ必用欠クヘカラサルカ若シクハ永久市邑ノ利益トナルヘキ事業ニ在リテハ負債ヲ起ストヲ得但シ此ノ負債ノ爲メ市邑人民ヲシテ重キ負擔ヲ受ケシムルトナクシテ市邑ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ償却スヘキ見込ナカルヘカラス(本書以

下第百十六節及ヒ第百十七節參照)

(同上バエールン市邑法第六十一條同上ハンノーベル市府法第百二十三節同上バーデン市邑法第百〇一節參照)

凡テ市邑ノ負債ハ元金及ヒ利子ヲ拂フニ足ルヘキ後來ノ收入ヨリ悉ク之ヲ償却スヘキ詳細ノ方法ヲ立テ尙ホ往々法律上定メタル監督官衙ノ許可ヲ得ルヲ要スヘキモノトス而シテ該手續キヲ行フハ就中負債ノ金員多額ナルカ又ハ既ニ爲シタル負債ノ額ヲ増加セントスル片ニ於テ尤モ然リトス

バエールン及ヒハンノーベルニ於ケテハ止ヲ得サル非常ノ場合ノ外豫メ償却ノ方法ヲ定メサレハ決シテ新タニ負債ヲ起ストヲ得ストス(同上バエールン市邑法第六十二條同上ハンノーベル市府法第五十六節參照)

監督官衙ノ許可ヲ要スル場合ニ就キテハ同上ハエールン市邑法第六十三條同上ハンノーベル市府法第百二十三節同上普國市府法第五十節同上澳國邑法第九十節同上バーデン市邑法第百七十二節及ヒ同上ツラウンシュワイグ市府法第百八十七節參照

第百十六節 市邑ノ歳入

市邑ノ費用ハ左ノ數項ニ屬スル歳入ヨリ支出ス

(千八百六十九年四月廿九日ノバエールン市邑法第三十九條千八百五十年五月三十日ノ普國市府法第五十三節千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第十八節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘッセン市邑法第七十三節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイク市府法第百四十六節澳國邑法第七十節乃至第七十五節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第六十八節及第六十九節參照)

第一、市邑財産及共產團結ヨリノ歳入

第二、國家及ヒ其ノ他公ナル金庫ヨリノ補助金并ニ各人ノ寄贈金

第三、市邑ノ行政ヨリスル歳入(手数料、罰金)

第四、市邑ノ財産、建設物、及事業ノ使用料

設令ヘハ橋梁通行料、瓦斯水道ノ使用料等ノ如キ類ヲ云フ

第五、地方消費稅

第六、市邑稅

右六項中第四項第五項第六項ニ屬スル市邑ノ稅目ヲ新設改更スルハ地方ノ情況ニ適セサルヘガラサルノミナラス市邑ノ議決及上等監督官廳ノ許可アルヲ要ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四十條千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第八十五節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘッセン市邑法第七十四節澳國邑法第七十九節參照)

右等ノ租税ハ法律ノ定規若クハ各邦條約ニ從フハ勿論
國家ノ達令ニ由リテ定メタル最多額ニ超過スルトヲ得
ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四十條千八百三
十四年十月二十三日ノクルヘツセン市邑法第七十四節千八百五十三
年五月三十日ノ普國市府法第五十三節千八百五十年三月十九日ノブ
ラウンシユワイグ市府法第四百十六節澳國邑法第七十四節第八十節
第八十一節參照)

各邦條約ノ事ニ就テハ特ニ千八百六十七年七月八日ノ關稅聯合條約
第五條第六條及第二十二條ヲ參照スヘシ今マ左ニ其ノ要目ヲ掲ク
第一、不定ニシテ只タ一時ニ止マルモノニハ國內若クハ市邑ニ於テ
內國稅ヲ課スルコトヲ得ス
第二、內國稅ハ一定ノ制限ニ從ヒ只タ或ル聯合國ノ製造物ノミニ課

スルコトヲ得(火酒、麥酒、酢、醱酒、林檎酒、肉類等)

第三、一國ニ於テ國內製造品ニ內國稅ヲ課セサルハ聯合國ノ製造
品ニモ亦同シク之レヲ課セス

第四、內國稅ヲ物品ノ價格ニ從ヒ稅スルハ內國製造品ト聯合國製
造品ト同一ノ標準ヲ適用スヘシ

第五、內國稅ヲ消費物ノ賣買ニ賦課スルハ其ノ聯邦ニ屬スルモノ
ト雖同一ノ物品ニ同一ノ方法ヲ以テ之ヲ課スヘシ

又通行稅ノ如キ前同様ノ方法ニ由リ千八百二十八年普國通行稅ノ定
規ヲ以テ本據トセリメシクス氏所著「フルツ市邑法」第八十八條「ベ
ツル氏」所著「バエールン憲法」第百〇九節參照)

地方ノ消費稅ハ可成市邑内ニ於ケル消費物ノミニ賦課
シ製造品及商品ニ及ブトナキヲ要ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四十一條千八百

七十年五月十四日ノバーアン市邑法第八十六節千八百六十二年三月五日ノ澳國市邑法第十五條參照)

或ル物品(穀物、肉類、菓實等)ヲ指ス其ノ詳ナルハ千八百六十九年四月二十三日ノブフルツ市邑法第三十一條ヲ參照スヘシハ全ク市邑ノ租稅ヲ賦課スルナキヲ得

如何ナル制限ニ從ヒ消費稅負擔ノ義務アル製造物ヲ輸出スルニ付キ其ノ税金ノ償却ヲ受ケ得ルカ否ハ達令ヲ以テ定ム

市邑消費稅ハ或ハ獨立ニ之ヲ取立テ又ハ內國稅ニ附加シテ共ニ之ヲ取ツルヲ得千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第五十三節澳國邑法第八十節及第八十一節參照)

第六項ノ市邑稅ハ或ハ獨立ニ之ヲ徵收シ又ハ國家ノ直稅ニ比例シ之ニ附加シテ徵收スルヲ得

獨立ノ徵收ヲ爲スモノハ土地家屋營業資入稅等ナリ其ノ英國行政ノ

成規如何ハグナイスト氏所著普通教育自治行政論ニ付キ其ノ詳ヲ知ルヲ得(同書第八十三葉)

定規ノ最多額ヲ超過スル附加稅ハ上等ナル國家官衙ノ許可ヲ要ス(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第五十三節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四十五條千八百六十七年三月五日ノ澳國市邑條例第十五條同上邑法第七十五節第七十六節及ヒ第八十一節千八百七十年五月十四日ノバーアン市邑法第七十五節及第九十五節千八百五十年三月十九日ノブラウンシウイグ市府法第百五十四節參照)

市邑稅ハ何人ト雖一般ニ市邑ニ於テ直稅ヲ賦課セラルヘキ者ノ負擔スル所ニシテ敢テ其ノ市邑內ニ住居スルト否トヲ問ハサルナリ

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四十三條千八百

五十三年五月三十日ノ普國市府法第四節千八百五十六年三月十九日ノヴェスフアーレン市府法第四節參照

三ヶ月以上市邑ニ住居シタル外國人ノ納税ノ義務ニ就テハ千八百六十七年十一月一日ノ自由住居條例第八條及ヒ本書前第五十六節ヲ參照スヘシ

然レ氏數多ノ人住民ノ數種族及財産ニシテ租税負擔ノ義務ヲ免ルノ場合アルノミナラス市邑内住民ノ一部分若クハ市邑ノ一地方部ノミノ利益ニ關スル必要ノ費用ハ只々其ノ關係アル市邑民ノ一部ノミ其ノ租税ヲ負擔スルノ場合少ナカラズ

一般市邑税ヲ免ル、モノハ王室ノ歲入、國君ノ私有財産公ケノ目的ニ供シタル國家市邑等公ケナル共衆團結ニ屬スル土地家屋等ハ勿論官吏僧侶教會員、小學教員ノ其ノ職ヲ行フ所ノ土地及此等ノ人ニシテ法

律ニ定メタル定額以下ノ收入ニ對シテ成分カ其ノ租税ヲ免ス(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第四節千八百六十九年四月十四日ノシユルヌ、ホルスタイン市府法及官吏ト市邑税ノ關係ノ定メタル千八百六十七年九月二十三日ノ同邦達令千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第四十四條及ヒ第四十五條千八百五十年三月十九日ノブラウンシユワイグノ市府法第百五十一節千八百五十六年三月十九日ノヴェスフアーレン邑法第五十九節第六十一節乃至第六十四節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第八十四節及ヒ九十七節漢國邑法第七十四節及ヒ第七十八節及本書前第四十三節參照) 延滞シタル市邑税ヲ徵收スルノ權ハ市邑ノ行政官衙ニ屬シ公税ノ安全監督ノ爲メニハ地方警察規則ヲ發スルトヲ得

市邑税ノ外公ケノ義務トシテ上納スヘキ金額ノ徵收モ亦本文ノ例ニ

依ル

第百十七節 市邑ノ事業ニ服役スルノ義務
公安維持ノ實行市街道路ノ修繕公共ノ危難及天災ノ救
護等市邑ノ必要ノ爲メニハ市邑ハ市邑會ノ議決ヲ經市
邑民ヲシテ自ラ其ノ事業ニ服役セシムルヲ得但シ此
ノ服役ハ學術技藝若クハ手細工等ノ性質ニ屬スル職業
ナラサルヲ要ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第八十八條千八百
五十三年五月三十日ノ普國市府法第五十四節千八百三十四年十月二
十三日ノクルヘツセン市邑法第七十八節及第七十九節千八百七十年
五月十四日ノバーデン市邑法第八十八節第八十九節澳國邑法第七十
五節及第八十二節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府
法第百四十八節參照)

市邑ノ事業ノ服役ヲ爲サシメ得ヘキ場合ハ素リ法律ヲ以テ之ヲ定メ
サルヘカラス澳國邑法第八十二節千八百五十年ブラウンシュワイグ市
府法第百四十八節千八百六十九年四月二十九日ノプファルツ市邑法第
三十九條メダクス氏所著同上法律第百十四條ヘーツル氏所著バエー
ルン憲法第百十一節エイエル氏所著行政法原理第九十三節參照)
市邑ノ事業ヲ舉行スル爲メニハ一般市邑所屬民ハ勿論
往々外國人ト雖又其ノ業ヲ執ルノ義務アルノミナラス
非常ノ場合ニ於テハ無給ヲ以テ全市邑民ヲ舉ケ盡ク之
レヲ適當ノ役ニ服セシムルヲ得

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第五十條千八百五
十三年五月三十日ノ普國市府法第五十四節澳國邑條例第八十二節千
八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第八十八節及第八十九節千
八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百四十八節參照)

市邑ノ服役事業ハ自ラ直接ニ之ヲ爲シ又ハ地方ノ習慣若クハ一般租稅徵收ノ方法ニ從ヒ一定ノ代人料ヲ納ムルイヲ得

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第五十條千八百五十三年五月三十日ノ澳國市府法第五十四節澳國邑條例第八十二節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第四百四十八節參照)

非常ノ場合ヲ除クノ外納稅ノ義務アルヘキ市邑ノ事業ニアラサレハ服役ヌルノ義務ナキモノトス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第五十條澳國邑條例第八十二節第七十六節乃至第七十九節參照)

市邑ノ事業ニシテ正當ノ時期ニ成功スル丁能ハサルモノナル片ハ市邑屬其ノ延滯ヲ豫算シテ之ヲ舉行シ爲メ

ニ増加セル費用ハ市邑稅ト同一ノ方法ニ由リ之ヲ徵收シ又ハ往々市邑ノ資金中ヨリ之レヲ支出セシム

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第五十四條參照)

第一百十八節 豫算決算表

市邑ノ財務ハ市邑歲出入豫算表ニ從ヒ之ヲ執行ス而シテ此ノ豫算表ハ市邑廳之ヲ調製シ市邑ノ住民ニ公ケニシ市邑議會ニ於テ之ヲ調査確定ス

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第六十六節千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第二百二十二節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘッセン市邑法第八十六節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第三百三十三節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第八十八節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第五十六節第五百十三節及澳國邑條例第六十八條參照)

豫算表ハ一會計年度中市邑豫定ノ歳出入ニ關スル詳密ノ計畫ヲ載セタルモノニシテ上等ノ監督官衙ニ呈出シテ其認可ヲ受クヘキモノナリ而シテ此ノ豫算表ヲ受理シタル監督官衙ハ其ノ法律ニ違ヒ若クハ法律上ノ義務ヲ怠リタルトナキヤ否ヲ調査シ之レニ反對シテ注意ヲ與フルトヲ得

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第八十八條第百五十七條千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第百二十二節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百三十四節千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第六十六節參照)

市邑官廳ハ其ノ財務ノ能ク豫算ニ適合スルヤ否ヲ注意スルノ義務ヲ負フ但シ豫算ニ洩レタル臨時ノ費目ヲ支出スルハ市邑議會ノ許可ヲ要ス

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第六十七節千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第百二十二節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘッセン市邑法第八十節千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第八十八節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第五十六節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第四十六節澳國邑條例第六十九節參照)

決算表ハ會計年度ノ終結ヨリ一定ノ期限中ニ調製シ市邑廳ニ呈出ス市邑廳ハ之レヲ審査シ意見ヲ具シテ市邑議會ノ認可ヲ受ケ而テ其ノ確定シタル決算表ハ一定ノ期限中監督官衙ニ呈出シテ仍ホ其ノ調査ヲ經ヘキモノトス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第八十九條千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第六十九節及第七十節千八百五十

一年五月一日ノハンノーベル市府法第百二十七節及第百二十八節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘッセン市邑法第九十節及第九十一節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第百五十四節澳國邑條例第六十八節參照)

(ホ)市邑ニ對スル國家ノ監督

第百十九節 國家監督ノ本性及制限

市邑ハ公ケナル共衆團結即チ無形人トシテ常ニ國家ノ監督ニ服シ國家ノ利害ニ關スル重大ノ事件ニ就テハ國家ノ許可ヲ受クヘキモノトス

(千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第七十六節千八百五十六年五月十五日ノラインプロビンツ同上第八十一節千八百五十六年三月十九日ノヴェスフーレン同上第五十六節千八百六十九年四月十四日ノシユレスウフグ、ホルスタイン同上第九十一節千八百四十五年七月

二十三日ノライン州邑法第百十四節乃至第百十七節千八百五十六年三月十九日ノウエストフーレン邑法第八十節千八百三十四年十月二十三日ノクルヘッセン市邑法第九十二節及第九十三節千八百六十九年四月二十九日ノバーデン市邑法第百五十四條千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第百七十二節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百八十三節及第百八十四節千八百六十二年三月五日ノ澳國市邑條例第十六條同邑條例第九十四節ペーツル氏所著バエールン憲法第百二十二節乃至第百二十四節マイエル氏所著行政法原理第七十一節及第七十九節スタイン氏所著行政學第一卷第二節第百三十六條參照)

一般ニ就テ之ヲ論スレハ國家カ其ノ監督ヲ行フノ要旨ハ市邑ナル共同体ノ活動ニシテ能ク其ノ本性ニ合シ法律條例ニ適シ且ツ公共ノ幸福秩序ヲ害スルトナキヤ否

ヤヲ監視スルニ在リ然レモ右國家ノ監督ニ屬スル制限ヲ破ラサル以上ハ市邑團結ハ素リ活動ノ自由ヲ有シ國家ノ意思ハ後見保護ヲ名トシテ市邑ノ意思ヲ束縛スルヲ能ハサルナリ

國家ノ官衙即チ政府ハ市邑ニシテ適法ノ活動ヲ爲セシムルノ義務アレモ法律ニ基スシテ決市邑ノ事務ニ干涉スルコトアルヘカラス(千八百五十年三月十九日ノブラウンシユワイグ市府法第百八十四節メジグス氏所著「プフルツ市邑法」第二百三十六葉參照)

故ニ市邑機關ノ活動ニシテ能ク其ノ目的ニ適合スルヤ否ヲ監督スルハ一般ニ國家官衙ノ參照スヘキモノニアラストス但シ市邑ノ事務ニシテ法律ニ於テ定メタル義務ノ執行ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス宗教上ノ共同團結ハ心理的ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ之ニ對スル國家ノ監督ハ其ノ市邑團結ニ對スルモノト同等ナルヲ能ハス(本書

前第四十節第四十三節及第九十七節參照)

國家カ市邑ニ對シテ其監督權ヲ執行シ得ヘキ事項左ノ如シ

(第一)市邑ニ屬スル權力ハ法律ニ於テ定メタル制限ヲ侵スルナカラシムル事

(第二)市邑ノ自由專決ヲシテ其ノ權限内ニ止メシメタル法律條規ヲ遵奉セシムル事

(第三)市邑ニ屬スル公ケノ義務ヲ實行セシムル事

(第四)市邑行政ノ處務規程ヲ定メタル法律條例ヲ遵守セシムル事

(千八百六十九年四月二十九日ノ「パエールン市邑法」第百五十七條千八百七十年五月十四日ノ「バーデン市邑法」第百七十二節參照)

右ノ外市邑カ尙ホ特ニ國家ノ監督ニ服スヘキ事項左ノ

如シ

(第一)市邑内警察事務及ヒ一般ノ國家行政ニ關シテ市邑ニ委任シタル事務ハ間斷ナク常ニ上等行政官衙ノ監督ニ服ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百五十六條千八百七十年バーデン市邑法第百七十二節千八百五十一年五月一日ノハシノーベル市府法第七十一節及第七十八節澳國邑條例第九十四節參照)

警察ノ事項ニ就テハ上等監督官衙ハ人民ノ請求ヲ待タス其ノ職權ヲ以テ直ニ干涉スルコトヲ得メシクス氏所著プファルツ市邑法第二百三十葉參照)

(第二)市邑官衙ノ警察及行政處分ニ對スル願訴ハ法律ヲ以テ特ニ定メタル法衙ニ於テ審理ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百五十六條千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百八十六節及第百八十八節千八百六十二年三月五日ノ澳國市邑條例第十六條同邑條例第九十六節參照)

(第三)市邑機關ノ議決ニシテ法律規則ニ反シ又ハ國安ヲ害スルモノアル片ハ國家官衙ハ其ノ理由ヲ指示シテ之レカ實行ヲ停止スルコトヲ得但シ市邑ハ之レニ對シテ上訴スルノ權ヲ有ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百五十七條千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第七十七節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百八十五節千八百七十年五月十四日ノバーデン市邑法第百七十二節澳國邑條例第九十五節參照)
(第四)若シ市邑ニシテ法律ニ於テ負擔スヘキ義務ヲ怠リ

又ハ市邑豫算表ニ於テ法律上必要ナリト定メタル費用ヲ徵收セス又ハ臨時ノ費用ヲ議決セサル時ハ豫メ協議ヲ盡シタル後國家官衙ハ市邑官衙ニ代ツテ之ヲ執行シ特ニ之ニ關スル費用ヲ定メ市邑ノ費用ヲ以テ必要ナル金額ヲ徵收ス

(千八百五十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百五十七條千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第七十八節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百八十四節千八百七十年五月十四日ノバードン市邑法第百七十二節澳國邑條例第九十七節參照)

(第五)市邑財産ヲ讓與シ市邑ノ負債ヲ起シ市邑稅ヲ徵收スル等市邑財産ノ行政ハ凡テ重要ナル場合ニ於テハ法律ヲ以テ定メタル上等官衙ヨリ豫メ其ノ許可ヲ受クルトヲ要ス

(千八百六十九年四月二十九日バエールン市邑法第百五十九條千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第五十節千八百五十一年五月一日ノハンノーベル市府法第百二十三節千八百五十年三月十九日ノブラウンシュワイグ市府法第百八十七節千八百七十年五月十四日ノバードン市邑法第百七十二節千八百六十二年三月五日ノ澳國邑條例第八十九節及第九十節千八百五十六年四月十四日ノウエストフアレン邑法第五十三節千八百三十四年十月二十三日クルヘツセン市邑法第八十四節參照)

(第六)適當ナル市邑事務ニ關スル市邑機關ノ議決及處分ニ對スル願訴ハ法律ニ於テ豫メ定メタル監督官衙之ヲ裁決ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百六十三節千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第七十六節千八百五十一年五月

一日ノハンノーベル市府法第六十二節千八百五十年三月十九日ノ
 ラウンシユワイグ市府法第百〇二節第十三節第百八十六節千八百七
 十年五月十四日ノバーデン市邑法第百七十三節千八百六十二年三月
 五日ノ漢國市邑條例第十六條同邑條例第九十一節及第九十六節參照
 市邑官衙ノ議決ハ法律規則ニ反シ願訴人ニ損害ヲ與タル場合ニアラ
 サレハ國家官衙ハ之ヲ破毀若クハ變更スルヲ得ス(千八百六十九年
 四月二十九日ノバエールン市邑法第百六十二條ベーツル氏所著バエ
 ールン憲法第百二十三節參照然レモ願訴ヲ起スヨニ就テハ別ニ制限
 ナシ(メジクス氏所著プフルツ市邑法第百三十二條參照)
 右メジクス氏等カ願訴ノ警察事務ニ關スルト適當ナル市邑行政事務
 トニ關スルトニ從ヒ便宜上ノ問題ト法律上ノ問題トノ區別ヲ立テタ
 ルハ誤レリ如何トナレハ若シ此ノ說ニ從フキハ地方警察事務ハ之ヲ
 市邑事務ノ適當ナル範圍ニ在ルモノトスルヲ得サルニ至ルヘキノ

ミナラス却ツテ之レニ反シテ市邑廳ノ處分ニシテ其ノ便宜ニ基カサ
 ルノ故ヲ以テ法律ニ反スヘキモノトスルヲ得ヘキ場合アレハナリ
 市邑官吏カ怠慢又ハ越權ノ處分ニ對スル責任ハ願訴ニ由リ法律上豫
 メ定メタル行政官衙ニ於テ之ヲ決定ス(千八百六十九年四月二十九日
 ノバエールン(プフルツ)州ノ市邑法第九十條參照)

(第七)市邑ノ事務ニ關シ監督官衙ノ爲シタル始審ノ判決
 ニ對シテハ市邑官衙ニ於テ願訴ヲ呈出スルヲ得

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百六十一條千八
 百五十三年五月三十日ノ普國市府法第七十六節參照)

(第八)監督官衙ハ市邑廳員ノ懲戒處分ヲ掌リ且ツ市邑廳
 ノ有スル懲戒權ノ執行ヲ監視ス

(千八百六十九年四月二十九日ノバエールン市邑法第百六十六條千八
 百五十三年五月三十日ノ普國市府法第八十節千八百三十四年十月二

十三日ノクルヘツセン市邑法第九十四節澳國邑條例第九十二節參照
懲戒裁判手續ニ就テハ千八百六十九年四月二十九日ノバエールン
（フールツ）市邑法ニ參照スヘシ

（第九）國家最高權ノ命令ニ由リ市邑議會ヲ解散スル一ヲ
得但シ此ノ場合ニ於テハ法律上ニ規定シタル期限内必
ス（六ヶ月）改撰ヲ爲スヘキモノトス

（千八百五十三年五月三十日ノ普國市府法第八十節千八百六十九年四
月十四日同上シユレスウ井ツクボルスタイン邑法第六十五節千八百
五十六年四月十四日ノ普國邑憲法第九節千八百五十六年三月十九日
ノウエスフーレン邑法第八十二節千八百三十四年十月二十三日クル
ヘツセン市邑法第百節千八百五十年三月十九日ノブラウンシユワイ
グ市府法第四十四節千八百六十二年三月五日ノ澳國市邑條例第十六
條同邑條例第九十九條參照

第二篇 物ニ屬スル法律

第一款 物ニ屬スル社會法ノ本性及ヒ範圍

第百二十節 總說

物ニ屬スル社會法ハ人類共同ノ文化發達ニ由リテ人類
カ萬物ヲ得有スル法律規則ヲ包括ス

法律上ノ意義ニ於テハ物トハ我ヨリ外ナル宇宙ノ萬物ニシテ各人ノ
得有シ得ヘキモノヲ指ス故ニ物ナル者ハ人類ニ關係ナクシテ人類外
ニ存在スヘキモノナレ且タ人類ノ意思ニ從ヒ當サニ得有シ得ラル
ヘキ資格ヲ備ヘサルヘカラス（チポート氏所著「パンテクテシ」第百六十
七節）フター氏所著羅馬法第二卷第五百十四葉「サビニ」氏所著同上
第一卷第三百三十八葉「アーレンス」所著性法第二卷第九十九葉參照
人ハ權利ノ主体ニシテ決シテ一個物ニアラス奴隸ノ如キ物品ト同視
セラレテ一個人タル權利ナキモノハ決シテ自由ナル一個人ニアラス

トス故ニ人身ノ所有權及勞働權就中勞力ノ如キハ決シテ之レヲ物權
 中ニ列スヘキモノニアラス近世ノ新經濟學家カ勞力ヲ以テ能ク所有
 シ若シクハ賣買シ得ラルヘキモノトナシ勞役契約ニ適用スルニ通常
 賣買法ノ原理ヲ以テセントスルカ如キハ事物ノ大本ヲ知ラサルノ誤
 見ナリ(ハ、リヨースレル氏所著アダムスミス派經濟論評第四章參照)
 私法ニ於テ所謂物ナルモノハ只々取ツテ以テ之ヲ人類
 ノ意思ニ服從セシメ得ヘキ天造物ヲ指スニ過キス故ニ
 今マ此ノ點ヨリ推論セハ物ナルモノハ決シテ權利ノ目
 的物ニテラサルナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ハ、人類カ天造
 物ヲ得有スルハ單ニ事實上ノ事項(即チ占有)ニシテ未タ
 人ト物トノ間ニ嘗テ法律上ノ關係ヲ生セス而シテ人類
 ノ併存孤立ヲ以テ本旨トスルハ私法ノ原則ナレハ斯カ
 ル天造物占有ノ一事ハ尙ホ未タ爲メニ人々相互ノ間ニ

於ケル關係ヲ發生スルニ足ラサルヘシ由是觀之私法ノ
 範圍ニ於テ人類カ天造物ヲ得有スルヲ以テ法律上ノ
 事項タラシメ以テ人ト物ノ法律上ノ關係ヲ生セシメン
 ト欲セハ宜シク各人各個カ天造物ヲ得有セントスル意
 思ノ發顯ヲ以テ法律正理ニ適合セサルヘカラサルモノ
 トスルヲ要ス而シテ此等法律上ノ關係トハ主トシテ人
 々ノ意思ノ諸結果即チ物權ノ得有喪失及ヒ其ノ方法種
 類等ヲ指ス

占有即チ事實上ニ於ケル物件ノ握持ニシテ正當ナル意思ニ基キタル
 結果ナルキハ適法ノ事柄ナレトモ若シ其ノ不正不法ナル意思ニ出ツル
 モノナルトハ必ス他人ノ權利ヲ破リタルモノト云ハサルヲ得ス若シ
 夫レ果シテ然ラストセンカ何人ト雖其ノ意ノ欲スル所ニ從ヒ猥リニ
 物件ヲ占有握持スルノミニテ之レカ所有者タルヲ得ルニ至ルヘシ

然レハ所有ト占有トハ未來其ノ性質ヲ異ニシ所謂眞ノ所有ナルモノ
 ハ全國人民總體ノ意思ニ於キテ其ノ所有タルヲ認了シ之レヲ犯ス
 モノアルニ當リテハ國家最高權ノ助力保護ヲ得テ其ノ權ヲ全フシ得
 ヘキモノナリトス故ニ所有權ハ國家ナル法律上ノ共同体獨リ之レヲ
 制限スルヲ得ルモ社會ナル文化發達ノ事實上ノ共同体ハ決シテ之
 ヲ制限スルヲ得サルナリ然ラハ則所有權ノ何物タルハ社會法上ニ
 關係ナクシテ社會法ノ未タ起ラサル時代ト雖私法上ニ於テハ所有權
 ナル者ノ已ニ存在スルヲ得タルハ理ノ當サニ然ルヘキ所ナリトス然
 レハ占有ノ事實ハ所有ト併行スルヲ得ルノミナラス往々所有權ニ
 反對シテ法律上ニ占有權ナルモノヲ認了シ占有モ亦法律ノ保護ヲ受
 クルヲナキニアラス如何トナレハ所有權ハ只々財產權ノ一部ニシテ
 人類ノ財產ナルモノハ盡ク所有權ノミニアラサレハナリ但シ過半ノ
 場合ニ於テ占有權ハ所有權ニ數歩ヲ讓リ占有權ハ所有權ニ勝ツ能ハ

サルヲ少ナカラス是レ法律ハ常ニ事物ノ順序ヲ定メ單ニ事實ニ屬ス
 ル各人隨意ノ意思(占有)ハ法律ニ定メタル成規(所有)ニ勝ツヲ能ハスト
 スルノ致ス所ナリ然レハ又一方ニ於テハ所有權ハ通常占有ニ由リテ
 得有シ且ツ所有ノ事實ハ現ニ占有ト違ク分離スルヲナキノ事實ヲ看
 過スルコアルヘカラス(私法上占有ト所有トノ關係ニ就キテハサビニ
 一氏所著占有權論プロファ一氏所著羅馬法第二卷第五百二十九葉ワル
 テル氏所著性法及政治論第百五十七節フイヒテ氏所著道義學第二卷第
 九十四節ヲ参照スヘシ)

(按)所有權ト占有權トノ區別關係ニ就キテハ學者中極メテ詳密ノ議論
 アリ其ノ學理ニ於テモ英米ノ學者ト獨佛ノ學者ト稍々其ノ趣ヲ異ニ
 スル所少ナカラス譯者ノ著述ニ係レル法理學講義(警視廳藏版)第七號
 中當テ之ヲ畧論シタルコアリ大ニ讀者ノ參考トナルヘキモノアルヲ
 以テ今マ左ニ之ヲ抄出ス

第一 物品ヲ占有シテ他人ヨリ掠奪セラレサルノカアル
第二 占有セントスル意志アル

右ノ二元素具備セサレハ以テ占有ト稱シ難シ之レカ例ヲ舉ケレハ今
茲ニ天涯ヲ望ミ鴻雁ノ遙カニ蹤ケルヲ見テ之レヲ得ント欲スルノ意
頻リニ起ルト雖ヒ遂ニ之レヲ得ルノカナシ之レ意志ノミアリテ其力
ナキ場合ニシテ占有ト云フヲ得ヌ又路上ニアリテ戯レニ石ヲ拾ヒ忽
チ之レヲ放擲スルハ其採拾スルカアレヒ占有スルノ意志ナキカ故ニ
亦以テ占有ト云フヘカラス是ヲ以テ此ノ二元素相合シテ始メテ占有
ノ權ヲ生出スヘキナリ

第一 占有ニ要スルカヲ論ス

羅馬法ニ於キテハ此ノカヲ名ケテ「コルプス」ト云フ蓋シ他ヲ反排スル
ノ義ナリ然レハ此ノ占有ニ要スルノカハ強チ其物ヲ握持スルヲ要セ
ス之レヲ例セハ兵士ニシテ其携持スル銃炮ヲ交錯俾立セシメ其傍ヲ

ニ休憩スルアルニ當リテ假令ヒ其兵士銃炮ヲ握持セサルモ亦他ノ之
レヲ奪去スルヲ反排スルノカアルカ故ニ乃チ以テ占有ニ要スヘキカ
ヲ有スル者ト云フヘシ故ニホルランド氏ハ凡ソ占有ニハ他ヲ制スル
ノカアレハ事充分ニシテ敢テ之レヲ握持スルノカアルヲ要セスト云
ヘリ今茲ニ其占有ノ事ニ關シテ數種ノ喩例アレハ之レヲ左ニ列舉シ
テ其詳細ナルヲ示サン家内ニ米穀ヲ蓄ヘ置クノ家アリト假定シ此ノ
家ノ主人ハ假令ヒ其米穀ヲ把持セサルモ亦占有ノ權アリト云フテ可
ナリ然レハ今住所地内二百丈ノ下ニ寶玉ノ埋没シアルヲ知リテ此ノ
寶玉ハ我カ占有ナリト云フモ世人許サヘルヘシ蓋シ此ノ時ニ於キテ
ハ未タ之レヲ掘採セサレハ以テ占有ト云フヘカラス又雉子ヲ狙撃シ
巧ミニ之レニ的中シテ數間ノ距離ニ落チタルノ雉子アリト雖ヒ寶玉
ノ例ト同シク未タ手ニ取ラサレハ占有ト稱スルヲ得ヌ又漁獵ニ關シ
テモ種々ノ判決アリ今先ツ其漁獵ノ景狀ヲ舉ケンニ大川ノ中流ニ於

キテ左右漁船ヲ列シ其中央ニ羅網ヲ張リ以テ漁ニ從フナリ此ノ時ニ
 アリテ圍中ノ魚屬大小ヲ問ハス皆漏脱ノ途ナクシテ已ニ其漁夫ノ占
 有ニ歸シタルカ如シト雖モ未タ尙ホ占有ノ權ナシト判決セリ其理由
 何トナレハ魚屬或ハ漏脱スルヲナキヲ保スル能ハサレハナリト是故
 ニ此ノ時ニ於キテ他ノ漁夫其圍中ニ入り其魚屬ヲ漁スルモ亦云々ス
 ル能ハサルナリ又一ノ判決例アリ亞米利加氷州近海ニ於キテ鯨ヲ獵
 スルヲ是レナリ其獵方ハ有銘ノ手裏劍ヲ鯨ノ身体ニ抛擲スルノコトニ
 シテ乃チ其鯨ノ占有ハ第一着ノ抛擲者ニ歸セリ夫レ或ハ前ノ例ト類
 類スルナキカノ疑ヒアレモ此等事實上ノ問題ノ如キニ至リテハ裁判
 官ノ判決ニアラスシテ專ラ陪審官ノ判定ニ係ル者ナレハ其判決例モ
 亦此ノ如キコトアルハ已ムヲ得サルニ出ツルナリ
 茲ニ又一ノ注意スヘキ事アリ即チ凡ソカハ其之レアルコトヲ現ハスノ
 ミニシテ可ナリ敢テ其大小ヲ問ハサルナリ之レヲ例セハ深山幽谷ノ

間ニ於キテ金囊ノ遺失シアルニ其金囊ノ左右各々二十間ノ距離ヲ去
 リ二人ノ人アリテ其一人ハ顔色粗暴筋骨強剛ナル盜賊ニシテ一人ハ
 容姿温和體格柔軟ナル少年ナリ而シテ其少年走り往キ其金囊ヲ握持
 シ終レリ此ノ時ニ當リテ若シ其盜賊拾ヒ去ル勿レトノ言モナク黙視
 シタルニ於キテハ其占有權全ク少年ニ歸シテ復タ動カス能ハサルナ
 リホルム氏之レヲ評シテ少年ニ歸シタル占有ノ堅固ナルコト恰モ百千
 ノ巡查アリテ其少年ノ前後ヲ警護スルカ如シト以テ其力ノ強弱ヲ問
 ハサルヲ知ルヘシ

第二 占有ニ要スル意志ヲ論ス

此ノ意志ヲ甲乙丙ノ三類ニ區別ス即チ左ノ如シ

甲 奴婢等ノ主人ノ品物ヲ提携スル場合ノ如キ者ニシテ其占有ノ
 意甚タ妙少ナリ故ニ他人ノ其物品ニ危害ヲ加フルノ懼レアラサ
 レハ敢テ他ノ把持スルヲ咎メサルナリ

乙 借地人預リ人等ノ如キ者ニシテ之レヲ甲ニ比スレハ其意志稍々大ナリト云フヘシ

丙 竊盜ノ如キ者ニシテ占有ノ意志之レヨリ大ナル者ナシ即チ竊盜ナル者ハ他人ニ屬スル或種ノ物品ヲ占有スレハ其事ヲ掩蔽シテ所有權ヲモ併セ有セント欲スル者ナリ

ホルラント氏ノ所説ニ從ヘハ以上三個ノ場合ニ於キテ甲ニ位スル者ハ別ニ占有ノ意志ナキ者トシ唯々乙丙ノ場合ニ於キテノミ專ラ占有ノ意志アリトセリ

以上甲乙丙三個ノ中ニ就キ其乙ニ位スル者ニ於キテハ議論百出殆ト其取捨ニ惑フ者ノ如シ即チ先キニ言フカ如ク所有スレハ乃チ占有ストノ言ニ從フキハ同物ヲ二人ニテ占有セリト云ハサルヘカラサルノ場合アラント土地貸借ノ如キ貸主借主ノ間ニ於キテ其占有何レニ歸スヘキヤ又一坪ノ地内ニ兩人足ヲ入レ此ノ地ハ我カ占有スル所ナリト

争フキハ其占有果タシテ何レニ屬スヘキヤ其判定容易ノコニアラサルヘシ蓋シ羅馬法ニ於キテハ借地人ハ敢テ占有スル者ニアラスシテ恰モ奴婢ノ如ク更ニ其占有ノ意志ナキ者トセリ然レハ英國ノ法律ニ於キテハ之レト異ニシテ預リ人借地人ノ如キモ皆占有者トセリ唯々預リ地主ニ對シテ其權ナキノミニシテ其他ノ者ニ對スル時ハ充分ニ其權ヲ主張シ得ヘク故ニ若シ借地ノ内ニ亂入スル者アレハ之レヲ捕ヘテ訴フルハ借地人ノ權ニ屬シ地主敢テ起訴スルニ及ハサルナリ之レヲ概論スレハ羅馬法ハ占有ヲ保護セスシテ英國法ニテハ之レヲ保護スト言フニ過キス然レハ羅馬法ニ於キテモ陽ニハ之レヲ保護セサルカ如シト雖モ種々ノ名義ニ依リ陰ニ之レヲ保護スルヲ常トス俗ヲ羅馬法英國法ヲ問ハス如何ナル理由ニヨリテ占有ヲ保護スル者ナルヤ次ニ之レヲ講セン

占有ヲ保護スル理由

夫レ占有權ノ論タルヤ至難ニシテ諸學者之レヲ評シテ法海中ノ玄海
灘ト云ヘリ是故ニ占有ヲ保護スル理由ヲ説クニ當リ或ハ前言ト重複
スルコトアルヤモ知ルヘカラス諸君之レヲ恕セヨ
占有ノ理論タルヤ歐米學者中左ノ二派ニ分ル

第一 大陸諸邦ノ説

大陸諸邦ノ説中獨逸ノ説尤モ其勢ヲ得ル者ナレハ專ラ獨逸ノ説
ヲ舉ケン是レ蓋シ羅馬法ヨリ分派シ來タルニ過キス而シテ獨逸
ノ説又左ノ三種ニ區別ス然レモ今此區別ヲ爲スハ別ニ理由アル
ニアラス唯々講述ノ便宜ニ因ルノミ

甲 自由説

ブルンスガンスヘーゲルカント等ノ諸學等ハ皆自由説ニシテ
今此ノ講述ニ於キテハ主トシテカントノ説ヲ述ヘン抑モ彼ノ
カントナル學者ハ佛國ニテ有名ナルルソーノ説ニ心醉スル

者ナルニ因リ彼ノ人權布告中ニアル詞即チ人類ハ生レナカラ
ニシテ自由平等ナリトノ説ニ從ヒ之レヲ其法理ノ基礎トシ特
ニ其自由ヲ採リテ曰ク凡ソ思想ノ自由ハ貴且ツ重ナルモノニ
シテ法律ハ其自由ヲ保護シ政府ハ其自由ヲ維持スルヲ以テ其
目的トセサルヘカラス而シテ占有トハ他ナシ其思想ノ範圍内
ニ物品ヲ持來タヌニ過キス然ラハ則チ自由ニ一物ヲ占有スル
者アレハ政府ハ必ス之ヲ保護セサルヘカラス故ニ獨リ國家ニ
於キテ之ヲ奪フノ外又誰レカ之レヲ奪フヲ得ンヤト是レ其第
一説ニシテ之レヲ駁スル者ノ説ニ曰ク斷然ト其占有ヲ保護ス
ルハ果タシテ何レノ時ヨリ爲スヘキヤト今現ニカントノ説ニ
從ヘハ占有ニハ必ス其物品ヲ自己ノ所有ニ爲サント欲スル目
的ナルヘカラスカ如シ然レモ余ヲ以テ之レヲ見レハ所有
スルノ目的ハ敢テ占有ニ要セサル所ナルカ如シ

羅馬法ニ於キテモ占有ニハ其所有スルノ目的アルヲ要セシカ
是レカントノ説ヲ助補シタル所以ノ一ナリ即チ羅馬法ニ因レ
ハ抑モ占有ト稱スヘキ者ハ其意中經時ノ効ヲ得テ其占有シタ
ル物品ヲ所有ニセント欲スルノ目的ナクンハアラヌ是故ニ借
地人受托人等ハ別ニ占有者ト云ハサルナリ

乙 平等説

ウ井ントシヤイドイェリンク等ハ皆平等説ニシテ是レ亦ル
ソノ説ヨリ生シ來タル者ナリ即チ甲説ハ自由平等ノ中ニ就
テ其自由ヲ主眼トシ此レハ平等ヲ基礎トシテ其説ヲ構成セリ
蓋シ其説ニ曰ク人類ハ平等ナレハ他ヲ害シテ己レヲ利スル能
ハス若シ此ノ事アレハ法律之レヲ罰セサルヘカラス是レ萬世
ノ理ニシテ今此ノ理ヲ推シ占有ノ事ニ及ホスヲ得ヘク乃チ一
物ヲ占有スル者アラハ他人之レヲ奪フ能ハサルハ論ヲ待タス

シテ若シ之レヲ奪フ者アラハ平等ヲ害スルモノトシテ法律之
レヲ罰シテ其占有者ヲ保護セサルヘカラストブルンス氏此等
ノ説ヲ駁シテ曰ク若シ此ノ平等説ニ從フ者トセハ法律ハ唯々
先キニ占有シテ其物件ヲ奪レザランコトヲ防ク者ノミヲ保護シ
テ抗擊者ヲ顧ミス防禦者毎ニ利ニシテ抗擊者毎ニ不利ヲ蒙ル
ノ弊ヲ免ル、能ハスト

丙 人身保護説

此ノ説ハ別ニ名ヲ附スル程ニモアラサレモ唯々占有ヲ保護ス
ルハ人身ヲ保護スルニ均シトセリ蓋シ他ノ占有ヲ奪ハント欲
セハ必ス其占有者ノ身體ヲ侵害セサルヘカラス已ニ法律ニ於
キテハ身體ヲ侵害スルコトヲ禁スル者ナレハ又從テ其占有ヲモ
保護セサルヘカラスト之レニ反對スル者曰ク占有ヲ奪フニハ
別ニ腕力ヲ出シテ人身ヲ侵害スルニ及ハサルコトアルヘシ即チ詐

偽ヲ擄ヘテ之レヲ奪フノアヲハ是レ人身ヲ侵害セサルナリト
已上ハ獨逸學者ノ説ニシテ以下英國ノ説ヲ述ヘシ

第二 英國ノ説

英國ノ説ハ全ク已上ノ諸説ト異ニシテ凡ソ占有ニハ之レヲ所有
スルノ意志ヲ要セス。只々他人ノ占有ヲ拒ムノ意志ヲ以テ充分ナ
リトスルカ故ニ借地人受托者等ノ如キモ之レヲ占有者ト做シテ
保護ヲ與ヘタリ夫レ斯ノ如ク所有ノ意志ハ要セサル者トシタル
カ故ニ別ニ難件ノアルコトナシ曾テ獨逸ニ於キテ借地人ヲ保護ス
ルノ條例ヲ發シタルコトアリシカ獨逸ノ學者ハ喋々トシテ其非理
ナルヲ論シ道理ヲ曲ケテ便利ノ奴隸ト爲シタリトセシカハ英國
ハ之レヲ見テ却テ得色ヲ顯ハセリ而シテ英國ノ説ハ如何ナル者
ヲ基礎トシテ此ノ説ヲ爲セシヤト謂フニ別ニ其理由アルニアラ
ス只々慣手ナル便利主義ヲ以テ立論ノ根本トセリ故ニ其判決例

ニ於キテモ往々差違アルヲ見ル今二三ノ例ヲ擧グレハ「グリーラ
ンド」ニ於キテ鯨ヲ獵スルニ當リ最初ニ手裏劍ヲ擲中シタル者若
シ之レヲ逃避セシメハ已ニ其占有ノ權ナシト判決シ之レニ反シ
テ「カリバート」ニ於キテハ先キノ手段ヲ以テ鯨ヲ獵セハ假令ヒ逃
逸シタルモ其ノ第一着劍者ハ利益ヲ當分シテ其ノ一ヲ保ツヘシ
トセリ此ノ如ク差ノアル所以ハ唯々便宜ニ從フノミ有名ナル裁
判官マンズフヒールド曾テ言フアリ曰ク占有ノ事ハ所有權等ノ
如ク一定シタル法律ノ證據ノ存スルアリテ之レヲ證明スルモノ
ニ非サルカ故ニ若シ便宜ニ從ヒ判決例ヲ設ケテ占有ヲ保護セサ
レハ終始爭論ノ絶ユルナシ是レ占有權ヲ保護スル所以ナリトホ
ルム氏モ亦便宜ヲ主トシテ沿革法理ヨリ之レヲ論シ尤モ善美ヲ
盡シタリ

此ノ他ハ前已ニ論シタルコトニシテ又々茲ニ説クハ重複ノ懼レアレハ

注意ヲ要スヘキノ「ア」レハ敢テ反説スルヲ厭ハス蓋シ其説カントス
 ル者ハ占有ノ解剖是レナリ先ツ之レヲ解剖シテ占有ハ權利ナルヲ將
 タ事實ナルカト謂フニ此ノ事ニ關シテハ獨逸ニ於キテ難論辨駁至ラ
 サル處ナシ之レニ反シテ英國ニ於キテハ恬トシテ敢テ關スルナキカ
 如ク其所説ヲ聞ケハ占有ハ即チ占有權利ハ即チ權利ナリト無味淡泊
 又難論ノ存スルナシ且曰ク事實ト權利トハ併立シテ離ルヘカラス即
 チ事實アル所權利モ亦存シ權利アル所事實モ亦存スト
 上來論スル如クナレハ占有ノ事實トハ果タシテ如何ナル者ナルヤヲ
 研究セサルヘカラス而シテ事實トハ意志ト力量トヲ要スル「イ」是レナ
 リ今先ツ力量ヲ要スルノ證ヲ舉クレハ世界ノ中ニ唯々二人ノ住ム者
 アリテ且ツ一人ハ牢獄ニ入り他ノ一人ハ其閑園ノ鑰ヲ所持スル「イ」ア
 リト假定セヨ此ノ時ニアリテ青空燕子ノ翩翾トシテ飛行スル「イ」ラン
 ニ鑰ヲ所持スル者ノ外ニ人ナキカ故此ノ燕子ハ其占有スル所ナルヤ

ト云フニ是レ決シテ占有ト稱スルヲ得ス蓋シ之レヲ獲取スルノ力ナ
 ケレハナリ又獵者ニシテ銃ヲ擬シ兎ヲ追フ者「イ」ランニ此ノ時ニ於キ
 テハ已ニ其占有ニ歸シタルカ如シト雖モ未タ占有シタリト謂フヘカ
 ラサルナリ蓋シ未タ其兎ヲ獲取シタルニアラサレハナリ
 其他凡人ヲ除去スル意ヲ要スル「イ」ニシテ羅馬ニテハ之レヲ「アニムス
 ドミ」ト稱シ英國ノ説ト羅馬ノ説ノ分ル、處ハ實ニ此ニアリトス
 即チ英國ニ於キテハ他人ニ干涉セシメサルノ意アレハ以テ足レリト
 爲シ羅馬ニ於キテハ所有セントスルハ意志ナカルヘカラストセリ茲
 ニ好例アレハ之レヲ左ニ舉ク

今呉服店アリテ來客其店頭ニ金囊ヲ遺失スルアリ主人未タ之レヲ覺
 ラサルニ次キニ來タレル客之レヲ拾ヒ得タリ此時ニアリテ其占有ノ
 權ハ何レニアルヤト謂フニ呉服店ノ主人ハ未タ其遺失物アルヲ知ラ
 サルカ故ニ他人ヲシテ之レニ干涉セシメサルノ意ナキハ論スルマテ

モナク又從テ之レヲ拾得スルノカモアルヲナシ此ノ場合ニ於キテハ英國羅馬共ニ其説ヲ異ニスルヲナク占有ハ來客ニ歸スト雖モ若シ主人ノ居間ニ於キテ此ノ如キヲアレハ英國ニ於キテハ其占有ノ權主人ニアリト爲ス蓋シ其理由トスル處ハ大ハ小ヲ含ムノ道理ヲ推シ乃チ居間ノ大ナル者已ニ其主人ノ所有ニ屬シテ他人ヲ入ラシメサルノ權アレハ其ノ處ニ遺失シタル物ヲ拾ハントシテ來タル者アルモ之レヲ拒絕スルヲ得ヘシ故ニ其遺失物占有ノ權モ亦主人ニアリト爲セリ之レニ反シテ羅馬ニ於キテハ假令ヒ其居間ニ遺失シアルモ主人ノ占有ニ歸スルヲナシ其理由トスル處ハ主人未タ其遺失シアルヲ知ラサルカ故ニ之レヲ所有ニセント欲スルノ意モ亦從テアルヲナケレハナリ已ニ其意ナケレハ以テ占有ノ權アリト云フヲ得スト然レモ余ハ英國ノ説ヲ以テ其理ニ適スル者ト爲サ、ルヲ得ス尙ホ一例アリ海岸ニ居ヲ占ムル者アランニ潮流木材ヲ送り來タリテ其所有地内ニ入レタ

リ此ノ時傍看スル者アリテ意ヲク今木材某ノ地内ニ流入セリ夫ノ木材ハ果タシテ誰レノ所有ナルカ未タ知レサレハ己レ往キテ之レヲ占有セント走リテ其門ニ到ルモ其地ノ所有主ハ其闖入ヲ防禦スルノ權アレハ其人ヲ拒絕シテ敢テ其木材ヲ拾フヲ許サ、ルヲ得ヘシ是レ蓋シ大ハ小ヲ含ムノ理ヲ推シテ其木材モ土地所有者ノ占有ニ歸スヘキノ道理ナレハナリ

上來述ヘタルカ如ク英國ノ説ハ所有ノ意志ナキモ占有ノ權アリトセリ然レモ茲ニ一ノ矛盾スルヲナキ能ハス即チ奴婢ノ主人ノ器具ニ就テ占有ノ權ナシトスルヲ是レナリ是レ蓋シ奴婢ハ別ニ其器具ヲ所有トスルノ意志ナキカ故ナルヘシ羅馬派ノ學者ハ此ノ點ニ乘シ英國ノ説ヲ論難シテ曰ク見ルヘシ奴婢等ニ占有ノ權ナシトスルハ之レ其所有ノ意志ナケレハナリ故ニ占有ニハ必ス所有ノ意志ヲ要スルヤ疑フヘカラサルナリトホルム氏沿革法理ニ因リテ之レヲ辯シテ曰ク凡ソ

主人ト奴婢トノ制度ハ奴隸ノ制度ヨリ轉化シ來タル者ニシテ抑モ奴隸ノ制度ハ之レヲ第十一章ニ論シタルカ如ク其第一ハ物品ニシテ次
 キニ犬トナリ尙ホ進ンテ奴隸トナリタル者ナレハ英國人ノ奴隸ヲ見
 ルヤ恰モ其手足ト異ナラサルノ感ヲ爲シ敢テ他人ヲ以テ之レヲ目サ
 ヲルナリ故ニ自己ノ手足同様ノ者ニ物品ヲ預クルヤ或ハ預ケサルヤ
 或ハ占有權ノアルヤ否ヲサルヤ等ヲ論スルニ及ハサルナリ故ニ若シ
 其主人奴隸某ニ對シ汝チニ之レヲ預クルナリト明言シタルアラハ此
 ノ時ニアリテコソ奴婢ニ占有ノ權アルヘシ如何トナレハ此ノ時ニハ
 奴婢ノ資格ヲ變シテ一個人ナル某ノ資格トナレハナリト以テ英國奴
 婢ノ制度ヲ保護シテ羅馬學派ノ說ニ抗シタリ

右等私法上ノ事項ハ社會法ト全ク關係ナキモノナルカ
 故ニ私有財產權ノ類別、財產權ノ得有、喪失ノ方法及之ヨ
 リ生スル法律上ノ結果ハ社會行政法ノ敢テ論スル所ニ

在ラサルナリ

行政法ニ於テハ一般所有者占有者等ノ區別ヲ論セス且ツ財產上各人
 各個ノ私權利ニ關スルモノ、如キモ之ヲ法衙ノ判決スル所ニ一任ス
 レド建築警察水上警察道路警察隣地權等ニ關スル成規ハ正ニ行政法
 中ニ屬スヘキモノニシテ單ニ私權利ノミニ關スル訴訟ト全ク其性質
 ノ異ニスヘキモノタリ

然レモ社會行政法ハ敢テ占有ニ關スル事項ヲ放棄シ更
 ニ顧ル所ナキモノニアラス社會法ニ於テモ亦社會上ノ
 關係ヨリ之ヲ論述スレモ只々占有ヲ以テ天然上ノ事實
 ノミト見做スナキノミ今之ヲ畧言スレハ即チ左ノ二
 項ノ原則ニ歸ス

(第一)社會行政法ハ物ヲ以テ社會共同体ノ得有シ得ヘキ
 主体ニシテ人類文化發達作用ノ方便ト見做シ夫ノ私法

カ之ヲ以テ我ヨリ外ニ存スル自由ナキ天然物ノ一部ト
スルモノト大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ故ニ行政法ハ物ヲ以
テ單ニ物ナリトセス物ノ名目類別ノ如キモ其ノ社會進
化ノ方便タル性質ヲ本トシテ之レカ標準ヲ一定ス

行政法ニ於テハ一物ヲ以テ單ニ一物ナリトシテ之レヲ論述スルコトナ
ク常ニ土地資本、家屋、道路、水道、礦産、原野等社會進化ノ關係ヨリ之ヲ類
別シ敢テ他ノ關係設令ヘハ私法上ニ於テハ權利義務ノ性質等ノ如キ
モノヲ以テ財産ノ種類ニ分割スルノ標準トスルコトナシ現ニ私法ニ於
テハ物ヲ分ツテ共有物、代表物、分割シ得ヘキ物、集合物、主タル物、從タル
物等ノ數種トスレモ是レ單ニ私法ノ目的ニ從テノミ必要ナル分類法
ニシテ行政法ニ於テ敢テ必要トスル所ニアラス(チホート氏所著パン
デクテン第百六十八節)フタ氏所著羅馬法第二卷第五百十四葉參照
(第二)社會行政法ハ物ヲ得有スル所ノ人ニ就テモ個々孤

立ナル天然上ノ關係ヨリ論述スルコトナリ專ラ社會法上
ヨリ考察シ且ツ人々ノ意思ノ如キモ亦只タ人々ノ屬ス
ル所ノ文化共同ノ社會ニ由リテ制限セラルヘキモノト
ナス

行政法ハ人々ヲ以テ自由ニシテ且ツ近世社會中ノ一員タルヘキモノ
ト見做シ社會法ノ原理ヨリ之レヲ考察ス故ニ人々ハ自由ニシテ毫末
ノ束縛ヲ受クルコトナシト雖單純ナル一私人ノ意思ニ至リテハ社會法
ノ制限ヲ受クヘキモノナリトス

第二百二十一節 社會物上權及ヒ私有權ノ關係
物ニ屬スル社會行政法ハ單ニ私法中ノ財産篇ヨリ成立
スルモノニアラス獨立ナル一派ノ範圍ヲ有スル法律ニ
シテ其ノ淵源ハ天然上人類孤立併存ノ區域ヲ超ヘテ人
類發達進化ノ共同社會ニ在リ

社會行政法ハ斯ク文化發達ノ社會ニ淵源スト雖人類ニハ又各々一個ノ獨立人タル資格アルヘキモノナレハ私法ニ基キタル一般ノ私有財產權ヲ度外視スルコトヲ得スト雖又々各人各個ハ文化發達ノ共同体ナル社會ノ法律ニ犯スルコト得サルナリ故ニ物ニ屬スル社會行政法ニ於テモ人類各人各個ハ各々其ノ意思獨立ヲ有スルモノトスル原則ヲ認了シ敢テ之ヲ拒ムモノニアラサルナリ碩學アーレンス氏カ其ノ著書性法論(第二卷第百〇九葉)ニ於テ「パンテイスム」及ヒ「實物主義説」ノ論者カ人類ヲ以テ宇宙ノ現象若クハ實體ノミニ過キスト考量シ各人特別ノ私有財產アルコトヲ認メサルカ如キコトアラハ其ノ論理ノ結果タル遂ニ共產主義ニ歸スルニ至ルヘシト云ヘルハ頗ル正當ノ所説ト云フヘシ之レニ反シテ又一種ノ論者設令ヘハワルテル(同氏所著自然法及政治論第百六十九節)ノ如キハ財產ノ社會上ニ於ケル諸關係ヲ以テ國權ニ基クモノトスレド此等社會上ノ關係タル國家ノ必スシモ之ニ參與

スヘキモノニアラサレハ素リ誤認ノ見タルヲ免レスト但シ此等社會上關係ノ事件ヲ實行スルニ就テハ自ラ國家ノ權力ニ依頼セサルヘカラサルハ勿論ナリ(アーレンス氏所著性法第二卷第七十三節)ホルネマン氏所著普國民法第一卷第四百四十九葉レーデル氏所著性法第二卷第三百〇八葉參照)

(按)「パンテイスム」主義トハ宇宙全一体ハ即チ神ニシテ此天地ノ間ニ顯象スル所ノ諸種ノ自然力及其ノ法則ノ外別ニ神ナル者ナキ所以ヲ主張スル一派ノ説ヲ云ヒ實物主義マテリアリズムトハ凡ソ宇宙ノ間ニハ精神的即チ無形ノ物ナク人類ノ靈魂ノ如キモ亦有形ナル人体中ニ存スル物体カ特種ナル組織ヲ成シタル結果物タルニ過キストスル學派ヲ云フ

社會上占有ニ關スル事項ハ文化發達ニ關スル事項タルニ外ナラサレハ私人一個ノ意思如何ニ關係スル所ナシ

蓋シ私人一個ノ意思タルヤ全ク私人一個ノ自由ニ之ヲ
 處分シ得ヘキモノナルヲ以テ社會進化ノ結果如何ハ敢
 テ其ノ願ル所ニアラス今マ若シ之ヲ私人一個ノ意思ノ
 ミニ放任スルトアラハ社會ノ必要ナリトスル事項ハ遂
 ニ其ノ實行ヲ見ルト能ハサルモノ頗ル多カラム故ニ天
 造物得有ニ關スル近世社會法ノ何物タルヲ知ラント欲
 セハ獨リ物ニ關スル私法上ノ論理ヲ以テ充分ナリトス
 ルトヲ得サルナリ要スルニ物ニ關スル私權利ハ只々各
 人各個ノ執行スル權利義務ヲ包含シ物ニ屬スル社會法
 上ノ權利ハ之レカ執行ニ由リテ社會的諸狀態ヲ發生ス
 ルモノヲ包含ス然ラハ則チ社會法上ニ於テ所有者ニ屬
 スル權利ハ近世文化發達ノ結果ニシテ共同一般ノ文化
 ニ關係スル所ナキ私法ノ論點ヨリ考察スヘキ私有財產

權ノ結果ニアラストス故ニ社會法ノ自由ヲ以テ財產權
 ニ適用スル片ニ於テモ亦之レヲ所謂單純完全ナル所有
 權ヲ剝奪スルモノト做ストアルヘカラス

社會權ト私權利トハ斯ク相異ナルモノナレハ此ノ區別ニシテ明カナ
 ラスンハ所有權起源ノ如何ヲ論究スルニ就テモ亦多少ノ異説ヲ發生
 ス抑モ私有權ナルモノハ全ク事實上ノ占有ニ基クモノナルヲ以テ通
 常占領及ヒ傳來ニ淵源シオツキニエーレン トラジレン期滿得權及「スベシ」フカシヨニエーカヒヤン他人ノ物品ト自自己ノ物品ト己ノ物品ト
 ノ所有ニ歸セシムル場合ヲ云フ如キモ廣ク之ヲ占領ノ一種ト見
 做サ、ルヘカラスト雖モ之レニ反シテ勞働ハ決シテ私有財產得有ノ
 一淵源タルヲ得ス如何トナレハ勞働ナルモノハ單ニ藝術的アケニカル事業ニ
 シテ物件ヲ占有セントスル意思ニ出テタル法律上ノ行為ニアラサレ
 ハナリ故ニ所有權ノ淵源ヲ以テ或ハ占領ニ在リト云ヒ或ハ契約ニ在
 リト云ヒ或ハ法律ニ在リト云ヒ或ハ勞働ニ在リト云フカ如キハ皆ナ